

# 日中国交正常化五十周年にあたり

葛飾吟社会長 長谷川 隆

西暦 2022 年、今年の日中国交正常化五十周年の年に当たります。五十年程前、駆け出しのサラリーマンだった私の頭の中を時に流れていたのはビートルズの歌でした。覚えている歌はジョン・レノンのイマジンはです。

Imagine there's no heaven  
It's easy if you try  
No hell below us  
Above us only sky  
Imagine all the people  
Living for today

それから五十有余年が過ぎました。葛飾吟社に参加して、私の頭の中には詩詞が去来するようになりました。多くの中国の詩友とも相知る仲となりました。

古来、中国との交流は二千年になんなんとすると聞きます。いまさら国交正常化五十周年とはおかしな言葉です。杜甫の『春歸』の詩の最後の数句に触れてみたいと思います。

世路雖多梗，  
吾生亦有涯。  
此身覺復醉，  
乘興即爲家。

特に吾生亦有涯の句、私たちが生きているのは長い日中交流の歴史の中で僅か近時の五十年ほどだということです。

時に覚め時に酔いながら同時代の人々が交流を深めていく両国だと思います。

葛飾吟社の活動は中山正雀先生創設の世代から次世代へと移りつつありますが、今回の梨雲記念号では世代を越えて葛飾吟社に連なる日中の詩友が作品を寄稿しています。両国の詩人が葛飾吟社を交流の場として、それぞれ次世代へと交流を深め継続していくことを願ってやみません。

# 寫在日中国交正常化五十周年

葛飾吟社会長 長谷川 隆  
徐依苹 譯

公元 2022 年是日中国交正常化五十周年。五十年前，我剛剛參加工作成為工薪族一員。當時英国披頭士樂隊風靡一時，許多名曲在我的腦海回蕩，至今仍記得約翰列儂的『思考』

Imagine there's no heaven  
It's easy if you try  
No hell below us  
Above us only sky  
Imagine all the people  
Living for today

五十年的歲月飛也似地過去了，我參加了葛飾吟社，開始漢詩詞創作。詩詞又在我的腦海回蕩，通過漢詩詞交流我結識了很多中国詩友。

自古以來，日本和中国一直有著往來交流，據說已經有二千多年的歷史。現在我們說國交正常化五十周年，多少有點兒恍惚，這使我想起了杜甫的著名詩句：

世路雖多梗，  
吾生亦有涯。  
此身覺復醉，  
乘興即為家。

特別是對『吾生亦有涯』一句深有感慨。我覺得，我們暫短的人生僅僅是在漫長的日中交流歷史中的短短五十年啊！我們時醉時醒，同時代的兩國人民在各自的時代從未停止過相互往來，正是不斷加深交流的日中兩國。

葛飾吟社的活動已經從中山道雀先生創設的一代轉移到新一代。這次的梨雲紀念号，連接葛飾吟社的日中兩國詩友寄來了大量作品。兩國詩人以葛飾吟社為交流的舞臺、為日中兩國的文化交流而竭盡全力。我們的共同心願是要把日中友好的接力棒傳給下一代再下一代，世世代代繼續下去。

## 『梨雲』日中国交正常化50周年特集号に寄せて

日本中国文化交流協会

専務理事 中野 暁

葛飾吟社『梨雲』が“日中国交正常化50周年特集号”を刊行されましたこと、心よりお祝い申し上げます。

葛飾吟社は、世界各国の漢詩詞を愛好する人々と文化交流をする組織です。吟社の役員・会員諸氏は創始者の中山栄造氏の志を受け継ぎ、四半世紀にわたり活動されてきました。作品交流の相手先は、中国全省都並びにフランス・アメリカ・タイ・マレーシア・シンガポール・オーストラリアなどの広範囲に及ぶとのこと、長年にわたるご尽力には敬服するばかりです。

2005年3月23日に中国・北京で開催された漢俳学会成立慶式典には、日本俳壇四団体と葛飾吟社の代表が招かれました。日本からは金子兜太、有馬朗人の諸氏らとともに、吟社の中山栄造、今田述両氏が参加されたことが、つい最近のことのように思い起こされます。

三千年前に生まれた『詩経』以来、詩詞は韻文形式の文学表現として、今日まで発展してきました。この間、世界で戦乱や疫病が社会を席卷しようとも、その魅力は色褪せることなく蘇り、今日まで伝わっています。昨今、日本でも、これまでの高齢化や経済不況に、コロナ感染が加わり、文化活動に大きな影響が出ています。しかし、いかなる困難があろうとも、詩詞の魅力は変わらないのです。志ある人が、世界の同好の士と志を一つにして、新たな時代の交流の形を創造し、友情を深めていただきたいと願っています。

## 交流のバトンを渡す 葛飾吟社理事 小畑節朗

漢詩・詞創作団体「葛飾吟社」は。「中国詩壇との交流により、本場中国詩壇に通用する漢詩・詞を創作する」をモットーに創設された。

始めは、創設者中山栄造氏が個人で地道な交流を積み上げ、面談、文通により中国全土に四百名に余る詩人との知遇を得た。

吟社として本格的交流は1997年9月、中日友好協会・中華詩詞学会より招聘を受け、北京協商会議所で開催された「中山栄造新短詩研討会」であった。

当日の中国側出席者は、林林氏を筆頭に、李茫、徐放、林岫、屠岸、紀鵬の諸氏ら、漢俳を手掛け始めていた錚々たる面々が詩詞に対する熱い思いを吐露したのであった。

2000年には「迎接新世紀中日短詩交流会」を北京で共催、翌2001年、日中両国詩人八六名が参加するアンソロジー『迎接新世紀日中短詩集』を葛飾吟社が刊行。続いて、2002年東京で林岫、鄭民欽両氏による、中国新短詩をテーマとする講演会を開催、2004年には「中日短詩研討会」を北京で開催、同年10月日中合同詩集『梨雲一邑』を刊行した。

特筆すべきは、2005年3月、「中国漢俳学会設立大会」に日本俳壇の大御所、金子兜太、有馬朗人の諸氏らと共に、漢詩界からは唯一葛飾吟社が招待され中山栄造、今田述の両氏が参加したことである。

漢詩には古来より、交際の作法として「次韻(歩韻)」と言う詩の応酬方法がある。それは、相手が作った詩作品の脚韻の”文字”そのままを用いてお返しすると言うもので、作品そのものでの交流であり、定型詩ならではの利点である。葛飾吟社の機関紙『梨雲』は、2001年4月発行以来、本年2月号で178号を数えるが、会員作品以外に”鳴鴻渡海”欄を設けていて中国詩友の作品を数多く掲載している。

さて、時の流れは早く、97年の第一回中国詩壇との交流から24年が過ぎ、当時新進気鋭の林岫女史は今や中国詩壇の老大家

となった。交流は一時点で華やかさを競うものでは無く、特に詩・詞の交流で実を結ぶには地道な継続が必要である。それには次の時代を担う詩人への相続が必須である。幸い葛飾吟社にはその意思を受け継ぐ人々が居り、中国語も堪能である。

2019年、林岫女史が編集人で北京の有力詩社「野草詩社」の同世代の詩人との交流を企画したが、コロナ横行の禍により頓挫した。

しかし、その間でもネットによる交流は盛んに行われ、昨年七月『中華詩詞』に石倉秀樹による西安交通大学生の詩に対する評論が掲載され、9月には「詩詞中国」主催の、第五届伝統詩詞創作コンテスト海外部門において、会友徐依萃が古詩「庚子問天」で栄えある一等賞（2回目）を獲得する快挙があった。

しかし交流は、人々が往来し面談するのが一番である。その為にも一日でも早いコロナ横行の収束を希い、国境閉鎖解除を待つて、所期企画を実施する所存である。

清の趙翼は「国家の不幸は、詩家の<sup>さいわい</sup>幸、賦して滄桑に至れば、<sup>すなわ</sup>句便ち工なり。」と「遺山に題す」の詩で言う。

コロナウイルスの全地球への蔓延猖獗は、詩人にとって、世の中が滄桑の変の如き大変化の真っ只中に遭遇しているのだから、それを詩に作らねばならぬ。との謂いである。中国の詩の長い歴史と伝統は、またすぐれた現実主義の伝統でもある。

詩の拙劣はご寛恕願ひ、四首の七言絶句の組詩のうち、一つを披露いたします。

## 新冠病毒

新冠病毒虐全球，  
疾疫横行禍未休。  
世界交通多陷穽，  
共存俱命拔其尤。

新冠病毒 世界を虐たげ、  
疾疫横行して禍未だ休ず。  
世界交通じて落し穴は多い、  
共存し俱命し其の尤を抜こう。

注：本稿は、日本中国文化交流協会が編集する  
『日中文化交流』No. 912 2022. 3. 1号に掲載された。

## 將交流的接力棒傳下去

葛飾吟社理事 小畑節朗

徐依莘 譯

葛飾吟社是一個在日本的漢詩詞創作團體，是以通過與中國詩壇進行交流活動進而能創作為中國詩壇認可的漢詩詞為宗旨而創設並開展活動的民間詩歌團體。

最初，是從詩社始創者中山榮造先生個人的活動開始的。以通信、面見等方式進行扎實的交流，在中國各地結識了四百多中國詩友。作為詩歌團體，葛飾吟社與中國詩壇的正式交流始於 1997 年 9 月。受中日友好協會、中國詩詞學會的招待，在北京協商會議所舉辦了『中山榮造新短詩研討會』，揭開了葛飾吟社和中國詩壇廣泛交流的序幕。當時出席研討會的中國詩人，以林林先生為首包括李芒、徐放，林岫、屠岸、紀鵬等多位著名詩人。初學漢詩詞創作的葛飾吟社會員得到了熱情的鼓勵和寶貴的指導。

2000 年兩國詩人再會北京，共同舉辦了『迎接新世紀中日短詩交流會』。翌年，葛飾吟社編輯出版【迎接新世紀日中短詩集】，共收錄 86 位詩人的作品。2002 年葛飾吟社邀請林岫先生和鄭民欽先生前來日本，在東京舉辦了『中國新短詩專題演講會』。2004 年再度在北京舉辦日中短詩研討會。同年 10 月日中共同詩集【梨雲一邑】出版。特別值得一提的是 2005 年 3 月中國漢俳學會成立大會，日本俳壇重鎮金子兜太、有馬朗人諸氏受邀出席，葛飾吟社的中山榮造、今田速作為日本漢詩界代表有幸參加了大會。

自古以來，漢詩詞交流就有酬詩的形式。即襲用對方作品的韻腳賦詩作為酬答。葛飾吟社期刊【梨雲】自 2001 年發刊以來，已經出版了 178 期。除了會員作品以外還設有『鳴鴻渡海』專欄，刊載

來自中國詩友的作品。

歲月如梭，自 1997 年第一次與中國詩壇交流以來，已經過去了二十四年。當年的中堅力量大多已步入老年。文化交流是一樁長久的事業，如我們這樣通過詩歌交流促進兩國人民友誼的活動需要扎實的持續的努力，要將交流的接力棒傳給下一代。所幸葛飾吟社後繼有人，也有懂得中國語的新一代會員。

2019 年林岫先生曾一度計劃過北京著名的野草詩社和葛飾吟社的交流活動，不幸因突發的新冠疫情而告停。但是網絡交流空前活躍，昨年 7 月『中華詩詞』刊載了葛飾吟社石倉秀樹的關於中國西安交通大學學生詩作的論文。9 月『詩詞中國』主辦的第五屆傳統詩詞創造大賽中，葛飾吟社徐依莘的古風【庚子問天】榮獲一等獎。

文化交流活動固然最好是經常往來面談，但願疫情早日結束，國境開放，有朝一日實現計劃中的與野草詩社的共同盛會。

清朝趙翼有句：國家不幸詩家幸，賦到滄桑句便工。

新冠病毒在全球蔓延，世界正在經歷滄桑巨變。作為詩人我們必須用作品來反映這種遭遇。這也是中國詩詞漫長歷史中的現實主義傳統。

文末附上拙作一首，淺薄之處懇請寬恕。

### 新冠病毒

新冠病毒虐全球，疾疫橫行禍未休。  
世界交通多陷阱，共存俱命拔其尤。

# 詩詞目錄

掲載生年順

| 日 本（含旅日華人）   | 中 国                 |
|--------------|---------------------|
| 今田 述 … 9 頁   | 刘德有 … 72 頁          |
| 池田壽堂 … 11    | 王 渭 … 73            |
| 萩原艸禾 … 15    | 段乐三 … 74            |
| 小畑節朗 … 17    | 林 岫 … 75            |
| 中山榮造 … 21    | 蒋有泉 … 77            |
| 石倉秀樹 … 25    | 何小平 … 79            |
| 長谷川隆 … 31    | 陈学樑 … 82            |
| 野間 明 … 33    | 金 中 … 84            |
| 芋川冬扇 … 35    | 练 欢 … 89            |
| 徐 依苹 … 37    | 夏 凯 … 91            |
| 蔡 毅 … 41     |                     |
| 周 先民 … 43    | <b>特別寄稿</b>         |
| 佟 文玉 … 47    | <b>中華詩詞学会 12 詩家</b> |
| 千葉大介 … 49    | 周文彰 … 93 頁          |
| 竹田憲生 … 51    | 郑欣淼 … 94            |
| 林 曉明 … 55    | 高 昌 … 97            |
| 塚越義幸 … 57    | 钟振振 … 98            |
| 王 岩 … 60     | 星 汉 … 100           |
| 黄 炯韜 … 65    | 杨逸明 … 102           |
| <b>特別寄稿</b>  | 熊东遨 … 104           |
| 水出樂山水 … 67 頁 | 王玉明 … 106           |
| 早川太基 … 70    | 宋彩霞 … 110           |
|              | 潘 泓 … 112           |
|              | 胡 彭 … 114           |
|              | 何 鹤 … 115           |



今田 述 1929年生 東京都

古風 回顧“九七年中山新短詩研討會”  
讀青莘女史“庚子問天”有感

四半世紀夢想闌，葛飾吟社探詩元。  
燕都詩壇求奉祝，中日復緣廿五年。  
林林老師招雅友，欲論短詩求陪鑾。  
逍雀先生賴通辭，青莘女史離爐煙。  
隨行幼女預故宅，戾來吟社列客寰。  
燦然政商會議所，老林周邊論客闐。  
趙翁已詠倣俳句，日中通辭難譯談。  
雙方力行雙方譯，午後統一莘女衫。  
移住扶桑知適譯，不然累積不滿殘。  
李芒徐放紀鵬順，傅雪漪語曲譜禪。  
文革時代雖已去，詩人犧牲回首寒。  
九州詩歷三千歲，詩經古謠猶通天。  
如何詩人六萬餘？百萬俳人可試援。  
兜太協力漢俳集，林岫首選伸中原。  
十萬已詠五七五，小學兒又書童頑。  
可驚迎接新世紀，手機瞬時翔句田。  
漢俳學會政府立，國民詩風津津鮮。  
林林留學知俳句，晚年築得等序李白桃花園。

注：原玉 徐依莘“庚子問天”在 38 頁  
青莘：徐依莘之筆名。逍雀：中山榮造之號。  
兜太：日本俳人金子兜太。

雙調南歌子·漢俳生誕四十年

迎席扶桑客，綠陰今雨來。山花枝接海花開，和風起漢  
俳。趙老吟魁。 林岫桂林詠，團絮碧山隈。條幻霞裳出  
岫來，任風隨意裁。手機如栽。

## 讀林岫主編『中國漢俳百家詩選』

文革漸過解苦烟，北京詩界稍欣然。  
扶桑俳友渡東海，老趙漢俳破惰眠。  
兜太行通千歲誼，林林來仰萬花天。  
當今瞠目百家選，經歷漢俳四十年。

## 讀高野公一著『芭蕉的天地』有感

天地萬物逆旅迎，光陰百代過客平。  
蕉翁遠望前途酷，隨伴曾良準備精。  
奧州小道綴蘭玉，敘景誘情非歷錄。  
創作寫實相乘高，心照膚情交委曲。  
四年歲月取捨維，一冊親書芳澤施。  
床前去來守遺志，古今傳來俳風基。

## 古風 贊雅加多男聲合唱團

誰識太古宇宙連，牽牛織女相逢天。  
新宿高樓今翁集，何過回首四十年。  
雅加多是印尼要，多勢倭人勤交廟。  
落暉漸呼熱帶涼，男聲合唱思運妙。  
偶然集得十餘人，予吟忽地露片鱗。  
高低各把幾多曲，優雅和聲繞梁親。  
團員先後還祖國，客地感動那拋得。  
不忘相呼接舊顏，更有退陣高華職。  
猶留無錫一夫存，賴之欲潛中華門。  
瘦西湖舟攜合唱，橋上華人拍手溫。  
當時從我亡妻客，可憐已過三年積。  
團員又減遺餘生，舊懷問我傷心碧。  
默視眼前浮印尼，彼邦著伸開愁眉。  
高樓林立電視映，願思不變情猶恰。

池田壽堂 1931年生 東京都

## 中國名所 古詩十四題

北京故宮博物院 北京市東城區

天安門外望悠然，紫禁城中樓閣連。  
正殿豪奢看不盡，內邸絢爛思無邊。  
幾多宮吏競功績，無數女官爭艷妍。  
萬古王朝屢興廢，遊人來往玉堂前。

北京盧溝橋 北京市郊外

首都郊外帶輕煙，永定河畔楊柳鮮。  
白玉石橋極優美，五百獅子列欄干。  
威尼斯客征絹道，盧溝賞贊天下傳。  
風流皇帝酌月下，題詩揮筆欣景觀。

注：威尼斯客：Marco Polo 皇帝：清朝乾隆帝

曲阜大聖殿 山東省曲阜市

蒼茫闕里思無邊，幾多門坊列長阡。  
杏壇碑亭懷千古，無數堂閣幽興繁。  
大成廟殿感銘久，尊像周圍高弟攢。  
生前不遇後崇敬，今尚儒教天下傳。

五岳筆頭泰山岱廟 山東省泰安市

靈峰峻峭聳山東，從古瞻仰五岳雄。  
莊重樓門隔塵俗，巖然岱廟集尊崇。  
昔曾皇帝行封禪，現代諸民盛遊觀。  
七千石段至天際，祠殿銘碑無數連。  
來迎情景洗心氣，危巔日出極莊嚴。

## 慈恩寺大雁塔

陝西省西安市

古都郊外菜花繁，遙看鴈塔籠淡煙。  
曲江名刹懷古念，張籍想起寺門前。  
聖教序碑感歎久，舍利佛像幽興牽。  
天竺經典此翻譯，玄奘遺業稀比肩。

## 紫金山中山陵

江蘇省南京市

中山滿目綠陰鮮，陵門整列石磴連。  
崇高祠殿眾人訪，國父臥像極莊嚴。  
三民理想清朝倒，革命途半徂九泉。  
虎龍爭霸幾千歲，榮華夢跡隨處看。

## 成都武侯祠

四川省成都市

四川溫暖大繁榮，織產省都稱錦城。  
玄德崩殂祀高廟，孔明沒陣竝墳塋。  
嚴然廟殿雲光淡，莊重祠堂風物清。  
詩聖移來浣花畔，祠前感淚一詩成。

## 會稽山陰蘭亭

浙江省紹興市

會稽連嶂帶輕雲，山陰村里鶯報春。  
鶯池曲水思遊宴，流觴御碑情緒深。  
蘭亭序蓋冠今古，無爲筆法方如神。  
書聖祠堂實嚴肅，幾多墨跡酬夙心。

## 武昌黃鶴樓

湖北省武漢市

武昌湖畔綠林稠，蛇山嶺上望高樓。  
無數撥廂如鶴翼，五層瓊姿似松毳。  
仙人已乘黃鶴去，騷客賞嘆詩篇留。  
霸權爭奪幾年月，長江依舊浮舟流。

## 蘇州寒山寺

江蘇省蘇州市

江南名刹自昔聞，高僧追慕多訪人。  
嚴然本殿泛金像，清雅梅樹迎麗春。  
張繼詩碑感銘久，曾明寶塔情趣新。  
朴素舊觀只如夢，近年俗化空斷魂。

## 杭州西湖

浙江省杭州市

青山圍遶映清漣，四季風情隨處鮮。  
詩客詠歌松樹影，旅人賞贊柳條煙。  
岳王廟殿空魂斷，靈隱寺堂思杳然。  
嶺水泉庭冠中國，樂天心境轉堪憐。

## 四川省九寨溝

四川省南坪縣

溝壑仙境綠樹滋，美觀從古少人知。  
無邊滄海映山靖，多少白瀧飛沫奇。  
鴻鵠飛來休羽翳，熊貓生息看姿稀。  
舊來藏族幽閑住，原始自然猶在茲。

## 龍門石窟

河南省洛陽市

洛陽郊外伊川畔，洞窟佛堂無數存。  
九仞如來當檀麗，萬千尊像切驚魂。  
七朝治世昌營寺，五代興亡寂梵園。  
佛教工藝茲集結，龍門廿品古來尊。

## 桂林灘江

廣西省壯族自治區

廣西山野翠成陰，南畫原點在桂林。  
奇峰峽谷冠天下，秀水幽洞延賞心。  
灘江船遊實高興，絕佳風物情趣深。  
昔時曹鄴植多桂，盛秋芳香滿江村。

注：曹鄴：唐代之詩人 桂：金木犀

## 日本の漢詩教育は間違っている？

池田壽堂

中国と日本では漢詩を作る目的が異なり、中国は言論の自由が認められないので「景を借りて情を表す」のが本来の目的であると云われ、中国人は自国語であるから隠されている意味を汲み取る事が出来る。

我国では言論は自由なので詠まれている事をそのまま受け取って良いとされている。

絵画・音楽・文学・書道など何れも禁止と云うものは無い。

然し現在の日本の詩壇では沢山の禁止項目があり、それに違反すると漢詩とは認めないと云われている。

中国では「古詩」から教えているが、我国では約束事が沢山ある「新体詩」から規則として教育するので、初心者は手も足も出ないのが現実であり、漢詩が中国語の詩の事であることを忘れてる。

例えば詩の中に同じ文字を使う事、平仄は決まった場所に使わなければならないとかあり、中国名詩選・唐詩選などを見ればそれが拡大解釈し過ぎであるのが分かるはずである。

漢詩で一番大切なのは内容で、形式はその次であり、最初の第一句に韻を踏まないと「踏み落とし」と云って減点したり、平仄が違った場合、漢詩と認めないなどと云う会もある。

我国の詩壇は役所と同じく形式を重要視し、いくら内容が優れていても形式に外れていると評価されない。

杜甫・李白の詩を見ても適切な単語が無く、平仄が合わないものが見受けられる。中国は広い国なので沢山の方言があり、又、言葉は永い年月の間に少しずつ変わるので韻も変わる事から、現代に作詩する人は古くから使われている平水韻を使わずに「現代韻又は中華新韻など」を使う方が妥当だと思われる。

サア！ 難しい議論は止めて気軽に漢詩を作ってみよう！

楽しんでする事が趣味と云うものではないか！

萩原艸禾 1933年生 川崎市

### 愛枝上紅梅地上水仙

紅英半蕾慎疏枝，素盞百花香鄙瓷。  
坐覺年年季相似，早春私樂小庭姿。

### 春興醉夢

韶光先季舞黃塵，萬紫千紅共醉春。  
花下庶幾一盞酒，朱顏酣境伴佳人。

### 送春午夢

高枕南薰渡，小庭新綠圍。  
鳥鳴春有恨，噪語涉枝回。  
夢覺人無訪，雨糸濡苔微。  
狂吟天所許，欹耳遠聞雷。

### 恨炎暑

睡起出門處，早朝千里晴。  
公園灯已滅，街路草齊盛。  
溽暑催流汗，瘟神促野情。  
驕陽天若拭，障耳躁蟬聲。

### 古詩 新冠狀病毒

妖氛連續散風塵，冠狀病毒猛威新。  
南北市沽閉商戶，東西港巷鎖海門。  
十里巡迴需妙藥，一心祈願期神效。  
悲哉眾庶外無途，戰慄算屍唯頌禱。

### 字字雙·卮伴卮

矯情亂愁詩競詩，艷意幽懷姿競姿。誰知寬樂思伴思，豈妨醉語卮伴卮。

### 桂殿秋·秋夜獨吟

人已靜，暗愁深。涼風漸漸月斜臨。呻吟獨對青灯下，呼酒四隣夜色新。

### 秋風清·電網詩會

辭成遲，拙自知，電網詠朋競。論詩交韻同門會，一堂酌酒交兼師。

### 天仙子·樂市中回遊

疏雨輕微獨曳杖，隨心半里遊街巷。新陰市肆樂塵喧，專探訪，風駘蕩。飛燕掠頭詩亦爽。

### 浣溪沙·新春醉吟

風物新生草舍春。頽齡亂髮抱清樽。東風庭院慰心魂。雅興栽花消歲月。閑餘獲採愛光陰。幽居半醉一壺溫。

### 西江月·萬里遊魂

詩興醉吟杯冷，客愁枯坐灯殘。後庭蟲語夜闌干，多病憐躬功半。萬里思流歸水，三更人定祈天。依欄葉壁夢魂寒。迢遞今遊虛幻。



小畑節朗（田旭翠）

1936年生 千葉縣松戸市

## 新冠病毒

### 其一

新冠病毒虐全球，疾疫橫行禍未休。  
世界交通多陷阱，共存俱命拔其尤。

注：交通：陶潛詩『桃花源詩』荒路曖交通，鷄犬互鳴吠。

俱命：佛教說話『雜寶藏經』昔雪山中有鳥名共命，一身二頭。一頭食美果，慾使身得安穩。一頭便生嫉妒之心。而作是言，彼常云如何食美果我不曾得。即取毒果食之，二頭俱死。

### 其二

高志芳蘭誇壯節，守狂散木尚凡庸。  
安寧見慣輕前過，地變天荒鳴警鐘。

### 其三

靈長傲世病難攻，病毒生生惡未終。  
人類介然安所業，蒼生所樂非窮通。

注：陶潛詩『貧士七首』介焉安其樂，所樂非窮通。

### 其四

物華代謝復何疑，異類新陳那得知。  
造化本來含病毒，良方必至力能持。

## 題龍泉院護門老杉

龍泉院是室町時代開山之古刹。門頭有幾株老杉。三百年來雄姿威武。因臺風等災害倒伏。僅存的一株也因樹幹空洞，目前欲伐。有感而成七絕。

竚立雄姿矍鑠翁，護門三百積年功。  
老杉自識真歸處，待得靈苗古刹豐。

## 八聲甘州·茂陵懷古 霍去病墓

看茂陵陪冢荊棘中，一天入新秋。想雄魂不答，殘蟬啼罷，柳影牽愁。渭水南山遙望，萬里尚悠悠。千古論興發，蟋蟀聲稠。制霸西征驅馬，奈少言無泄，飢渴兵憂。像祁連山影，守墓石牛留。幾悲傷，余哀堪斷，萬骨枯，安在敢任眸。秋風客，映斜暉處，人去雲流。

## 滿江紅

萬朵櫻花，乍謝了，空庭如雪。春夢斷，正花蔭携手，醉花時節。翠袖不知郎子去，凝妝又覺殘香絕。嘆如今，更有幾多春，相思切。芙蓉雨，明眸瞥。梧桐影，花顏潔。莫歸來重問，慾言還吶。朝去酒朋何足道，晚來鷗鷺誰能悅。想疇時，愛至望方深，秋風冽。

注：曹植送應氏詩 愛至望苦深，豈不愧衷腸

## 采桑子·歸鄉

豐穰大地黃金浪。牧野朝霜，嶺上殘光。故里高秋客路長。少年美夢君知否？老骨何傷，空手還鄉。望斷家山暮色蒼。

## 林林先生面前で李煜『独上西楼』を歌った旭翠

今田 述

六〇年代から七〇年代に掛けて文革で多くの詩人が犠牲になった。再興を目指した北京中央詩壇に新しい動きが生まれる。中国の古典詩はエリートの文芸という性格が強い。もっと国民に広く愛される短詩があれば悲劇を避けられるかも知れない。そこで林林を中心とする知日派は日本の俳句を研討するため、八〇年五月日本から俳人訪華団を招いた。歓迎会席上で趙樸初翁が折から降り出した五月雨を入れて、五・七・五の十七字で短詩を即興で詠んだ。

緑陰今雨來

山花枝接海花開

和風起漢俳

緑陰今雨來る

山花の枝海花に接して開く

和風漢俳を起す（趙樸初）

これが漢俳第一号となり国民詩への道が始まる。先ずは中国の詩人に俳句を知って貰う必要がある。八三年林林は『日本古典俳句選』を著し、芭蕉・蕪村・一茶の作品を中訳紹介した。日本の俳人金子兜太（現代俳句協会会長）から強い応援の申し出があり、北京詩壇とタッグを組み、九三年と九七年と二度『現代俳句・漢俳作品選集』が刊行された。漢俳詩人の参加数は九三年版十一人、九七年版一一一人と急増。これに刺激され中国側でも林岫女史主編『漢俳首選集』が刊行された。だが俳人が漢俳を詠めるわけでは無い。中国側は中国短詩を詠める日本詩人との接触を探っていた。日本には全日本漢詩連盟という団体があるが絶句しか詠まず中国と交流しない。この状況に応えたのが葛飾吟社の中山栄造だった。九七年、日中国交正常化二五周年記念として「中山新短詩研討会」が開催された。だが葛飾吟社には自ら詩詞が詠める人は、会長の中山栄造、それに小畑旭翠と私の三人しか居ない。当時中国の入国ビザが容易に取れるのは一〇名以上の団体観光ビザだけだった。七名の同行者をかき集めた。

こんな急造陣容に対し中国側は林林先生を筆頭に、劉征、李芒、林岫、徐放、溥雪漪ら目のくらむ錚々たるメンバーで迎えて呉れ

た。九月五日の午前と午後、研究討議を行い、葛飾吟社が名誉を得たのは徐依苹女史の名通訳だった。中国側はさる大学の日本語教授を準備したが、既に十年日本に在住する徐さんの日本語には遠く及ばず、林林先生の求めで午後の討議は全て徐さんの通訳で進化した。

その夜歓迎晚餐会で林林先生は中山先生の『詩詞譜』を手に「中国にも詩詞譜はあるが、作例は殆ど古人の作だ。だが中山本の作例は、私たち現代人の作品で大いに参考になる。日本には詩を詠む人は居るが、詞を詠む人は殆ど居ない。今後は詞に注力されたい」と話された。座が余興に入ると、小畑旭翠氏が鄧麗君の『淡淡幽情』から李煜の「独上西楼」を歌った。すると林林先生が「これは何だ？」と、司会の林岫女史に訊いていた。女史は笑いを抑えて説明していた。中国では鄧麗君（テレサ・テン）は当時発禁だった。台湾からテレサのカセットに風船を結び台湾海峡を飛ばす。本国側で拾うとコピーが生まれる。だが政府要人の林林先生の前で歌うのは微妙だったかも知れない。

三年後の二〇〇〇年九月十六日、葛飾吟社は新装の北京好苑建国商務酒店で「迎接新世紀中日短詩交流会」を主催した。参加者は中国側が林林先生と袁鷹先生を初め十九名。日本側は葛飾吟社を中心に歌人俳人を纏め十二人。詩人の石倉秀樹、斎川正二、楠野修、俳人関森勝夫等が加わり面目を一新した。

林林先生は両国短詩人の集会を心より歓迎され、後刻出版された『迎接新世紀中日短詩集』の巻頭に「中日短詩人的友誼長青」と墨書された。感激した林林先生は翌日、昼餐会に葛飾吟社要人を迎えて下さった。私は先生の臨席の光栄に浴した。先生から「神保町は今どうなっていますか？」と質問され思わず息を飲んだ。河上肇に傾倒して日本に留学したが当人は既に獄中の人だった。神保町に下宿し本を買うのが楽しみだった。だが盧溝橋の前年、身の危険を感じ上海に引き揚げる。船が神戸港に寄ると臨検が入り、先生の本は全部没収された。

その後の対日戦争の苦難、華僑からの戦費調達のために比島に潜行。そして戦後の半生を傾けた日本との文芸交流。日本への愛憎が脳裏を離れない風情であった。

中山榮造 1939年生 千葉縣松戸市

### 奉和劉成德先生中日友好

清新句句憶君情，兩地詩盟弟與兄。  
孔孟故鄉真道義，榮枯歷歷濟蒼生。  
屈陶清韻當神儼，海內綿綿有聖名。  
可識交流千里客，壺天友誼本無程。

### 寄林林先生

神州詩聖國，帝里想德星。深覺千年誼，常思四海寧。  
方知凭案几，只管坐閑亭。寰宇以文會，來參暫不停。

### 寄李芒先生

神州詩聖國，帝里想賢英。青史添光彩，丹心任此生。  
雙眸通世態，四海結騷盟。處處以文會，方知無限情。

### 步韻徐國正先生龍年喜上眉稍之詩

黃河創國幾千年，大陸文明萬木先。  
歲歲興隆桑海感，人民意氣若升天。

注：以陳國正先生的原玉作品次韻，敘述歷史以黃河文明開始的中華歷史幾千年。今天的發展驚人，有一日三秋之感。

### 步韻答蔡文強詞長來函

風騷韻事好因緣，拈句論文路八千。  
李白鑑真今昔感，雁書蓮社夢魂牽。  
思君望西雙眼啓，執筆開窗片月懸。  
何日相逢茶換酒，神州朋友氣衝天。

平成十四年十一月十二日與林岫・鄭民欽兩先生  
一起訪問松尾芭蕉的古跡松島（五言排律 順風體）

遠來兩才賢，野趨鐵路連。讀書惱難事，飽客酒誰先。  
有友酬新詠，傷心句自憐。今看紅柿葉，緬想翠花鈿。  
鳥飛青空下，舟游綠島邊。寒風山寺影，白雪一枝娟。  
伴聖疏林裏，碧苔幾樹鮮。蓬萊和禹域，趁約短詩緣。

步韻林岫女士玉作日本松島夜題松

鷗游地天海，浪湧綠松寒。  
詩客吟情健，高懷擬影看。

（原玉）日本松島夜題松 林岫  
清陰覆三徑，影共月光寒。  
直干恥盤屈，加如高士看。

步韻孫軼青先生玉作慶飛天

革新技術跨蒼穹，何日飛船自在行。  
百世宿志追約到，華人首訪萬星宮。

對盡力短詩研討會招開，感謝中國賢人

論詩酌酒太天真，德友風姿動我神。  
草木山川千古意，一衣帶水結交親。

步韻段樂三先生之詩

寒村瘦野鎖煙霞，垢臉離鄉不返家。  
多歲糟糠相擁坐，新亭桂月照窗紗。

## 訪友人步韵陳學樑先生玉作夜訪建陽書林樓

斜陽一路未青葱，柿熟柚豐色更濃。  
竹馬夫妻殘照下，一瞥霜髮聽秋風。

## 次韵楊鳳趾先生玉作農鄉春訪 春耕小景

東風萬戶對朝曦，夙昔情根愛道機。  
白白紅紅芳草野，馨花絕俗一名區。

## 步韵李克英先生之詩

魁春一白繞門飛，瘦影橫斜春草菲。  
移住貧村年五十，鶯聲亦到不思歸。

注：門前古梅樹，梅樹從荒村移植門前已經五十年，我從貧村移住也已經五十年。

## 次韵重陽先生之玉作

音書落落憶君時，攜酒舐筆舊雨來。  
家燕穿窗蝸試篆，紫陽花萎石榴開。  
同門鬪句詩言志，白髮情興鷗鷺懷。  
傲骨心頭私自愧，枯腸順耳復登臺。

## 看野郎風景綫步韵關一先生之玉作

妙舞韶音粉黛嬌，豐年祭祀酒紅潮。  
奇峰古刹溪聲裏，浮世幸福俗事拋。  
應識詩腸念鄉里，還覺照片起清飆。  
浣沙湖水清風下，子女輕舟幾葉漂。

## 模賦孔子聖典步伐隨韵朱學純先生玉作緬懷韓信

中華聖典共天傳，遠古先賢第一人。  
可識千言深似海，應知萬語暖於春。  
排悶養情盈盈健，全球大眾浩浩巡。  
日日浮沈誰若問，國家骨肉盡歸仁。

### 步韵李和鳳先生玉作

開封雁字思如淵，句句嚴然四海傳。  
陋巷澄神應有意，柴窗執筆便成緣。  
胸中萬感以情會，陋巷半生解纜船。  
世路崢嶸何事好，詩盟疆界總無邊。

### 步伐相隨金中先生玉稿觀梅

枝頭破蕾我心溫，養育幼苗共回輪。  
可愛送香紅色彩，應知腐幹綠苔痕。  
落地任風終萎貌，經年亂髮易斷魂。  
欲寫胸情騰硯海，百年天賜再逢春！

### 臨江仙·步韵湘麟先生詞

我是夢騰鄉下叟，垢面華髮童顏。壺中弄詩便成緣。梅花導君陌，開信會羣賢。長城富士同惆悵，陰雲慚愧悲烟。昨夜夢裏被情牽。枕淚懷往事，亦讀弔魂篇。

### 浣溪沙·步韵贊羅玉松先生中國名勝古跡吟

春夏秋冬覓句酬，山川野谷異鄉游。萬餘情熱意優優。  
八百旅途囊滿滿。寫花花麗拜祠稠。益陽雕几筆成邱。



第一詩集【我看半球】(2000 年 9 月出版) 前言

翻譯 鄭文濤

親愛的中國朋友：

您好！

先讓我作一下自我介紹。我叫石倉秀樹，純粹的日本人，在日本已生活五十四年，至于前世，我不知道是從地球的什麼地方來到蓬島的。

在日本，我先學日語，然後學英語，一些法語，德語，一點點兒西班牙語和意大利語，最後我開始學漢語，但我說不好英語，法語，德語等，也聽不懂漢語，我唯一說得好的語言是日語。但是我確信，世界上各國的語言之中，漢語是最奇妙的語言。漢語調動兩個感覺器官，視覺和聽覺，因此具有人類史上最長的生命，獲得了唯一的成功。古代埃及語在二千多年以前就已經滅絕，至于古典拉丁語，如今誰人說。除了學者或博士，又誰人閱讀？

開始學漢語的時候，我已經到了五十歲，可惜，太遲！但慶幸自己生於使用漢字的日本，遵守平仄和押韻的規則，我會作詩，還會填詞。儘管作出的結果並不能令我十分滿意，但我非常滿足，因為我已經清楚地了解到日本文化的源流和精神的根源是在中華文明。

我不知道我的祖先是自古居住蓬島的日本人還是很久以前來到這裏的漢族人，但是，長期以來，我們一直持續不斷地學習中國文化。我不忍心這個傳統斷絕。每天夜里，我的祖先靈魂好像附體於我，讓我學好中國詩詞。

我熱切期望使用漢字的兩個民族進行更多的交流。為盡微薄之力，現在我把自己所作的詩編成小冊子出版，請您指正。

華風渡海遶蓬萊，到處芬芬花盛開。

千載如斯愉雅韻，一衣帶水共春來。

秋安

2000 年 9 月 1 日

## 日中國交正常化 50 周年有感

一衣帶水受華風，識字知書勤起工。  
太子以和爲貴願，良民成務衍生豐。  
雖然歷史留相克，但也人心喜會通。  
各有千秋自存異，如今何敢不求同。

注：太子是聖德太子(Ac. 574-622)

## 九年吟得二萬首詩詞 二〇〇六年七月作

詩魔一日抱琴來，附體田翁乏雅才。  
落戶九年教韻事，侑觴八斗洗塵埃。  
尋幽隨處景堪賞，覓句含情聯自排。  
莫笑老殘吟不厭，聳肩高唱坐棺材。

## 自製·裁詩六萬首開懷 二〇二一年十一月作

正光陰如箭中詩神，呻吟廿四年。莫笑非才，戀慕繆斯，  
六萬首成篇。喜空想自由，寓情於景，神遊免費，超今越古，  
覆海又移山。揮夢筆，潤玉杯，化靈鶴，張翼舞瑤天。  
仰圓月、桂殿明輝，見嫋娥、孤影依欄。笑迎青眼勸霞漿，  
滌洗紅塵盡清歡。窗外銀河噴撒，星屑若飛泉。

## 平成末日所懷

落日何催回憶情，昭和祈祉世平成。  
無人戰死山河在，有恨天連災禍生。  
遙看紅霞傷惡夢，小斟綠酒仰明星。  
擱杯希望新時代，至政安民忝久盈。

## 滿庭芳·迎接令和所懷

明治遼遙，光陰流逝，暗窺大正如何？小生初看，白日照昭和。父母戰時交際，知國破、留在山河。復興後，平成坦坦，萬眾喜歸禾。    令和，令日本，端然信道，恆久投戈。最好是，民欣妙舞清歌。但願善隣友誼，鎮四海、易起風波。人當念，乾災不斷，共鬪降天魔。

## 水調歌頭·迎接 2020 東京奧林匹克偶感

疫鬼跋扈處，奧運化窮神。當初期待，振興經濟正堪欣。重建莊嚴賽場，翻蓋豪華飯店，準備且迎賓。然而未消患，街巷見瘟君。    時艱酷，醫生奮，耐辛勤。和平祭典，舉辦肅穆祝光勳。魁偉青年競技，老朽白頭注目，電視報新聞。悅耳國歌響，感淚洗心魂。

## 金秋恭送菅義偉首相

宰相推誠但寡言，舉行奧運疫魔前。  
約盟當守欣無事，歷史留名判斷堅。

## 念奴嬌·蜚螭轉動古今文龔

詩中可以，作蜚螭轉動，古今文龔。感謝先人多秀句，百世流傳成分。廢寢尋章，忘餐摘句，裁賦獨發奮。生涯貪夢，錦秋讀破典墳。    香屎扶養非才，脫胎換骨，朗詠排愁悶。玩賞紅楓節月影，有意擬唐押韻。筆潤霞觴，吟如鸚鵡，平仄聲翻滾。仰天期待，繆斯彈奏琴軫。

## 酬和 AI 阿倍中太郎之和歌，咏五言絶句

中國西安交通大學金中教授領導研發 AI 歌詠日本和歌，並將其命名為「阿倍中太郎」。余酬和 AI 和歌五百餘首，選其中五首。

### 高樓暢飲

登樓觀美景，飲酒樂浮生。沈醉春宵夢，銀河滿地橫。  
(原玉)

春の夜の浮き世のほどを眺めつつ眺めかねたるうたた寝の夢

### 望月思君

仰望嬋娟美，金波入懷裏。思君倩影時，心底春風起。  
(原玉)

眺めやる月の光に影添へて心のうちに秋風ぞ吹く

### 終成眷屬

相會皆如意，婚來樂每天。白頭偕老處，餘命尚連綿。  
(原玉)

逢ふことの心のままになりぬべし今日も命は絶えじとぞ見る

### 草庵夜雨

狂風終夜雨，不懼毀茅廬。但有明朝嘆，青山紅葉疏。  
(原玉)

紅葉散る山の嵐のいたづらに紅葉のみこそ知られざりけれ

### 黄昏憶舊

翁媪蕩遊船，黃昏光欲滅。仰天懷往時，海誓山盟月。  
(原玉)

水の上光ばかりは朽ちにけり同じ契りの月を見るかな

## AI 阿倍中太郎と金中さんと私

石倉秀樹

日中国交正常化 50 周年にあたる今年、日本人の私は、中国で生まれた AI 阿倍中太郎（略称中太郎）の和歌に、漢詩で酬和するという実験に参加した。実験者は、中太郎が産湯を使った中国西安交通大学の金中さん、実験動物は私。私は、昨年の秋に中太郎が 15 分ほどで詠んだ約 1 万首の和歌から、金中さんが数か月かけて選んだ 500 首余の和歌に、4 か月ほどかけて五言絶句で酬和した。

実験の目的は、AI が人間の創作活動の役に立つかどうかを確かめてみようというもの。実験の成果は、9 月に開かれた和漢比較文学会第 41 回大会で、金中さんにより『人工知能と人間詩人による共同作詩の試み—AI「中太郎」の和歌に対する石倉秀樹氏の漢詩翻案』という題で研究発表された。

私の作品は、金中さんから望外の高い評価を得たが、実験は、私にとっても大きな成果だった。金中さんによって編纂された AI 和歌翻案漢詩集『青山紅葉疏』に収録した 50 首は、私の 26 年 6 万 2000 首がすべて無に帰することがあっても、佳作として最後まで残るだろう。

また、今回の実験は、私にとって文学とは何かを根本から問い直す機会となった。今回の実験への私の志望動機は、中太郎と私には共通点がある、私も中太郎も「母語ではない言語空間」で詩歌を詠んでいる、であれば、私は、私にできる漢詩で唱和してみよう、という無邪気なものだったが、作詩のプロセスで多くのことを考えることができた。

私は、文学は作者がいて作品が書かれ、それを読者が読むことで成立すると漠然と思っていた。しかし、この作者中心主義的文学観は実は誤りだと気が付いた。作品があれば読者が生まれ、読者が作品や作者のあれやこれやを論ずることで作者像が作られる。作者にしても、最初は読者として文学に親しみ、私も作ってみようということで作者になる。とすれば、初めに作品ありきで、そののち読者が生まれ、作者が生まれる。高名な作者は、批評家、研究者という読者によって、その作者像が作られる。

このようにして私は、読者中心主義的文学観を得るにいたった。そして、その文学観のなかで、作品を生かすうえで重要な役割を果たすのが、編集者であり、批評家であり、研究者であることに気がついた。彼らはいずれも優れた読者として作品を深く鑑賞し、その作者の文学的価値を吟味し、一般の読者の作品鑑賞に役立つ作者像を描き出す。

このような読者中心主義的文学観に立てば、文学には作品があり、読者がいればよいことになる。作品を生み出すのが人間でなくAIであってもよい。読者がAI作家像を作ればよい。AIは、今はまだ作者の領域にしか進出していないが、やがては編集者、批評家、研究者の領域にも進出し、読者の領域を侵犯するようになるかも知れない。AIが人間にとって代わり、文学を支配する、それをそら恐ろしいことと思う人は、決して少なくないだろう。

しかし、金中さんも私も、そういう悲観論に与してはいない。AI中太郎の出現によって金中さんは、中国のAIが日本語の和歌を詠むことを成功させたし、私は、日本人でありながら漢詩を詠む能力を高めることができた。出来るが増えるということ、それを金中さんと私は、喜ぶことができる。

AIに何を期待するかは、人によって違うだろう。AIに1万首に1首の秀歌を期待するのであれば、中太郎は1日で100首の秀歌を生む。しかし、金中さんも私も、中太郎に期待したのは、秀歌を生んでもらうことだけではない。むしろ、常識や固定観念にとらわれがちな人間の詩的想像力を超える自由で豊かなAIの発想力、それが人間の詩的レベルを高めてくれることだ。だから、金中さんは、中国の詩人の創作に資するべく、中太郎の和歌1万首のなかから100首を厳選し、中国語の翻訳を付して中太郎歌集『霜の音』を編纂した。ここに、中太郎の和歌に魅せられ、触発され、中太郎の和歌をもととする最初の翻案漢詩一首を詠んだ金中さんの詩を揚げておく。

## 回顧作詩心路歷程感賦 金中

作詩の心路歷程を回顧し、感じて賦す

|         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 知音從未嘆零星 | 知音 <sup>かつ</sup> 従て未だ 零星たるを嘆かず |
| 長路吟詩録我靈 | 長路に詩を吟じて 我が靈を録す                |
| 還似深山杜鵑鳥 | 還た似る深山 <sup>とけん</sup> 杜鵑の鳥     |
| 一人鳴叫一人聽 | 一人鳴き叫び 一人聴けり                   |

(阿倍中太郎和歌)

誰がためと思ひしものをほととぎす一人鳴くてや一人聴くらむ

長谷川隆 1947年生 千葉縣松戶市

### 葛飾之一年（新韻）

#### 其一 新年：遠望富士山於“戶定邸”得一首

崖下曲曲江戶川，遙遙眺望孤高山。  
元晨葛飾轉明亮，心底清新且泰然。

注：戶定邸：幕府最後的將軍“德川慶喜”弟弟的邸宅位於千葉縣松戶市。

#### 其二 春：落花逍遙“里見公園”

東瀛赤壁是鴻臺，崖上春秋幾度回。  
今日名園古戰跡，櫻花爛漫戀人來。

注：鴻臺：別稱鴻之臺位於千葉縣市川市。五百年前戰場、北條氏對里見氏上杉氏連合軍激戰地。

#### 其三 夏：“常盤平”站頭一望林蔭樹

鐵路沿途村落多，車窗田畝暑中波。  
常盤站頭櫟蔭道，樹下蟬聲野老過。

注：常盤平：新京成線一站

#### 其四 秋：梨街道

棚平葉茂綠風香，夜半白花滿月光。  
晚夏結實生蜜水，秋遊葛飾美梨鄉。

## 其五 冬：大晦日祈願帝釋天

柴又河堤小徑寒，冬風一掃老塵煩。  
善男善女拜古刹，歲末常情帝釋天。

注：葛飾柴又帝釋天：佛教經榮山題經寺俗稱帝釋天位於東京都葛飾區柴又。葛飾吟社取其葛飾二字為名。

## 杖 父

寒朝淒烈氣清涼，澄徹青空葛飾鄉。  
東望筑波山紫麗，西臨富岳雪白光。  
頑童遊釣追魚影，杖父遇梅思美妝。  
已過古稀知友少，毅然佇立一螻螂。

注：筑波：筑波山。唯一單獨峰座關東平野北東。

## 秋風清·榮枯盛衰春秋律

櫻吹雪，櫻紅葉。落花樹下惜，枯片庭前別。知底榮枯  
惻隱情，去來遲早春秋轍。

注：櫻紅葉：俳句的季語。秋天的櫻葉紅葉。

## 秋風清·獨坐獨飲觀仲秋月

淒涼庭，淒婉聲。暑熱已消散，螽斯窗下鳴。今年今夜  
嫦娥宴，故鄉故友何時迎。

## 驀山溪

好萌新綠，爽爽風吹夥。訪古又遊郊，到禪寺、暝思獨  
坐。多愁世事，時有一青天，把酒盞，竹林中，醉眼仙鄉過。

餘霞未滅，夢境非無我。眼底慕情人，望來臨、奇花一  
朶。今朝返路，懸念此生思，仍懷戀，託詩詞，且寄冰心妥。



野間 明 1947年生 東京都

### 平平凡凡是可貴

昏聩倦翁鰥處永，多年鬼混經佳境。  
飛災突擾世茫然，再造平庸真萬幸。

### 感謝平平安安

生肖六輪除夕筵，宿痼平息盼春天。  
羞慚未入真佳境，謝祖恭迎賜晚年。

注：佳境：日本江戸時代儒者、伊藤仁齋之格言“老去入佳境”

### 歡娛小宴

老去縈懷梧葉庠，同年來往互飛觴。  
壽斑禿頂共高唱，無事昇平是俊良。

注：梧葉：母校之徽

### 題銀杏城中王昭君圖憶熊本地震

牢固城郭守麗人，中堂畫裏號昭君。  
率然地裂回頭淚，憫恤哀傷被害民。

### 活命“令和”時代

我蹈生肖六巡耄，且逾父母永眠齡。  
不知幾許天資壽，迎迓“令和”禱靜寧。

### 古詩 大寒夕日

夕陽依雪嶺，照映碧天雲。  
加邊杏紅暈，猶添淨土氛。  
閃念如來佛，霞光轉瞬焚。

### 古詩 游知音墅，良宵暢飲

朴實葆光影集晴，至交綿綿弟和兄。  
知己閑居山河墅，跋涉千里一日程。  
有朋病床盼同路，藥石罔效受戒名。  
“壺岐”佳釀銷疲頓，敘舊歡娛酬酢觥。  
各人度日享后福，誰識幾年賜與生。

### 古詩 惶悚未知的病原體

人類毀自然，禽獸憤開仗。  
碳酞蓋寰球，層雲帶險象。  
災禍暗臨門，冰山突變濠。  
凍原疹孽潛，後代難希想。

### 古詩 企踵新冠病毒的藥石和疫苗

庶民躲家宅，野獸出山林。  
行人稀疏街寂，春風慘淡齊瘖。  
病毒宿主逐漸減，領袖狠心緩方針。  
帶菌青年游，患者增駸駸。  
寬限制招染污，避“三密”世陰沈。  
進退兩難誰都惱，萬全之策真艱深。

注：三密：密閉，密集，密接

芋川冬扇

1948 年生 埼玉県飯能市

### 菩薩蠻

耽吟買醉春風裏，遊談雅興何時已。緩緩送光陰，機心似鍊金。  
老君知晚節，亂髮疑情切。啼鳥不尋常，名花無盡藏。

### 卜算子·蘇格拉底問答

彼欲白雲心，彼問紅顏子。彼若高天道義深，宿志成耽美。  
緣起本然真，緣日求知己。緣故同人展胸襟，自在談斯理。

### 卜算子·院落春光老

一過破心胸，一往行人道。一意多口不可爲，最愛身中寶。  
我究自然真，我住閑居好。我念天年日日新，院落春光老。

### 長相思·尋故山

起早晨。發早晨。微雨無聲鳥去林。長天紫氣深。  
走紅塵。隔紅塵。搖落松陰風自吟。故山皆獨尋。

### 長相思·初開基

必有期。未有期。君去而來我更疑。多情語舊時。  
古書慈。史書慈。落想發心天下奇。通神初開基。

## 臥病

日午安心處，看雲病室中。  
馳思裁賦好，涼爽北窗風。

## 拜佛堂

林泉松籟絕，山上佛堂中。  
念誦吾非志，秋空鳥嘯同。

## 老友圍碁

友到談今古，圍棋惜寸陰。  
青春微尚在，局上有清音。

## 春日田家

淡日無人訪，報春鶯語圓。  
暗香花一朶，不掃竹窗前。

## 蘇生

流年衰老氣，病起弄花人。  
守靜安心處，蘇生庭草新。

## 夏雨

午熱蟬鳴半睡中，纖微吹入北窗風。  
青雲忽散雷聲動，仰望遙空雨後虹。

## 首夏遊步

悠悠首夏遠山微，蛙鼓鳥聲綠四圍。  
步步同行俱不語，陽光換景白雲飛。

徐依莘（青莘）

1951年生 千葉縣松戸市

### 紀念中日邦交正常化五十周年感懷

瘦筆輕箋幾度春，同天共月往來頻。  
梅櫻耐得清寒冽，總報東君格韻新。

### 水調歌頭 華夏大詩宴

天宇朔風冽，川嶽紫煙稠。往來求索諧律，騷雅在神州。  
楚韻唐風宋采，穿越腥霾血雨，一脈鑄風流。文品宿錚骨，  
翰墨寫剛柔。對明月，傾玉盞，聚朋儔。舒箋舞墨，謳  
盡心語競賡酬。吟大江淘千古，唱太平安居樂，亦有異鄉愁。  
華夏大詩宴，清籟繞三秋。

### 浪淘沙·詩 宴

詩宴壯文瀾，染翰舒箋。歌言詩志小詞篇。掬取清音循  
雅韻，合奏心絃。蜀道貫眉山，菊瘦屯田。騷香一脈有  
承傳。路轉峰回明媚處，馥桂芳蘭。

注：蜀道：李白。眉山：蘇軾。菊瘦：李清照。屯田：柳永。

### 五言古風 上巳節

陽春三月三，上巳古風長。踏青襲民俗，祭祖守常綱。  
峰疊蒙淺黛，竹翠不作行。曲水浮流盞，薄酒醉詩腸。  
碧草拂席坐，紅袖染春芳。山茗和露啜，野燒帶泥香。  
薰風陶雅興，援琴美聲揚。心曠忘塵世，氣爽似重陽。  
得此清逸境，何堪返蝸房。

## 七言古風 晨 練

健足捷步踏露輕，四月晨風逐我行。  
朦朧街巷尚酣夢，疏影曉枝孤鴉停。  
十里長隄排垂柳，一灣綠水蕩浮萍。  
天際流雲似馱雨，鞋底春泥泛草腥。  
曲徑路迴摺身返，東方迎面啓明星。

## 古風 庚子問天（中華新韻）

星移斗轉逼歲闌，恭送除夕迎春元。  
何緣庚子多危事，六十輪回非常年。  
煙泥一捧殃池火，義拳幾擊撼金鑾。  
新生共和荊棘路，三載飢饉斷炊煙。  
而今又逢貴庚子，無形魍魎噬塵寰。  
東君送暖柳枝翠，可嘆花前絕喧闐。  
商家謝客停生意，友鄰遠避少攀談。  
街巷飄溢死寂氣，白衣天使汗洗衫。  
春去夏來冬又至，疫魔幾度逞兇殘。  
坐探昊穹蒼極意，難解神佛無語禪。  
敢問蒼天相知否？忍看生靈尸骨寒。  
讚我中華多壯志，不信人民不勝天。  
火雷雙神平地起，醫護八方大支援。  
截頭斷尾封流路，收魔入甕淨中原。  
十億鐵臂乾坤動，舞練長空縛癘頑。  
凌越庚子迎辛丑，金牛奮蹄拓新田。  
春風拂綠江南岸，塞北冰融梅朵鮮。  
待得降妖伏魔日，又是山青水秀萬里好家園。

## 端午二首（中華新韻）

一

五月榴花沁血殷，湘流水蕩不屈魂。  
離騷一曲懷沙恨，裹雨含風唱到今。

二

汨羅水漲魚影沉，箬葉青青代祭文。  
屈子英靈應未遠，絲絲碧血入詩魂。

## 詠梅三首（平水韻）

一

壓檐霰雪戀霜晨，破蕾虬枝正可人。  
一片冰心凝玉骨，馨香罄盡報新春。

二

曉霽尋梅入徑斜，幽香掠面瘦枝丫。  
攜回幾朵含苞蕊，裝點銀瓶共晚霞。

三

庭前啄雪雀兒肥，半卷珠簾映暮暉。  
小苑寒梅三五樹，嫣紅點點報春歸。

## 櫻桃

天生麗質氣清高，紫粒丹珠巧勝桃。  
一度芳名留樂府，常聞百果誚伊騷。

注：出典 唐·李商隱《櫻桃答》

## 鄉 夢

殘梅碎影碧草尖，一縷鄉愁欲斷絃。  
夢赴江南春色媚，桃花吐蕊菜花鮮。

## 七 夕

瑤池母後事荒唐，萬古銀川恨水長。  
細數般般情最貴，勞飛燕鵲渡牛郎。

## 雪 花

暗疑梅早綻枝丫，卻是無香六角花。  
一襲清純晶沁色，霜寒為伴正風華。

## 春 雷

陰風冷雨送春來，天際雲翻走滾雷。  
晴霽斜暉照簷角，幾番翹望待燕迴。

## 天淨沙·秋 塘

薄雲似絮輕縈，冷霜寒露沙汀，顛裊竹枝碎影。秋塘瘁景，怎堪風打浮萍。

## 天淨沙·浮 生

一衣帶水西東，半輪寒月朦朧，旅枕尋常夢中。光陰疊影，竟直歧路相逢。



蔡毅 1953年生 名古屋

## 詠酒

天之美祿地之符，痛飲狂歌氣自如。  
清酌賞心通佛道，濁醪妙理釣詩書。  
醉鄉混沌八仙夢，醒眼逍遙五柳廬。  
更向蘭亭參雅集，流觴能取一杯無？

## 詠猿四首

### 其一 猿之義

穿林跨澗獻桃忙，雉兔攜遊各擅場。  
縱令山中無老虎，祇稱頑主不稱王。

### 其二 猿之目

火眼金睛巖下電，虬髯赤髮草中螢。  
爲祈大聖燃雙炬，照見人間魑魅形。

### 其三 猿之酒

狙侶無心存野果，天公有意賜瓊漿。  
好教釀出承平世，夜夜猿聲啼醉鄉。

### 其四 猿之樂

叢林嘯聚氣如狂，深谷巉巖任跳踉。  
但得塵寰真自在，瑤池爭比水簾強？

## 靈鑑芳草吟

京都靈鑑寺昔日多有皇女出家，今住持尼僧自云素喜不知名之野草雜花，余感其意，遵囑爲賦一絕。

幽徑輕埋帝女家，萋萋長望滿天涯。  
含薰送得王孫去，卻返丹墀伴落花。

## 京都紅葉贊

洛子錦秋披嫁裳，千紅萬紫鬪芬芳。  
等閑識得春風面，還遣春風作伴娘。

## 觀東京博物館顏真卿《祭侄文稿》有感

幼學喜臨顏魯公，筆肥體碩氣沉雄。  
少年心事坐嗚呃，老去猶思歌大風。

## 哭清水師，用吉川祖師歸田詩韻

驚聞悲訃慟呼天，歲首猶期祝永年。  
魂夢依稀承警效，淚珠撲簌捧遺篇。  
靈前幸有芳華翰，身後更餘蘭蕙田。  
遙送先生乘鶴去，高山仰止望雲翩。

## 恭賀周高賢伉儷結髮三紀，謹步其韻

歸來堂上艷陽天，並蒂花開卅六年。  
雨後搖情還互盼，風中濡沫更相憐。  
且欣才藝足誇世，但有詩書何待錢。  
莫道人間少真愛，無雙眷侶在塵緣。

周先民 1954 年生 名古屋市

### 致葛飾吟社

先君周本淳 95 年訪日時曾應邀前往貴社講授唐詩，  
余有幸陪同並充任翻譯，詩以憶之。

先君九五訪東瀛，葛飾三唐傳正聲。  
吟社而今更興旺，續緣還盼結詩盟。

### 中日建交五十年有感

鴻溝深壑實難填，雨雨風風五十年。  
互諒相尊可兩利，求同存異向明天。

### 感 恩

水有源頭樹有根，卅年旅日沐深恩。  
何能負笈圓陳夢？緣自建交開國門。  
問學求知據義理，教書論道享晨昏。  
須臾不敢忘鄉土，亦把名城作故園。

### 致敬東京奧運

日本政府與國民甘冒千險，排除萬難，成功舉辦  
第三十二屆東京奧林匹克運動會。詩以贊之：

新冠病毒久囂張，寰宇生靈處處傷。  
二億有餘染疾苦，一年又半歷時長。  
山重水復愁前路，柳暗花明見曙光。  
眾志成城退惡疫，東京奧運史無雙。

## 生日感懷

“家貧輕過節，身老怯增年。”——陸遊《辛酉冬至》

天白水清悠，映余雙鬢秋。  
河邊群鳥宿，雲際夕光流。  
日暮楓猶亮，苔青路更幽。  
世情皆有序，增歲自無憂。

## 山崎川觀櫻二首

川邊漫步仲春時，兩岸繽紛滿眼詩。  
萬朵千枝兀自放，不憐老叟變花痴。

花重枝垂貼淺河，群魚逐影戲清波。  
鳥鳴聲脆笑閒叟：久坐移時乃為何？

## 遊長崎二首

### 訪平和公園

戰爭慘劇最無情，核爆魔雲舉世驚。  
史事昭昭豈可忘，和平群塑祈和平。

### 西坂 2 6 聖人碑

仇洋排外畏新思，愚昧凶殘戰國時。  
廿六聖人身殉教，巨碑無字勝歌詩。

### 謁書寫山圓教寺

圓教寺藏書寫山，峰高路遠費登攀。  
幽奇景物足堪賞，雄古伽藍須細觀。  
拂面清風醒俗眼，會心佛力洗塵斑。  
拜參半日不曾歇，神旺身輕渾忘艱。

## 周本淳先生の葛飾吟社訪問 代表理事 今田 述

次のページに葛飾吟社の小史が載っていますが、南京の周本淳先生を招いたのが葛飾吟社の最初の国際的イベントです。コトのキッカケは 1995 年周本淳先生の長男先民先生が三重大学で教えていて、彼の日本留学に携わった京都大学が、本淳先生を日本にお招きすることを企画したことです。

小生がこのことを事前に察知し得たのは、周本淳先生の長女先林さんが名古屋大学博士課程に留学されていたことによります。当時富士銀行が主導して芙蓉グループ数社で芙蓉国際交流奨学基金が設立されました。著名大学の教授からの推薦に基づき海外からの留学生に奨学金を提供する機関です。偶々名古屋大学黒川洋一教授からの推薦に基づき周先林さんに留学資金が交付されました。この奨学基金の機関誌に先林さんが「日本へ留学した理由」を書いていたのに眼が止まりました。その趣旨は吉川幸次郎が北京に留学したとき、二つの誓いをしたというものです。一つは留学中は日本語を使わないこと。もう一つは中華菜館へ行かないこと。この第二は恐らく当時の留学生は、中華菜館で美食を楽しんでいたことへの疑問だったのでしょう。

そこで周先林さんは、日本留学期間は日本語で通すことを誓ったというものでした。私はその誠意に対して何か応援をしようと思ひ、先林さんが毎月黒川教授に提出する小論文の日本語を点検することを買って出たのです。何と言っても日本語で論文を書くのは留学生にとって大きな困難があります。そこで彼女の書いた小論文を送らせ、真つ当な日本語にする作業を 12 ヶ月継続しました。元々頭脳明晰な彼女はこの指導で見違えるように作文技術を習得、見事名古屋大学での博士号を得ました。

丁度その時に周本淳夫妻が訪日されたのです。先生は京都大学を訪問され、名古屋大学で講演され、この際娘に奨学金を出して呉れた機関に礼を言うために、東京を訪れる意向を示されたのです。私は周本淳先生の意向は中継しますので、東京へ来られるのであれば、葛飾吟社で講演をお願いしたいと申し上げました。

先生は先民先生の運転で東京に来られ、葛飾吟社で講演されました。これは中山先生のたつての希望があったからです。結果として周先生は名古屋大学でお話になったことと全く同じ講演を葛飾吟社でされましたが、それを理解した葛飾吟社の知的レベルの高さに驚かれています。

先民先生はその後も日本で教鞭を執られていたようですが、先林先生は南京に戻り南京師範大学で教えていました。私は2002年に南京を訪れる機会があり、久しぶりに先林先生とお会いし、孫文の中山陵や秦淮地区を共に歩き見学しました。今回載せた漢俳四季の「南京秦淮」は、その時の作です。後に何人かの中国詩人に、周本淳が葛飾吟社を訪問したことを訊かれました。

## 葛飾吟社小史

|       |  |
|-------|--|
| 1995年 | ・南京の詩人で文学者の周本淳氏を迎えて講演会開催。  |
| 1997年 | ・9月日中国交正常化25周年記念行事として中日友好協会並びに中華詩詞学会の招聘を受け、北京協商会議場にて「中山栄造新短詩研討会」を共催。             |
| 2000年 | ・4月シンガポールにて新声詩社と詩詞による交流会開催。<br>・9月北京好苑建国商務酒店にて中華詩詞学会・中日歌俳研究中心と「迎接新世紀中日短詩交流会」を共催。 |
| 2001年 | ・日中両国の短詩人によるアンソロジー『迎接新世紀中日短詩集』を編集刊行。日本33中国53合計86名が参加                             |
| 2002年 | ・11月日中国交正常化30周年記念行事として北京から林岫・鄭民欽両氏を招聘、俳文化誌「游星」と共同で講演会「華やかに発展する現代中国新短詩」を成城大学にて開催  |
| 2004年 | ・9月北京首都大酒店にて「2004年中日短詩研討会」開催。<br>・11月合同詩集「梨雲一邑」刊行。                               |
| 2005年 | ・3月漢俳学会成立大会に招聘され参加。<br>・9月日中合同短詩集『秋涼詩縁温暖抄』刊行。                                    |
| 2011年 | ・『梨雲100号』刊行  |
| 2019年 | ・「中山逍雀と漢詩葛飾吟社」名義で『世界俳句コンファレンス（創立20周年記念第10回世界俳句協会大会）』に協賛                          |
| 2020年 | ・新型コロナウイルスの流行により例会をネットでオンライン開催   |

佟文玉 1956年生 滋賀県守山市

### 近江之春

輕寒半透掩冬棉，常伴彤雲二月天。  
日柱斜投熔碧瓦，雪山暗退若青煙。  
梅疏櫻艷梳新柳，浪暖鷗徊戲遠帆。  
環繞故京春又至，遙思勝事競流連。

### 夜眺近江宮跡

一

落霞龍蛇舞，暮色自東垂。遠近蛙聲起，清涼月影迴。  
近江宮在處，樂浪岸霏霏。遙想後庭曲，夜深不忍歸。

二

夜半月西斜，近江染露華。琵琶說故曲，千鳥憶皇家。  
遙賞長歌美，又吟小令佳。遠來讀萬葉，感慨倍生發。

### 中秋十六夜寄

夢醒三更月滿頭，蟬蕭蛩響夜悠悠。  
昨宵備酒徒空坐，枕上得詩卻自由。  
待曉擎杯重對飲，披光仰首再相酬。  
淹留孤客何堪慰，暫把江州做沈州。

注：滋賀古稱江州。

### 民宿逢雨

夜半忽驚雨打檐，夢回衾冷再無眠。  
西窗野暗遺宮寂，草徑蛩衰故跡寒。  
漫憶中臣頗意滿，可知安見定寡歡。  
百官羨煞風流事，長供須眉做美談。

注：天智天皇賞賜「壬申之亂」功臣中臣鎌足娶宮中美女安見兒，天下男兒艷羨。

## 讀萬葉集有感

遙習萬葉三十載，尤愛秀歌兩百篇。  
今訪歌碑尋聖跡，親如風雅頌真言。

## 詠煤山雀

久滯東瀛興味休，春聞竊喜伴獨幽。  
家山雪霽曾相語，故苑風熏聊共遊。  
素裹黑白無艷色，但發二調也啁啾。  
知餘千裏徒北望，為唱黃昏慰客愁。

## 詠赤人寺

位於東近江市後麻生村，傳為古代著名歌人山部赤人所建，亦為其終焉之地，故詩以詠之。

一曲長歌吟富士，千年寄載大和魂。  
山高戴雪鐘靈秀，意遠超凡蘊古今。  
誰奈風霜淹歲月，蒿埋英骨渺乾坤。  
村人自信年年祭，令我誠惶仰寺門。

## 宿莊川溫泉

青巒聳峻渺飛鳶，清澈蜿蜒碧水潺。  
夜寂憑池聽萬籟，泉溫潤體化樵仙。  
菡花搖曳來時路，北陸逶迤去日關。  
但得半酣心釋性，不枉東瀛久未還。

## 偶觀水草開花

路旁溝渠，深半尺，寬丈餘。平日水草依依。今日忽見點點白花探出水面，嬌小堪憐，然殆無人賞，有感。

紅荷奪七月，水草綻花星。纖莖撐綾雪，幽香誘野蜂。  
臨風仍奮力，映日也多情。爾我知天命，高低勿自輕。



千葉大介 1959年生 川崎市

### 鎌倉偶成

二月稻村暮鐘渡，天暝西望島陰濃。  
波如白絹縫汀渚，雲上蒼茫八朶峰。

### 舊友聚集在早稻田

#### 其一

雨過顧步學窗街，潦水涵濡耳順鞋。  
灯火招招朋友集，暖簾拂面促追懷。

#### 其二

紅燈小舖舊朋來，把酒千重笑語開。  
人有久懷談不盡，胸中萬感托乾杯。

### 新冠蔓延裡秋天掃墓

#### 其一

獨步悠悠省墓程，故山閑散早涼生。  
丘墳落葉無人掃，金氣寥寥菊數莖。

#### 其二

獨拜先塋坐夕蒼，故丘漸漸映斜陽。  
金風搖蕩千枝葉，黃菊紅楓點麗粧。

## 圓覺寺

山門飛宇映春天，老壽柏楨猶鬱然。  
叡哲塔頭殘照色，暮鐘偈促寸陰禪。

## 午夜夢醉

春寒獨酌到深更，罄盡殘尊睡意生。  
醉夢尋天訪賢聖，嫦娥欲隱玉杯傾。

## 在晚春的鎌倉遭陣雨

白雨瀟瀟叩四檐，落花搖漾絡靴尖。  
春凋彩褪詩情逸，唯有殘香是韻籤。

## 但願神祇譴疫鬼

疫鬼跳梁猶噪嘩，蟬聲橫溢若風遮。  
何能諱避神祇譴，但願來春萬朶花。

## 夏天傍晚散步鎌倉

日沒去煙渚，濤聲渝巷歌。  
涼風掃炎靄，爽朗暮鐘多。

## 窮冬漫步

足下霜鳴仰碧寥，何恂時鳥唳如簫。  
窮冬漫步枝頭蕾，堤上戀春睇遠橋。

竹田憲生 1960年生 東京都

### 殘鴨互喚

殘鴨伴子儘潛游，飛燕離巢已四周。  
風暴雨簾流洗畔，母雛呼喚坼人憂。

### 苦瓜之乾坤

飛魚導引越波濤，弦笛謠歌祝渡艘。  
星照九天輝璨玉，月投孤影仿離騷。  
青龍抱志趨山海，白虎知規鬱貶褒。  
一個苦瓜垂寓下，乾坤壺裡可愉陶。

### 回文 祝大哥之榮貴

車上誰家老，錦裝還舍兄。  
華京愉滿願，御苑翰才英。

（倒讀）

英才翰苑御，願滿愉京華。  
兄舍還裝錦，老家誰上車。

### 金字經·恢復例年“春季大祭”

戰禍誰識止，疫疾何認終。興復年節鬧鎮中。轟。放烟花彩穹。歡聲湧，笑顏盈月弓。

### 秋風清·好手來了

胡蝶到，百合挑。陣風白毯搖，隨意仙姑跳。琴瑟相和好似流，兩旁長享千秋樂。

## 一七令·仁則救人

仁。

惻隱，憐鄰。

修庶士，統齊民。

消磨尚武，鼓勵博文。

至時糾暴政，及候諫暗君。

天下就基慈愛，世間惟本重恩。

當悲戰爭違道理，自冀和平遍乾坤。

## 南鄉子·單身露營

香樟盛，澈泉奔。旅途峽谷爽風薰，祖產疊棚插稻健。  
無聊漢，至曉共星說夢玩。

## 長相思·寄七夕節

天河悠，太虛悠。涼夜森森眈妙幽。懷昔盡倚樓。  
時光流，歲月流。風浪沖沖盪渡舟。雙星情愛留。

## 霜天曉角·再會聚宴

臘初瘟散，街市裝來閃。再會隔朋心滿。愉悅宴，歡聚  
宴。烈旋，寒冷霰。外界許多患。就享圓桌酒菜。交杯  
暖，誼情暖。

## 人月圓·喜鵲架橋

彩霞秋氣催蟬噪，群鵲浪層樓。瓊瓊璧月，盈盈綾水，  
歸客停舟。花街簫鼓，茅屋砧杵，敲戶點篝。默然未語，  
相逢且喜，笑貌離憂。

## 滿江紅·“甲州”回寒

桃李晨光，寒食到、悄然暮雨。不可計、滿園羅綺、萬城馥郁。盆地肥專一望染，圍墀峻更加吹颺。有英傑、領隊向京師，征旗舉。梟雄逝，缺防禦。名帥去，彷彿流寓。今懷出舊事，晚鐘轟屢。感興群燕舞，悲涼春塵壘。從夢覺、富嶽雪變紅，重昇旭。

### 【正宮·端正好】柳精游行

【端正好】袖翻翻，肩槓筇。長途旅、墨染僧衣。游行越塞“白河”外，教化緣生志。

【滾綉球】快到夕、快到夕，怪多心細。霧濛濛、趕走焦急。拐彎迷、拐彎迷，念經招霽。月亮亮、岔路忽視。老翁出現重三禮，就講當擇古道入，建議同馳。

【倘秀才】人煙斷、家田荒廢，草茅茂、多藏豕誌。柳樹枯干、幹砍垂，青苔蓋、蔦蘿圍。星霜縱恣。

【脫布衫】（老翁唱）柳陰平、伴路泉宜，柳陰安、暫解長羈。夫樂涼、須臾午睡，夫乘涼、慕君懷誼。

【小梁州】葉舟遛海綁蛛絲，靠住尊慈。越濤超浪佼龍隨，覺玄智、煩惱即遠離。

【幺篇】（柳精出現，舞蹈和唱）魂漂久後成佳配，奈時間怎敢悲啼。到樂邦、心如醉，願心才遂，身命捧阿彌。

【醉太平】（柳精繼續舞唱）錦庭滿水，金殿煌燿。宮前鈴響妙風吹，銀竹作籬。櫻花盛彩華清內，柳條享樂常青地。菊杯聚宴詠吟詩，迦陵奏美。

【叨叨令】（柳精唱）柳陰緣分將譚記，嫩幹情艷將譚記，迷魂苦衷將譚記，彼岸法悅將譚記。候到也麼哥，候到也麼哥，專心報謝得恩事。

【煞尾】旅僧發喝旋風至，枯葉塵埃散布飛，枯葉塵埃散布飛，粉碎殘骸冢邊壘。

## 【南呂·一枝花】古 井

【一枝花】茅屋連廂竝，井桶同繩倒。童朋享影樣，玩伴競身高。水鏡澄晰，明亮雙心奧，談稱親密交。重光陰、愧恨戀兆。過歲月、來回漸少。

【梁州第七】（倩娘唱）女長美、姿優性雅。男成傑、面秀識博。分別謝絕求婚導。學生逗里，秘愛隣嬌。佳人在巷，專待鄉豪。大哥說、比井還高，大哥說、比汝誰嬌。倩娘說、與爾爭長，那淌髮、越出婢腰。倩娘說、除子如何、梳髻、梳髻。坦白本意即擁抱，喜事彩床耀。如像鴛鴦睦到朝，醉意真陶。

【罵玉郎】（倩娘唱）吹風海上白波嘯，站嶺卷來強颯。偷偷晚晚行山道。請應答，君敢不、頭轉掉。

【感皇恩】鄙有名嬌，勝過京桃。待良人，花色少，故鄉蕭。殘香淡雅，魄既衰媼。錦服皓，懷念久，慰悲寥。

【采茶歌】（大哥唱）競身高，（倩娘唱）競身高，我們倆比井爭高。（大哥唱）水鏡映出亡丈貌，（倩娘唱）感激終久可逢遭。

【尾煞】晨天漸亮梵鐘告，僧侶垂頭旅路遼。一炊夢杳，風毀芭蕉，連理恒夭。臥在青苔睦偕老。

## 醉太平·待歡懷無限

菊香至遠，楓霜撒粲。日當重九計華宴，彩虹媒兩岸。

東風吹動春分暖，新郎藹，新娘艷。只望多福又圓滿，待歡懷無限。

林曉明（閑看蛛絲網落花） 1960年生 千葉県印西市

### 中日邦交正常化五十年

光陰荏苒五十年，撫事思來感萬千。  
但願從今無戰禍，更期國富與民安。

### 中秋月

把酒題詩句自工，鄉思一路到京城。  
隔窗遙望中秋月，為我今宵特地明。

### 憶浮生

都似匆匆一夢中，窗邊獨坐憶浮生。  
少年意氣隨年減，覺有鄉情與日增。

### 費思量

憨憨小犬臥身旁，裊裊茶煙一盞香。  
但問閑來何事有，七言最是費思量。

### 風自開

初夏詩情盈滿懷，庭園秀處句能摘。  
小窗有隙香飄入，無客敲門風自開。

### 一夢是生涯

可恨芳春減歲華，酣然一夢是生涯。  
微風疏影欄杆後，小雨無聲添落花。

### 除草栽花

學詩覓句未曾閑，更有心思在小園。  
除草栽花皆樂事，是非與我不相干。

## 夢裏真

枕上悄悄留淚痕，不知花落幾家春。  
京城每向詩中見，楊柳偏覺夢裏真。

## 蜜 蜂

### 其一

若比蝴蝶性子激，一沾香氣便癡迷。  
忽南忽北忽相向，祇恐花前躲不及。

### 其二

每到春來誰最忙，聞聲知是採花郎。  
何時憐我籬笆破，破處偷偷補蜜房。

## 小 蟻

### 其一

慢將砂土細雕琢，地下真能築小國。  
今早籬邊結隊去，家家昨夜夢南柯。

### 其二

勤勞絕不讓蜂郎，草徑苔階路漫長。  
偶而閑來書几上，欠身應是討詩糧。

## 蛛 絲

願與蛛絲共久長，深情脈脈網時光。  
屋前暗慕桃花影，院後偷沾桂子香。  
細處偏能凝宿雨，密中尚解漏斜陽。  
有心聽我吟詩句，它正悄然垂上方。



塚越義幸 1961年生 埼玉県北葛飾郡

### 初秋夜吟

零露新蛩相競聲，空庭白菊似逃名。  
燈情倚几只惆悵，月下高吟壺自傾。

### 悼慈父（卒年九十二歲）逝去

季秋七日紫薇紅，慈父登仙淒雨中。  
難忘鞭聲朗唱晚，今攜案內遶天空。

### 慶賀和漢比較文學會北京特別例會 與北京理工大學中日比較文學檢討會舉行

燕京歲晚集同心，盡日談論學海深。  
萬里長城雲際列，金蘭永結共高吟。

### 奧州小道

騷客出庵姑忘歸，東都花散片雲飛。  
惜春魚鳥顯離思，消夏草田遺夢威。  
立石寺中蟬語亂，平泉城裏雨聲霏。  
勝情作句聊能慰，千里多難淚未晞。

### 贈畢業生

芳菲灼灼滿櫻樹，草色薰薰覆竹路。  
白髮稱功賀壽辰，青襟惜別顯思慕。  
晃山絕景肆名峰，龍鳳風騷詠雅句。  
溫故知新道義根，平成末歲覺奇遇。

## 初夏偶感

病毒未消心已灰，無端春盡遠雲霏。  
啼蛙閣閣池中浴，語燕悠悠草際飛。  
一過香風鳴綠竹，數條細雨落紅衣。  
夜看星影聊相慰，海嶽蒼茫釣月磯。

## 歲晚偶感

歲去忽聽除夜鐘，顧年只眺一庭松。  
仲春博士達成慶，晚夏詩朋合宿鍾。  
凍月皚皚霜徑單，寒風凜凜雪山重。  
既眠不就坐燈下，賀狀難拋筆似龍。

## 秋夜讀書

### 其一

閑淡斜暉松影橫，歸鴉何解讀書情。  
窗前燈與今宵月，繙看新篇蟋蟀鳴。

### 其二

東天明鏡夕陽收，一片詩情坐惹愁。  
燈下聽蟲耽夜讀，桂花香裏彩星流。

## 日本橋架石橋百十年

兩畔彫鐫輝午晴，百年有餘悅恢宏。  
只今高架橫龍臥，慶喜書懷遺帝京。

### 梧桐影·聽杜鵑

麥已秋，初熟。遊子夢殘聞子規，峰盡日風吹竹。

### 南歌子·校園觀花

院裡花容麗，橋邊草色新。滿眸吟賞避埃塵。同學清姿埋暖徑，萬古春。

### 憶江南·花時偶成

花時節，幾片舞杯盤。客醉吟詩紅漾漾，鶯啼探勝綠漫漫。殘雪暮雲端。

### 浣溪沙·春日偶感

一片探梅一片春，暗香脈脈欲薰人。殘寒浸處抱芳樽。孤枕曉風閑夢好，半簾晴日滿腔溫。萬邦固疾惱神魂。

### 訴衷情·秋 夜

銀漢，寒月，灯影淡，浣塵埃。清夜賞，騷客，抱琴來。何厭向詩媒，傾杯。暗蛩眠易催，愧凡才。

### 蘇幕遮·秋 懷

稻梁花，三里許，路繞籬邊，殘照難忘暑。蟋蟀暮鐘秋信序，獨凭欄干，良夜逢牛女。有魚跳，舟泊處，月湧波間，遠近連愁緒。遊艇揚帆臨客旅，酒宴叩舷，琴瑟醺清楚。

王 岩 1961 年生 名古屋

### 過三保松原眺望富士山

一望滄溟連遠峰，雲蒸霞蔚玉芙蓉。  
擎天八朶長空碧，蟠地三州沃野豐。  
山吐孤煙妝白雪，水涵落日映青松。  
今來古往行人過，不變英姿送客蹤。

### 壬寅處暑與諸友夜宿長野斑尾高原

新知舊雨聚高原，暫且拋開俗世煩。  
把臂秋風思故里，回頭春草愧王孫。  
黃花明日不須嘆，紅友今宵猶可論。  
萬籟任他來耳畔，何妨爛醉臥雲根。

### 丁酉夏 6 月 11 日午後、與南八枝子女史訪芳賀徹先生邸宅

曲徑通幽隔市喧，先生居處似桃源。  
一窗光景眼前過，萬卷詩書胸次存。  
伏案耕耘爲盛事，登壇講述在巽門。  
重逢何幸霑時雨，蓂帙簽名留墨痕。

清、光緒 32 年（1906）3 月，魯迅中斷仙臺醫專之學業，棄醫從文。告別恩師藤野嚴九郎之際，獲贈藤野先生題款“惜別”寫真一枚。廿餘年後，魯迅於夏門寫成「藤野先生」一文。斗轉星移，彈指間 111 年光陰流逝。嘗拜訪位於福井県芦原市藤野嚴九郎記念館。近又重讀「藤野先生」，感慨萬千，詩以記之。

百載駒光憶舊塵，花開花落幻猶真。  
徬徨岐路砭時弊，吶喊荒原斥陋民。  
垂手能疇吳國客，橫眉敢對趙家人。  
先生已矣靈魂在，紙上留聲泣鬼神。

## 丁酉重陽有感

商風吹九日，天地盡蒼茫。雁影斜暉裡，鴉聲衰柳旁。  
白雲音信遠，紅樹路途長。為客蓬壺外，冰心憶洛陽。

## 戊戌年舊曆二月十三日、時隔廿餘年再訪蕪村故里

和熙東風拂馬堤，淀川春景惹人迷。  
晴空紙鷗今安在，楊柳枝頭翠鳥啼。

注：馬堤 “馬堤者毛馬堤也。余之故園也。幼童時，春日清和之日，必與諸友登此堤遊玩矣。與謝蕪村。 淀川 源于琵琶湖，流經滋賀縣、京都府、注入大阪灣。分別稱瀨田川、宇治川、淀川。

箕面山中有大瀑，傳為役行者修行得道之地。1829 年陰歷 10 月 23 日，賴山陽攜母與友人田能村竹田，弟子後藤松陰等遊覽箕面大瀑并詠七絕一首。現有漢詩碑立于此。2019 年 2 月 25 日（陰歷 1 月 21）傍晚時分，在友人市村晃氏案內下，來遊此處，邂逅賴山陽詩碑，試步韻一首。

倒懸絹素曳斜暉，萬斛瓊珠濕翠微。  
迸沫青崖驚鳥影，幽思無限漫山飛。

附賴山陽原玉：

萬珠濺沫碎秋暉，仰視懸泉劃翠微。  
山風作意爭氣勢，橫吹紅葉滿前飛。

注：山陽詩轉句當為“作意山風爭氣勢”，或為刻碑時之謬誤。

## 春日再遊金福寺

遙看一徑遠芳柔，春日禪林煙景幽。  
我又重來金福寺，風光依舊可凝眸。

注：金福寺 臨濟宗南禪寺派寺院，位於京都市左京區一乘寺，山號佛日山。寺內有與謝蕪村墓、蕪村及同門重建的芭蕉庵。

擬蕪村句意 春夏秋冬 各三首

春

旖旎風光眼底收，大觀煙景滯輕舟。  
一川春水澄波漾，盡繞無山故國流。

春の水山なき國を流れけり 蕪村

附炎趨勢俗心哀，冷暖人間遍鬼胎。  
唯有梅花無世態，富隣寒舍一齊開。

こちの梅も隣の梅も咲きにけり 蕪村

堯德何有

日出而勞日入眠，農家苦樂盡由天。  
春來耕作平疇上，苛政無聞二百年。

堯德何有

耕や苛政も聞ず二百年 蕪村

注：堯 五帝之一。拠司馬遷『史記・五帝本記』，堯爲嚳之次子。  
與舜并稱堯舜，傳說中之聖天子。

参考：『帝王世紀』曰：“帝堯之世，天下大和，百姓無事。有八  
九十老人擊壤而歌。” “日出而作，日入而息。鑿井而飲，耕田而食。  
帝力於我何有哉！”『擊壤歌』

夏

初昇夏月正玲瓏，人約黃昏暮色中。  
驀地燠蚊煙火起，驚慌姹女臉羞紅。

燃立て貌はづかしき蚊やり哉 蕪村

三州交界駐仙蹤，東海滄波濯玉容。  
新葉蔥蘢埋不盡，唯餘富士聳孤峰。

不二ひとつづみ残して若葉哉 蕪村

旅人蹤跡若浮萍，舊地重遊訪驛亭。  
橋本花娘今在否，眼前新竹正青青。

若竹や橋本の遊女ありやなし 蕪村

注：橋本 京都府綴喜郡八幡町。大阪街道上之駅。付近多竹林，自古亦多花街柳巷。

## 秋

一聲欸乃見歸船，夕照金風滿大川。  
漫捲蘆花飛絮裡，漁家茅屋起炊煙。

蘆の花漁家が宿の烟飛ぶ 蕪村

遙聞一犬吠村西，燭夜籬邊亂啄泥。  
早稻田家刈刈罷，堂前能飯老夫妻。

早稲刈て能<sup>よく</sup>飯めしくらふ老夫妻「夜半叟 194」 蕪村

注：講談社『蕪村全集』第一卷通し番號 1859 では、「能（よき）飯くらう」と讀んだ。しかし、やはりこの句においては「能（よく）飯くらう」と讀むべきか。

『漢訳与謝蕪村俳句集』を人民文学出版社から出した時点、私もその影響を受けて「能（よき）飯」と理解していた。

「能飯」に関しては、次の出典か。

- 1 「趙使還報王曰：“廉將軍雖老，尚善飯，然與臣坐，頃之三遺矢矣。”趙王以爲老，遂不召。」（『史記 廉頗藺相如列傳』）
- 2 「凭誰問，廉頗老矣，尚能飯否？」（辛棄疾『永遇樂 京口北固亭懷古』）

興來湖上泛扁舟，輕理絲綸望斗牛。  
釣得鱸魚生悔意，微風細浪素娥秋。

鮎釣て後めたさよ浪の月 蕪村

参考：季鷹魚，典故名，典出《晉書》卷九十二《文苑列傳・張翰》。指鱸魚。後人亦用爲隱居不仕、閒適安居之典故。“張季鷹（張翰），闢齋王東曹掾，在洛。見秋風起，因思吳中菰菜羹、鱸魚膾，曰：‘人生貴得適意爾，何能羈宦數千裏以要名爵！’遂命駕便歸。

## 冬

歲暮歸來罷遠游，征塵洗盡始無憂。  
故鄉一夜更深後，猶臥衾中說不休。

故郷に一夜は更るふとんかな 蕪村

孤高無畏風霜襲，大志胸中待遠征。  
歲杪喧囂年集上，攜梅獨我一人行。

梅さげた我に師走の人通り 蕪村

注：該俳句爲蕪村最早期作品。元文三年（1738）年，蕪村二十三歲，時客居江戶，號“宰町”。距離寬保四年（1744）「宇都宮歲旦帳」中，初次署名“蕪村”之俳號誕生，尚有六年時日。

神游此地夢中痕，慷慨悲歌壯士魂。  
白雪清晨寒氣襲，邯鄲早市見河豚。

邯鄲の市に鮓見る雪の朝 蕪村

注：邯鄲 中國戰國時代趙國首都。

参考：高適「邯鄲少年行」

邯鄲城南游俠子，自矜生長邯鄲裡。 千場縱博家仍富，幾處報讎身未死。  
宅中歌笑日紛紛，門外車馬如雲屯。 未知肝膽向誰是，令人卻憶平原君。  
君不見今人交態薄，黃金用盡還疏索。以茲感歡辭舊遊，更於時事無所求。  
且與少年飲美酒，往來射獵西山頭。



黃炯韜（櫻花島愛貝客） 1970年生 神奈川県茅ヶ崎市

## 友邦頌

一

一衣帶水好鄰邦，兩種情愁互望鄉。  
握手言和半世紀，詩詞歌賦道安祥。

二

人在東瀛心掛華，秋風蕭瑟亂如麻。  
今天各做安心事，好事多磨擇日佳。

## 和黃鶴樓詩

昔日人乘黃鶴去，今朝君送彩雲來。  
驚鴻北去還復返，巧燕南歸又暖懷。  
南寧嘗過螺師粉，東海賞完珍寶才。  
日暮天涯何處是，夕陽富士不分開。

## 漸悟

物我自相似，觀心觀外世。了然知若身，恍悟上天意。

## 觀心

若想求其道，只需問己心。若達圓滿境，即悟真經神。

## 天生所愛

天生愛貝最恆常，意趣盎然神妙凌。  
呆傻態憨才是我，此心安處道新鄉。

## 緣份

一期一會我珍重，緣份真心非等閒。  
百載修得同船渡，千年煉到共枕眠。

## 七言古詩 思鄉

老眼昏花尋自在，頭暈目眩想逍遙。  
邯鄲學步亂搖擺，彳亍前行思六韜。  
常念故鄉盤龍地，凌波微步慢吹簫。  
愛心恆定無畏懼，我架東瀛七彩橋。

## 定風波·珠聯璧

深海贛螺倚碧沙，愛纏赤柳珊瑚花。常聚隋珠和璧玉，  
凌水，凌空閃爍彩雲霞。    夢裏尋螺三百度，隋意，珠簾  
卷起玉顏佳。願景隨心尋寶去，合璧，璧圓珠滿在天涯。

## 定風波·半生緣

年少呆呆愛美螺，青春傻傻好奇多。轉瞬已經天命至，  
雖敗，半生忙碌苦良多。    大浪翻身錦鯉躍，無礙，年年  
歲歲未蹉跎。無意撰文歌頌貝，相愛，和鳴琴瑟暖心窩。

## 攤破定風波（自製）·念隋珠

有意栽花花未綻，無心插柳柳成株。只顧凡間求大愛，  
祈願，思思念念念隋珠。    穩健實行依理智，期盼，彩雲  
南向抱青竹。秋水懷春望穿處，我看，鐘螺公主點心燭。愛  
好圓通情感共，常慢，凌波微步費功夫。

## 特別寄稿

『梨雲 日中国交正常化五十周年特集』の編纂にあたり、日本人詩人として中国詩壇でも著名な水出和明（樂山水）氏と早川太基氏から寄稿していただいた。水出、早川両氏と、仲介の労をとっていただいた王岩、金中両氏に深く感謝したい。

水出樂山水 神奈川県藤沢市

### 慶賀中日邦交正常化五十年

交誼多年偏耐喜，俱持文雅風流美。  
和歌意與漢詩心，應拓善隣新世紀。

### 禹域勝游

#### 題十三陵 ～燕京

柳陰古道絡苔紋，石獸像如誇帝勳。  
往事問花花不語，十三陵上但紛紛。

#### 題大雁塔 ～長安

落葉入風風入樓，千年古寺又新秋。  
七層塔上一輪月，滿袖清光照客愁。

#### 題沈香亭 ～長安

池苑陽春水不寒，鴛鴦話舊欲揚瀾。  
貴妃夜夜含情侍，聖主朝朝帶笑看。  
興慶宮西苔鎖陛，沈香亭北草侵欄。  
當年塗地玉花鈿，今日化生紅牡丹。

宿沙州 ～敦煌

葡萄樹下覓涼來，滾滾清泉洗旅埃。  
馬上琵琶沙上女，月明頻勸夜光杯。

赤壁懷古 ～赤壁

豪傑交爭江水涯，金刀銀甲委青漪。  
今朝歡得東風岸，不見戎旗見酒旗。

金陵懷古 ～金陵

憑樓懷古碧湖邊，南國興亡幾遞遷。  
六世豪華王者氣，淡於芳草一堤烟。

客中上巳 ～金陵

桃花堤蔭繫孤舟，萬里航程客意悠。  
誰料重三佳節日，莫愁湖上有春愁。

瞻園 ～金陵

尋來前代舊朝堂，追憶百官冠蓋場。  
蛇蛻橫邊曾玉殿，蟻封建處故珠廊。  
苔垣摧有碧衣色，蓮榭朽無紅袖香。  
今日庭園誰管領，侯王去後是花王。

斷橋晨別 ～杭州

荷枯水落柳陰堤，惜別數聲晨雁啼。  
秋色欲殘人亦去，斷腸離思斷橋西。

**倚烏江亭** ～烏江亭

夜聞四面楚歌聲，天不與吾騅不行。  
亭上迸流豪傑血，烏江應改赤江名。

**遊天臺山** ～天臺山

重峯巒底古禪關，林色相連澗色環。  
雲繞鐘樓青鬢鬣，水淘堂宇碧潺湲。  
千年梵氣幽且寂，一點磬聲涼又閑。  
後院少僧巖上坐，寒山竹蔭讀寒山。

**隋堤楊柳** ～隋堤

龍船遠去野鳧浴，濠渚依然春水綠。  
烟鎖隋堤楊柳陰，誰人低唱汴河曲。

**過浣紗溪** ～浣紗溪

避暑舟游江渚潭，一群魚戲水波藍。  
浣紗女指最涼處，便是田田蓮葉南。

**秋江夜泊** ～揚州

柳津秋晚泊扁舟，月照玉人凭水樓。  
二十四橋笙吹渡，引來小杜舊風流。

※「秋」～冒韻

**坐滄浪亭** ～蘇州

幾曲溝渠環故城，滄浪亭畔石橋橫。  
倚欄欲問水清濁，莞爾舟人鼓柁行。

※「清」～冒韻

早川太基 神戸市

幽 緒

幽緒抱純青，生涯夢已醒。  
秋風獨吟路，舉首滿天星。

春星六言

殘花芳氣熏骨，瘦竹幽聲透櫺。  
靜倚空欄冷冷，無人共數春星。

月林擊劍

擊劍寒林孤月傾，自嘲死處卻求生。  
剎那提起霜三尺，斜斬清光碎有聲。

曉發富士山驛赴華國

萬里西遊一步開，越山度海實悠哉。  
雨中古驛何人影，慈母殷勤送我來。

歸 洛

歸洛夜街秋雨新，冷燈舊宅已無人。  
花間曾有狂蝴蝶，情債溫柔繞一身。

## 六甲臺

高臺碧天暮，今我欲何之。  
路遠魂千里，山寒日半規。  
樹間但風語，雪後自花期。  
心紙多空白，終生幾首詩。

## 景元三年太學生

紅闕上書太學生，三千儒服壓洛城。  
嵇康血染鍾山玉，此日朝廷敢出兵。  
求仁即是愛之理，白面書生當奮起。  
典午山河妖霧昏，萬馬齊喑不如死。

## 默

末世菩薩失通力，慈顏但見金銅色。  
焚香曉誦法華經，剝皮為紙血為墨。  
夢中曾入幽窟煙，有僧面壁終生默。  
冷露墜來滅殘燈，雙眼開閉皆漆黑。

## 陳散原故宅

湖畔魂歸故宅中，衡門荷葉領清風。  
眾生情性詩之學，萬字乾坤色即空。  
韻事盛名埋碧血，劍光亂世養純忠。  
虛榻竹影當時雨，此處遊心四海通。

刘德有 1931年生 北京市

### 从腰疾想到中日关系调寄《西江月》

腰痛经年不治，步行坐立踉跄。时轻时重病难除，何日才能痊愈？恰似日中关系，风云陡转危局，某家拨错算盘珠，吾护主权禦侮。

### 风雨几星霜

风风雨雨几星霜，斩棘披荆复垦荒。  
莫道冬来春不远，雪融冰释赖时光。

### 五洲云涌走惊雷

风寒雪骤腊梅开，拔地青松不可摧。  
但愿笔随人共健，五洲云涌走惊雷。

### 京都裹千家飧茶

蟹眼催鸣沸，主人亲点茶。  
端碗旋三转，一啜似归家。



王 渭 1940年生 北京市

## 王渭诗词选五首之中诗词

### 蕙 兰

父亲留下一盆兰花，十多年未开花。  
今冬突然绽放，感慨万千· · · · ·

未逢佳节亦思君，绽放蕙兰泪湿襟。  
两袖清风瞋目去，幽香阵阵沁吾心。

1993年初稿，2022年4月6日改定

林岫教授点评：借物述说思念。如今物留人去，教戒仍在，愈见情深意长。“两袖清风瞋目去”，以评转舵，物人相喻恰好。

### 八十壮忆

短暂人生又一春，志从大业勇艰辛。  
书山堪比黄金贵，艺海犹需气韵新。  
何物能移鹏浩志，愚人敢教石生津。  
风云八秩多奇幻，我驾飞黄上九垠。

注：唐，刘良注曰：“飞黄，神马也。” 2020.9.26

段乐三 1944年生 湖南省长沙市

### 【中吕·喜春来】庆祝中日邦交 50 周年

一衣带水常生态，中日邦交频往来，文人学者互登台。  
终未改，欣助百花开。

### 夜舟

舱上已灯明，更深向哪行？  
箫音随水去，幽美一声声。

### 麦收之歌

麦子归仓有几多？停机放肚用车拖。  
童娃半懂丰收喜，喊叫妈妈做奶馍。

### 长相思·春天寄友

青山幽，河湖幽。朋友同行南北游，夜眠又共楼。  
海无仇，洲无仇。抗疫当前暂步留，心牵你那头。

### 蝶恋花·体坛鸳鸯

体校年轻哥与妹。毕业分行，长假难相会。心里互依成  
一对，每轮参赛传鲜味。夺下冠军哥与妹。不再青春，  
退出争锋位。牵手洞房成一对，同当教练儿童辈。

林 岫 1945年生 北京市

### 纪念中日邦交正常化五十周年有题诗书交流

大羹玄酒往来频，风月同天境界新。  
诗运从来繫忧乐，梅樱共好太平春。

### 读清诗话东传得中日诸家共评有题

山阳鹭见蹕高才，广瀬推评耐品裁。  
神韵性灵优与劣，东西共酌亦佳哉。

注：广瀬健及頼山阳等皆日本江戸着名汉诗诗人又汉诗研究等着名学者。时驻日参赞黄遵宪研究日本汉诗亦参与过清诗评议。

### 壬午东瀛行吟留题（选四首） 二〇〇二年十一月

#### 朝中措 成城大学讲学课毕赴松岛道中

黄花易瘦梦难寻，迭嶂又疏林。一样秋山好画，断肠偏着而今。斜阳古道，凭栏送雁，谁解此时心？别恨崇川成逝水，苦了鬓霜侵。

#### 随葛饰吟社诗友同游松岛乘舟即兴

舟牵云水秋痕浅，佳日融融认作春。  
糕饼啜香欣款客，白鸥争食解亲人。

注：松岛乃日本著名风景胜地。壬午深秋余在成城大学讲学余暇曾游松岛二日。同行者有中山荣造、今田述、小畑、斋川等，以及访日学者郑民钦和徐一平等诗友。

## 浪淘沙 松岛行舟观岸上枫叶

远浦酒旗招，楼隐花娇。引人清兴短长桥。落日鸦归图画里，飞过危樵。举榜逐寒潮。离绪难消。岩边黄叶正萧骚。看似洛阳惊绮宴，几点红娇。

注：借用《唐诗纪事》载杜牧御史于李司徒绮宴上戏题“两行红粉一时回”诗意。

## 中山荣造于家宅招饮

嘉木翛然隔市尘，四时芳草接东邻。  
菜根清淡何须问，知有温馨雅主人。

注：与诗友今田述和郑民钦同行

## 题中山荣造先生汉诗二绝 一九九七年九月五日

佳诗有得自寻人，坐老莺花定费神。  
说破千年春草偈，法门二字只情真。

又

一脉风骚文字亲，山阳吉浦性情真。  
而今喜报诗花灿，千叶攒来一朵新。

## 欢迎中山荣造先生率汉诗人团来华赋梅樱二绝

一九九七年九月五日

山阳漱石好风神，异域知音代有人。  
一月同天诗共好，梅樱竞放万家春。

又

藤井诗中开悟境，雪村象外快禅心。  
而今德见忘归处，喜看梅樱情更深。

注：藤井、雪村、龙川德见，俱日本古代著名汉诗诗人。

蒋有泉 1945年生 北京市

### 中日邦交正常化五十周年

2022年9月于北京

中日邦交五十年，春秋凉暖演人间。  
一衣带水弟兄谊，千载真情应感天。

### 过瞿塘峡

1963年8月于长江三峡

峭壁摩云风浪狂，鬼神无语镇瞿塘。  
满江昏暗天如线，夜半孤舟吊胆航。

### 送友南归

1965年4月于北京

春随风雨尽，日向远山归。  
望断君行处，长天一雁飞。

### 寄故友

1968年6月于北京

把酒吟诗赏玉荷，棹舟伴月弄清波。  
寓身何必繁华地，春水秋山乐趣多。

### 中秋夜逢雨

1968年中秋于北京

满城风雨满城愁，咽咽歌吹在小楼。  
遥问广寒宫里女，可知今日是中秋？

### 金陵夜咏

1968年秋于南京

六朝胜地物更颜，往事烟消古迹残。  
唯有石头城上月，万年不老照河山。

### 初秋夜

1969年9月于北京

阶前花影乱，月下绿窗幽。  
今夜谁为伴？清风入小楼。

### 呈赵伯朴初

1971年6月于北京

常读伯诗常拟行，清光澈骨梦初成。  
长怀滴水归海意，夜夜古松明月情。

（此二句为对救出，兼孤平自救。）

注：赵伯《滴水集》序云：释迦牟尼曾说“要使一滴水不干，应该将它放到大海中去。”

### 一线天

1976年4月于杭州

洞门镌刻度人篇，入穴黯然漫瘴烟。  
堪笑光明千佛地，只存一线是青天。

### 中秋玉影

1977年中秋夜于北京

明月初升桂树斜，清光如水润黄花。  
今宵素女乡思重，玉影飘飘访万家。

### 钓仙

1978年5月于北京

七彩虹竿白月钩，拈星作饵坐云舟。  
银河水浅不堪钓，纶线直抛天尽头。

### 钱塘大潮

1985年8月于杭州

惊心动魄浙江潮，裂岸冲天掀巨涛。  
观此肃然尊造化，从今不敢有牢骚。

何小平 1956年生 北京市

### 鹧鸪天 赠中山主宰①

昨夜文王刚散场，而今富士又登堂。他山有石虚心琢，前路无涯放眼量。诗共咏，酒同觞，一觞一咏壮豪肠。山公不怕西风烈，冬去春来只自狂。

2009年9月于北京

注①：野草诗社与日本葛饰吟社喜结友好，9月8日夜，野草诗社社长周克玉上将于全聚德宴请葛饰吟社主宰中山一行，余与林岫副社长、宇丹副理事长作陪。遵周社长之嘱词以赠之。

### 送外甥孙逊赴日本留学

负笈扶桑非偶然，磨平祖楫复刘鞭。  
飞鸣眼下虽无地，薪胆功成自有天。  
各具千秋衣带水，相逢一笑调同弦。  
新轮赛跑看三代，大任于肩路在前！

2010年秋于北京

### 依克己韵挽庄则栋先生寄左左木敦子

小小球儿抬大庄，人生能有几回狂？  
长抽短吊驱魑魅，揭地掀天铸炜煌。  
俯仰何惭报国志，江河永记破冰航。①  
风云卷阵戈重奋，再把豪情付鲁阳。

2013年2月11日于北京

注①：庄则栋先生生前为中美外交和中日友好做出巨大贡献。

## 谒腾冲国殇墓园

战争岂可换和平，休借和平说战争。  
寸寸河山皆碧血，连连战火苦苍生。  
青春短暂浑无奈，白塔孤眠梦亦惊。  
但得男儿长奉母，青山无处不蓬瀛。

2005年5月26日于腾冲

## 牧牛曲

牛背天成戎马姿，奋蹄时悔见机迟。  
杀声震碎湖心月，犹是男儿报国诗。

1973年夏于何家口

## 渔家

打起渔舟出沔阳，一蓑烟雨到黄冈。①  
餐涛宿浪浑无怨，只认清流作故乡。

1972年秋于何家口

注①：黄冈即古黄州，余故乡沔阳何家口下游。苏轼曾因“乌台诗案”贬此任协团练副使。

## 大别山抒怀

饮水常怀大别山，大军此去几时还？  
当年鼓角犹盈耳，脚下血痕弯复弯。

1982年春于湖北黄冈



## 过洞庭

洞庭十月气如虹，欲驾飞舟带怒弓。  
淡泊不为蝇利累，蹉跎何使酒樽空！  
一腔湖海江河意，两眼东南西北风。  
水满元知天远大，高怀更在岳阳东。

1977年秋于湖南

## 贺新郎·沈园

雾锁苍凉壁，叹残红、秋风卷起，动摇无力。化作鸳鸯沉水去，犹认钗头凤迹。酒正熟、何人尊得？燕子当年迷路处，怅然闻、楚楚山阳笛。墙角雨，断还滴。西风尽与欢情敌。这年头、红颜遍野，月翁难觅。莫怪美人芳意短，只恨宫墙太窄。天借我、江郎神笔。画对雄鹰腾地起，几来回、咬碎千秋索。重比翼，续琴瑟。

1998年3月于绍兴

## 八声甘州·朝妈祖

看翩翩雁阵薄云天，一鸣冷三秋。怯家山迢递，银河耿耿，怕上南楼。白发征痕细雨，沥沥几时休？客意随春水，默默东流。今个儿朝妈祖，隔海遥相望，魂魄难收。念圆圆明月，多半为君留。又茫茫沧溟深处，正风平、何不挂归舟？千杯酒、伴千重泪，洗尽离愁。

2006年12月1日于福建莆田

陈学樑 1957年生 福建省南平市

## 友谊花开

友谊花开五十年，当今中日各居先。  
求同存异相携步，东亚和平续雅篇。

注：“各居先”指在不同领域，有领先世界的科技成果项目

## 玉楼春（顾琼·拂水双飞来去燕 体）

中日邦交无数利，“竞合共生”和为贵。血缘文化亦同根，岂可相嗤生怨忌。国际风云当远视，谋划自身携素里。互尊悌睦踞东方，万万庶民称福祉。

注：“竞合共生”是旅日大学教授汪鸿祥提出的观点。汪鸿祥认为，“竞合共生”是新时代中日关系的新常态。

汪鸿祥，复旦大学国际政治系研究生毕业。历任复旦大学国际政治系讲师，日本东京大学法学部客座研究员，日本创价大学教授，还担任日本多所大学的兼职教师，复旦大学日本研究中心兼职研究员以及中国多所大学的客座教授等。研究领域为国际政治学，东亚政治，日本政治，中日关系等。远视。意为：要看得远，就要站得高。素里：平常里巷，指邻居。悌睦：和睦。

## 留春令（晏几道·画屏天畔 体）

大和华夏，并肩半纪，交流空阔。泰岳芙蓉若同袍，白峰洁、青峰蔚。韵界交流情更热，有《梅樱诗叶》。中日文坛正声宏，豁望眼、升新月。

注：半纪：半个世纪50年。空阔：方方面面。泰岳：中国泰山。芙蓉：日本富士山。同袍：谓兄弟或泛指朋友、同年、同僚、同学等。白峰：富士山。青峰：泰山。《梅樱诗叶》：为笔者所编诗刊，主要刊载‘晔坤瀛偲’汉字新短诗。升新月，喻 逐步趋向圆满。

### 好事近 （宋祁·睡起玉屏风 体）

中日立邦交，一路冷风虫蚁。五十华年堪庆，举霞杯酣醉。和平大业雄图壮，中日同相绘。百载之时欣约，共诸君再醉。

注：冷风，指冷风冷雨（不好的、错的评论）。虫蚁，喻小人。霞杯，装满美酒的杯。

### 贺圣朝 （赵师侠·千林脱落群芳息 体）

邦交开辟和平辙，葛饰吟俦悦。交流文化架津梁，创“瀛偲坤晔” 《梅樱诗叶》，亦曾履践，短诗成韵札。纵然隔海浪滔滔，“渡海吟鸿”越。

注：“瀛偲坤晔”是葛饰吟社中山荣造先生创设的汉字新短诗的简称。《梅樱诗叶》：为笔者所编诗刊，主要刊载‘晔坤瀛偲’汉字新短诗。“渡海吟鸿”，是《梨云》诗刊的栏目。

### 相见欢 （张鎡·晓来闲立回塘 体）

古称东土隋唐，在东方。富士山边城郭，是邻邦。梅萼樱花香艳，好风光。高谊传扬世代，福绵长。

### 望梅花 （和凝·春草全无消息 体）

华夏东瀛相望，习俗衣冠相像。两国邦交开气象。趁逐和平挥桨，长渡险滩飞巨浪。豪气雄雄千丈。

金 中 1975年生 陕西省西安市

## 日本景物诗

### 东京皇居

皇居深绕护城河，河面随风荡碧波。  
锦苑青墙高树密，草坪广场短松多。  
依门肃穆立宫警，戏水怡然泛御鹅。  
最是芳春晴丽日，翩翩漫步兴如何？

注：皇居，位于东京都千代田区，为原江戸城旧址。

### 玉楼春·东京之恋

对君亲爱无终点，犹似回环山手线<sup>1</sup>。黄昏池袋品和餐，  
有乐町观洋影片。依依相送新桥站，难慰我心深眷恋。  
明朝共赏杜鹃花，新宿御园<sup>2</sup>当复见。

注①山手线，东京之环状电车主线路，池袋、有乐町、新桥、新宿均为其站名，有乐町、新桥二站相连。②新宿御园旧为信州高远藩主内藤家之江戸宅邸，明治维新后改为皇家庭园。

### 游京都二条城

行宫历悠久，始建自家康。  
殿宇驱神骋，回廊沁足凉。  
情深莺婉转，秋重叶金黄。  
隐约琴声起，余音绕画梁。

注：二条城，京都市右京区古迹。受江戸幕府第一代将军德川家康之命，始建于庆长七年（1602）。

## 夏雨初霁，游经嵯峨野农田

淡墨轻云雨后天，山前遥处起村烟。  
蜻蜓戏舞潺潺水，叶穗低垂翠稻田。

注：嵯峨野，京都市右京区保津川北岸一带之通称。  
平安时代嵯峨天皇建离宫于此。

## 夜着和服木屐散步于桂川<sup>1</sup>河畔

苍松依岸伴鸣蝉，汨汨<sup>2</sup>长流泻桂川。  
摇曳华灯波縠上，一弯纤月照岚山。

注①桂川，流经京都市西部，其上流称为大堰川。

②汨汨（gǔgǔ），水急流状。

## 伊势平原即景

群山横亘漫苍苍，杉树葱茏稻欲黄。  
平野展舒如画里，蓦然一鹭起翱翔。

注：伊势平原，位于三重县东部，面临伊势湾。

## 咏菅原道真<sup>1</sup>

菅公清质复谁伦？喜怨还同白氏<sup>2</sup>亲。  
玉洁情操犹胜雪，锦华文采自通神。  
繁都月色来新梦，孤岛钟声伴老臣。<sup>3</sup>  
寄语东风相问讯：梅花无主莫忘春！<sup>4</sup>

注①菅原道真，日本平安时代的公卿、学者、诗人，官至右大臣，著有汉诗文集《菅家文章》《菅家后集》。后世被尊为日本的学问之神。

②指白居易。③菅原道真晚年遭谗言左迁大宰权师（大宰府位于今九州福岡县）。其《不出门》诗颌联云“都府楼才看瓦色，观音寺只听钟声。”④同时期菅公亦咏和歌「東風吹かばにほひおこせよ梅の花主なしとて春を忘るな」。

## 椰子吟

岛崎藤村有诗《椰子之实》，拟其意作。

汪洋流椰子，日暮黯长吟。  
辗转迷途越，颠摇彼岸寻。  
自挥孤苦泪，谁慰旅愁心？  
遥梦乡林故，枝繁叶已深。

注：岛崎藤村，日本近代著名诗人、作家。

## 至常寂光寺<sup>1</sup>时晚，栅门闭矣

嵯峨依旧古风存，前有修林近有村。  
闲选缠绵小仓赋<sup>2</sup>，永传萧瑟定家魂。  
落英点点青苔路，摇叶翩翩苍木门。  
蓦地梵钟增阒寂，余音如缕诉黄昏。

注：①常寂光寺，位于京都嵯峨野小仓山山腰。寺中有纪念镰仓时代初期和歌诗人藤原定家之歌仙祠。②藤原定家晚年静养于小仓山庄时，尝选百位古今著名和歌诗人之作各一首。后世称之为“小仓百人一首”，在日本脍炙人口。

## 十和田湖畔即景

天际未分云与山，夕阳留恋透光环。  
清凉湖面栖归艇，波浪依依拍岸湾。

注：十和田湖，横跨青森、秋田两县的大湖。

## 自河口湖返东京途中作

连绵万里覆群松，秋雨初晴更郁葱。  
富岳真容何处是？渺茫云雾笼千峰。

注：河口湖，富士五湖之一，位于山梨县东南。

## 咏姬路城

白壁灰檐叠几重，人言鸥鹭欲腾空。  
我观恍若天宫降，冠首扶桑巧匠功。

注：姬路城位于日本兵库县姬路市，17世纪初建造，是日本现存最大的城郭建筑，代表了日本当时筑城技术的巅峰水平，其天守阁被指定为日本国宝。因城墙白色，被喻为形似即将起飞的白鹭，姬路城也被称为“白鹭城”。

## 咏神戸牛肉

点缀纵横霜雪纹，嫩红一片质均匀。  
香甜化口心常羨：享此天珍神戸人。

## 东京隅田川<sup>1</sup>焰火歌

焰火盛会三百年，意匠巧集大江边。  
殷期仲夏黄昏后，两国顿成不夜天。<sup>2</sup>  
颗颗流星射上空，划弧弦，嘭然迸作火花千。  
或如蝌蚪缭乱舞，或呈辐射伞冠圆。  
忽成火树泻金雨，偶似亭亭碧竹竿……  
凝神驻足仰首瞻，魔术纷呈若梦仙。  
斑斓炫烁虽一瞬，幻影长留在心田。  
时时喝彩掌声传，观者动之如潮立如山。  
多为青春妙龄辈，疑是东京倾城出动集此间。  
团扇轻摇意翩翩，浴衣罗裙薄且单。<sup>3</sup>  
情侣依偎漫私语，牵手搭背复勾肩……  
于此缤纷熙攘微醉里，恍觉列诸男者英俊女者妍。  
噫嘻！安得来年携吾钟情子，观之扶桑浪漫风物篇！

注①隅田川为东京最大河。自江戸时代起，每年于河岸举行焰火大会。②两国，东京墨田区地名，为隅田川焰火大会中心地。③浴衣，夏季所穿单和服名。日本有着浴衣赏焰火之风俗。

## 应工藤纪夫先生<sup>1</sup>之邀赴轻井泽<sup>2</sup>别墅小住，诗以相赠

七月京城逢酷暑，林中气爽胜清秋。  
莺歌婉转滑如玉，枝叶繁深翠欲流。  
旭日霞生千曲水<sup>3</sup>，夕阳云锁浅间头<sup>4</sup>。  
此行眼界得宽拓，恍若桃源世外游。

注①工藤纪夫，日本棋院九段棋士。②轻井泽位于长野县中部，为日本著名避暑地。③千曲川为信浓川上游，流经长野县。④浅间山，横跨长野、群马两县的三重式火山。

### “富士汤”浴后作

淋漓夏夜泡钱汤，浴罢置身风扇凉。  
谁解人间真妙谛？心随意处即天堂！

注：“富士汤”，余住所附近“钱汤”（日本公共浴池）名。

### 咏日本少女

长吆闹市顶寒风，少女旗袍中国红。  
拼为武昌酬义款，每回九十度深躬。

注：日本十四岁女孩作为志愿者，于东京池袋西口公园为武汉募捐。

### 咏日本中国餐厅华人店主

信是中华有义人，时危餐馆克艰辛。  
便当连月稳发放，赈济东洋贫困民。

注：位于日本东京锦丝町的中国料理店主李星海在疫情期间坚持每天免费发放便当，供应附近贫困居民。



练 欢 1977年生 福建省厦门市

### 丽 江

古道空追驿马铃，玉龙遥望倚天倾。  
满城芦管吹长夜，雪色清于月色明。

### 望中有感

雾合瑶台一刹开，曾是仙人携手来。  
万里星河如昨梦，芳尘容我暂徘徊。

### 咏秋绽樱花

小春天气亦清嘉，一抹山樱灼晚霞。  
想是花怜秋月好，倾城绝色共天涯。

### 听泉山诗社初聚

问泉风竹里，真趣会心时。  
照影一空尔，援琴三唱之。  
人因诗梦萃，兰为翠岩滋。  
桑酒何当再，流觞坐碧澌。

### 春 情

不信芳怀散作烟，朱弦绿酒酌欢然。  
扫成螺黛春犹薄，赋得桃花夜未眠。  
三界算来终苦旅，无涯之外是情天。  
相思待我从头忆，宾雁浮空去似年。

## 清平乐·榴 花

谢家池阁，绿掩深红萼。宿酒未醒香绰约，晓面妆成犹灼。点鬓薄媚从容，伴我弦索轻慵。相照流光似火，一生不与春风。

## 浣溪沙·迪拜渡中秋寄厦门诸友

一色空明各有天，依方清宴子方眠。举觞东望塔如山。虚宇何心旋日月？人间此夜重团圆。金沙碧海亦婵娟。

## 渔家傲·今岁寒

南岸浮烟清映蕊，北桥昨夜梅开未？锦绣帘栊深拥毳，今又是，波心摇冷流光碎。樽酒重持何日事，惜花物序思如绮。逆旅闲身春有几，驹隙尔，飞霜欲晚炉初沸。

## 祝英台近·鼓 琴

洞庭波，南浦雨，都作四弦语。怨上眉痕，何事上心府？湘灵笑我多情，香蘅紫蓼，教花事、乱随春去。度新句。拟把绮岁流年，谱与酒边侣。又恐流年，散作梦中絮。燕吟莺舞浮生，非关愁索。北峰下，缓歌如缕。

## 八声甘州·厦门沙坡尾往事

向圆沙遥望海疆清，山岛又逢秋。有波光如玉，灵宫香泛，帆影初收。渔笛杳，栖不定、聚散几沙鸥。检点澎台事，细说风流。铁舰排空击水，送将军此去，复我金瓯。想官亭两岸，烟雨盼归舟。算毫端，鹤飞松老，怅平生，出处意难酬。浪涛里，旅人游女，一阕前愁。

夏 凯      1986年生    浙江省杭州市

### 七月三十日作寄石仓秀树先生其一

人生俱幻莫当真，此是烟云变化身。  
我自无来亦无去，心同太古出淳淳。

### 寄石仓秀树先生

十年交际渐相知，多少尺书酬唱之。  
慕宋追唐心力健，推和崇汉眼光奇。  
偶从笔下窥仙气，暂寄人间制好诗。  
何日随君登富士，来看白扇倒悬时。

### 寄王岩先生

辗转生涯何处是，匆匆聚散似行云。  
人间交结应无数，此日座中独忆君。

### 寄王岩先生

先生随处赋诗篇，妙句得来总偶然。  
兴致高时频把酒，胸襟宽处可容天。  
离乡负笈三千里，伏案修书二十年。  
老去风神犹抖擞，执鞭自在古心田。

### 二零二二年八月八日苕溪河畔望月寄陈小溪

天上月儿还未圆，明朝又减一分残。  
何时溪畔同望月，倒影人间两处团。

### 寄陈小溪

前尘往事已如烟，愿祷三生结夙缘。  
自点心香成一炷，春风小立佛龕前。

### 春日登山寄陈丽华先生

翠微深处快新瞻，直觉春来绿意添。  
一日登临无个事，幽人小立玉簪尖。

### 庄子寄徐安杰先生

万卷图书撰一经，生平学说有谁听？  
高歌往日何妨醉，痛饮今朝不复醒。  
是我乘风化蝴蝶，如他点水作蜻蜓。  
翩翩思绪无眠夜，起看中天亿颗星。

### 咏水寄冯虎兄

日日亲君不厌君，思君止渴饮纷纷。  
生涯如此真平淡，惯听人间君子云。

### 咏龟寄魏厚宾兄

八方龟背可承天，四足悠闲一万年。  
游到沧溟最深处，始知吾土阔无边。

### 咏蜗牛寄潘世英先生

一身负重更艰行，四海纵横天下征。  
我亦如龙长头角，平生只为露峥嵘。

## 特別寄稿：中華詩詞学会 1 2 詩家作品選

今号の編纂にあたり、中国詩壇の先生方の作品を紹介したいと願っていましたが、中華詩詞学会の会長や副会長・顧問及び『中華詩詞』雑誌の編集者などの詩人 1 2 名の方から玉作の本誌掲載の許諾をいただきました。会友金中さんに仲介の労を取っていただきました。

中国詩壇の先生方、金中さんに厚く御礼申し上げます。

### 周文彰

#### 壺口瀑布

水霧升騰彩半空，蛟龍出海嘯聲隆。  
一壺任瀉東流遠，吐納天河樂不窮。

#### 黃果樹瀑布

未露尊容已發威，縱情咆哮顫心扉。  
水簾洞外簾涵涌，洞里風狂雨濕衣。

#### 井岡山瀑布

峰巔一躍氣沖天，直落龍潭起白煙。  
峭壁懸崖何所懼，源頭活水匯河川。

#### 近看廬山瀑布

掛瀑高懸萬綠巔，油然仰看水連天。  
瀉流激起風吹冷，聲似兵揮百丈鞭。

## 贵阳钙化瀑布

瀑流笔直未曾闻，直线斜依大摆裙。  
裙体中空纯钙化，平潭水落起氤氲。

## 南江峡谷瀑布群

悬崖窜出百条龙，急坠深渊竞俯冲。  
砸碎腰身欢笑起，丛生险象也从容。

## 尼亚加拉瀑布（ナイアガラの滝）

彪悍新娘水面纱，马蹄助威落声哗。  
一头扎进卧龙底，溅起滔天巨浪花。

## 伊瓜苏大瀑布（イグアス滝）

大河底裂马蹄开，水跌三边下跳台。  
巨响环生声震耳，呼风唤雨八方来。

## 郑欣淼

### 黄河壶口瀑布

恰如万马竞飞缰，碎雾冲天映夕阳。  
黄浪夹川刹收尽，壶中日月几多长？

### 端 午

南熏饶瑞气，节物感明霞。槐绿百年树，榴红五月花。  
艾符情密迩，蒲酒意幽遐。霜鬓他乡客，犹思陇上麻。

## 儋州东坡书院

老去投荒意绪殷，合教沧海矗昆仑。  
和陶清句水云境，劝稼至言黎汉村。  
载酒堂传读书种，桄榔林记逐臣魂。  
斯人不幸斯文幸，南国彬彬风雅存。

## 中华诗词学会第三次全国会员代表大会感赋

刚惜京华春事迟，欣逢盛会绿偏肥。  
九州生气凤凰笔，千古文心瑰玮词。  
耆彦正声犹俊健，霸才高格自嶷崎。  
忝移前座惭惶甚，诗运中兴何敢辞。

## 纪念杜甫一千三百年诞辰

常向龙泉祝锋镢，心潮每逐杜诗高。  
千章凤髓追三昧，卅载春花叹二毛。  
杯里风波笑谁等，人间丘壑待吾曹。  
情怀家国自无限，一脉绵绵岂惮劳。

## 苏幕遮·缙云仙都秋夜

殿云高，峰影俏，明月无边，明月无边照。弥野秋虫鸣  
浅草，阆苑今宵，阆苑今宵好。事常乖，人易老，千古  
仙家，千古仙家杳。絮果兰因谁逆料？尘梦依稀，尘梦依稀  
绕。

## 鹧鸪天·内子六十生辰

六十年华不可追，衰颜犹记嫁时衣。胼胝曾织桃源梦，  
濡沫同吟赤壁词。瓜压架，豆爬篱，燕郊风物老来宜。  
何时最是多生趣，一抹斜阳雨后畦。

## 贺新郎·谢王世襄先生惠赠《自珍集》

掩卷寻思久。算方知、物皆有道，物皆能究。原本人生多趣味，直待搜求参透。这玩字、天机当有。总总林林窥胸臆，自能珍、人更珍情愫。雅俗韵，运斤手。灵奇天毓天应佑。笑回头、劫尘历历，此心株守。俚侣涸辙相濡沫，锦思花雕云镂。广陵散、流传今又。莫谓忽忽崦嵫近，看根深、大树枝枝秀。人似昨，此衫旧。

## 水调歌头·景山万春亭远眺

花柳各争胜，城阙正春喧。沉沉一线中轴，气象逼云天。次第巍峨宫殿，左右堂皇坛庙，辐辏涌波澜。西北五园迹，遐思到邯郸。阪泉血，燕市筑，蓟门烟。几多龙虎拏掷，得意此江山。漫道金元擘划，更叹明清造建，宏构震瀛寰。总是京华好，一脉自绵绵！

## 金缕曲·奉和叶嘉莹先生癸巳恭王府海棠雅集新词

又到花时节。正春酣、天香庭院，海棠芳靥。红蕾乍生惊明艳，浅晕更添新叶。漫体味、胸无俗物。韵致自宜诗与画，一湖风、轻漾融融月。园萃锦，地铺雪。柔枝老干高墙拂。忆年年、堂前王谢，泡沤曾阅。无履权臣光焉葆？末世亲王日拙。风雅事、斋中晋帖。如此江山如此树，旧楼台、谁见芳菲歇？但不语，绕花蝶。



## 高 昌

### 西海夜思

连绵清赏此番殊，宛转幽思逐水铺。  
月自婵娟衔拱壁，星随潋滟撒骊珠。  
偏多鲛泪从心贮，欲倒龙宫试手扶。  
河汉低时入怀抱，浪头起处见江湖。

### 中秋月歌

酒如世味漫倾樽，霜似乡愁铺入门。  
微起金风浮桂影，乍开碧落转银盆。  
双眸独醒人间夜，孤抱同怀溪上村。  
万古天青一轮白，光辉洒得满乾坤。

### 端午咏诗

有的诗篇有的人，幽兰心迹劲松身。  
宁随渔父吟迁客，岂为怀王作弄臣。  
泽畔金瓿叹砧杵，潮头铁血曜星辰。  
龙舟试看渡端午，鼓棹年年是草民。

### 雨水节即兴

河冰渐薄欲开先，诗脚争驰雨脚前。  
蝶梦红从梅影合，莺声绿入柳丝圆。  
家常冷暖含情换，世态浮沉带笑传。  
寄语甘霖加速度，早分淑气润农田。

## 白露诗

飘然节序蓦然更，暖渐萧疏寒暂轻。  
天下露从今夜白，囊中诗比古人清。  
岁流星月一帆远，秋染蒹葭两鬓惊。  
倔立风前喷怒绿，大松铿锵涌心声。

## 雨中岚山读周总理纪念诗碑

如磐忧患压当年，手抚诗碑思慨然。  
浊世阴晴真莫测，清秋冷暖最堪怜。  
满山树色浮轻霭，一线阳光接浩天。  
舒卷流云吹小雨，伞花开阖动心弦！

## 哈尔滨圣索菲亚大教堂感怀

东土葳蕤西土枝，古钟新振正逢时。  
等闲风雨青山在，不语春秋沧海知。  
天下无私为本色，人间有爱筑根基。  
阳光未必分中外，暖遍环球一首诗。

## 钟振振

### 登白沙桥望建德县城

作云水气与桥平，桥外山城列画屏。  
看到屏山昏黑后，万窗媚眼向人青。

## 泰 山

特立东方若虎蹲，浩然作气塞乾坤。  
千年风雨撼不动，此是中华民族魂！

## 初至兰州闲步黄河漫成一绝

壮心与墨久销磨，费得江南软水多。  
偶向皋兰山下去，却将青眼看黄河。

## 夜登重庆南山一棵树观景台看市区两江灯火

云台露叶舞风柯，快意平生此夕多。  
人在乾元清气上，三千尺下是银河。

## 自题韩国民俗村假面具商店前所留小影

客途已半百年身，鬓有霜花鼻有尘。  
老丑面皮仍自惜，向人不改旧时真。

## 松花湖

松花秋水一湖清，四百里山围玉枰。  
最爱夕阳红湿处，渔船似在火中行。

## 西 湖

四时花气酿西湖，细雨噙香淡若无。  
一似春宵少女梦，最温馨处总模糊。

## 雁荡山大龙湫

一绳水曳素烟罗，百丈疑悬织女梭。  
何必秋槎浮海去，攀援直上即天河。

## 星 汉

### 临海龙兴寺

梵呗声声出大唐，天台弘法起慈航。  
千年已了三生愿，万里长烧一炷香。  
山顶浮图擎玉宇，门前流水到扶桑。  
逢僧殿外移时语，不觉城头下夕阳。

### 惠州东坡故居

不向苍天问始终，神州万里驻心胸。  
已辞北阙青云路，来住东江白鹤峰。  
春雨夜吟先入梦，山风远访却无踪。  
挥毫尚未诗囊满，琼岛烟涛又几重。

### 重登鄂州西山

好景如良友，重来续旧缘。  
涛声催落日，山色入遥天。  
风起观音阁，凉生菩萨泉。  
敲诗犹未稳，举首问坡仙。

### 贺新郎·登崆峒山

期盼登临久。自孩童、青灯夜话，梦中飞走。少壮天涯都行遍，此处山门未叩。而今是、幡然皓首。洞府楼台全经眼，却未逢、仙骨崆峒叟。拜奇石，作良友。

收来好景皆私有。用相机、高低远近，穷搜无漏。归去挥毫多诗料，敢向儿孙夸口。说顽健，身心无垢。四顾峰巅谁从我，只清风、吟啸随身后。鸟翅远，夕阳瘦。

## 奉奠屈子祠

挥袂昆仑下碧虚，清风扫路步徐徐。  
赞歌老树鸣青鸟，祭品寒塘跃白鱼。  
三户已亡秦二世，二庭来拜楚三闾。  
倘如魂魄能留我，玉笥山头可定居。

## 访阿克苏乡

为使来人眼界舒，春风昨夜绿平芜。  
青云长护博格达，白浪远翻阿克苏。  
四面雪山田万顷，一条大路树千株。  
夕阳西下休归去，待烤全羊已入厨。

## 夜 饮

一宵风雨涤心胸，明日天山路万重。  
说与诸君莫逃酒，穹庐已被野云封。

## 谒左公园

鞠躬雕像听高谈，未饮酒泉人已酣。  
衰鬓西征辞冀北，英灵东去守湖南。  
乌孙故土重收拾，赤子生涯已煦涵。  
今日登高回首望，天山雪衬雁空蓝。

## 水调歌头·石钟山寻苏

岂料白头后，又上石钟山。秋声鼓荡江水，依旧送流年。  
仰看南征雁阵，俯听噌吰石罅，万类竞霜天。塑像晴空下，  
长揖见坡仙。频问讯，多指点，共流连。词风步武豪放，  
今日得真传。四海先生足迹，我也追随前往，标格润心田。  
诗在夕阳外，人在彩云间。

## 莫愁湖

洛阳访过访金陵，有幸今朝访石城。  
绿柳翻风挥舞袖，碧波荡日送歌声。  
千秋桑梓归魂魄，一统江山共姓名。  
十里长堤行未了，莫愁多见又重生。

注：莫愁，古乐府中所传女子。一说为洛阳人，为卢家少妇。另一说为石城（今湖北钟祥）人。或将石城误为石头城，谓为金陵（今江苏南京）人，今其地有莫愁湖。

## 杨逸明

### 与老友丁香花园小酌

今夜星辰昨夜风，人生珍惜几回逢。  
入新世纪谈新梦，聚旧园林忆旧踪。  
一夕叙情茶沏热，千杯感慨酒斟浓。  
重温往事微微醉，笑遣寒冬变暖冬。

### 2022年元旦收看维也纳新年音乐会

乐事新年第一桩，管弦收视隔重洋。  
翩翩舞步编童话，袅袅音符筑梦乡。  
此刻人生惟有美，何时世界再无殃。  
大厅金色飞旋律，伴我今宵祝愿长。

## 吴江闲居

幽栖已不羨林逋，我屋之西亦有湖。  
窗外连天千顷浪，盘中佐酒四腮鲈。  
烟云影起供挥写，风雨声来伴打呼。  
谁料未曾求富贵，竟能垂老住蓬壶。

## 早春即兴

腊梅开过玉兰开，款款春光走近来。  
鸟已分期传口信，花常别径出心裁。  
根枝正吮知时雨，蓓蕾皆怀隔岁胎。  
大块面前呈小技，诗人无不是庸才。

## 秋 兴

萧斋昼梦忽然醒，雨后西窗爽气生。  
久对秋风知骨瘦，时翻古籍觉神清。  
红茶沏入残阳色，白髮搔来落木声。  
骚客尽情吟百感，动人终不及虫鸣。

## 见初中毕业证书有感

泛黄一纸见当年，可爱师生面孔鲜。  
绮岁指间流去急，惊眸照上瞪来圆。  
人常垂老留连梦，诗总多情捕捉烟。  
我化顽童与顽叟，今宵对话两无眠。

## 读《离骚》

一自灵均赋楚辞，直教骚客至今痴。  
美人追到云霓外，芳草浇来涕泪时。  
代代国殇垂伟节，声声天问动哀思。  
不将生命磨成墨，几个真能写出诗。

## 西江月·自述

年代遭逢探索，青春经历崎岖。封资毒草劫余书，读出人生感悟。言志吟些律绝，养身烹点鱼蔬。老来常伴有茶壶，旧梦新芽同煮。

## 西江月·京城雪后逛琉璃厂文化街

漫步来寻文化，琉璃遍缀琼瑶。旧书店里尽情淘，几个闲章甚好。不逛西单北海，未游王府鸟巢。文房用品入背包，支付零钱得宝。

## 西江月·立冬

懒散阳光乏力，稀疏菊瓣留香。水杉摇曳杂青黄，犹带残秋断想。昨日喉头干涩，今宵腿脚微凉。吟翁搔首为诗忙，风骨依然无恙。

## 熊东遨

### 夏日楠溪江探源小憩石桅峰

小坐云林下，怡然品至清。嘬波鱼可数，挂树蝶初成。所见虽常物，何曾失正声。穷源余我辈，不畏路难行。

### 感秋二首

寒松与梅竹，未必并时生。天道无私授，心弦有共鸣。谜团烟万缕，残梦雨三更。见说枫将火，观游待放晴。

湘粤亲缘并，无方减别愁。放帘聊避月，非我不知秋。露下珠泉响，萤飞豆火流。乡音原始味，只合咏孤舟。



## 登太白楼怀诗仙太白

前身位已列仙班，何用长安近圣颜。  
天性只宜杯得宠，好诗多与月相关。  
无边野色供孤啸，百味人生取一闲。  
寄语寰中登眺客，此峰能仰不能攀。

## 新西兰陶波湖写意

浴鸥重见古时清，万里心期野水盟。  
云锦一团和气在，雪峰千仞冷芒生。  
食人部落遗图谱，强国文明有典型。  
沾得地球南半福，碧波深处濯吾缨。

## 沙湖写生应宁夏馆约

百种娇柔画不全，抚波如对小灵仙。  
明霞织锦晨妆着，宿鸟开声序曲圆。  
心逐舆图迷圣境，梦随驼队下银川。  
人间代有调和手，擅活枯根引雪泉。

## 秋事偶题

秋声未必不堪听，竹露弹珠响玉屏。  
流火待消诗七月，片云曾记梦零星。  
遥传问字高车到，恰值敲檐小雨停。  
想见来春迟雪里，万峰争补老眸青。

## 八声甘州·夏日偕诸子醉云湖晚步

小廊桥踏过水西湾，依稀见螺洲。正天风吹起，满湖碧浪，壮我清游。便拟将船买酒，吟啸约同俦。恰值晴晖里，白月当头。对此湖山佳处，说前朝故事，少个缘由。是东坡未至，文字不曾留。待招邀、林间鹤侣，趁醉馀、信笔补春秋。神仙梦、凭空做得，何用丹丘。

## 最高楼·立夏后三日金岳山庄访旧感呈与会诸公

山阴道，百里访相知。误了饯春期。清觞小续兰亭会，序芳红到石榴枝。笑吾侪，经劫火，尚馀诗。深浅梦、概由心作主；尘俗事、不妨人听雨。烟阁下，坐多时。屏前点划原无忌，醉中言语或云痴。叹西园，莺歇早，露生迟。

## 水龙吟·立春后五日白云湖小游午后狂飙骤至

垂杨抖落馀寒，万条争报湖神醒。金莺唱晓，玉荷团露，曲圆光迥。着彩云流，拖蓝水漫，活他峰影。问闲愁剩几，从头细算，无非是、零归整。一霎风涛翻滚，笑潜鳞、未驯龙性。片石弹珠，孤桐挂瀑，足成虚景。见说人间，林苔涧草，例能呼应。奈先生不敏，桥亭默坐，少观潮兴。

## 临江仙·春半游埔排嶂见石罅松苗

沐日晨妆未卸，抟风舞影初圆。分明一个小灵仙。童心无管束，天道自成全。僻处寻常岁月，清时偶尔因缘。不争不却不拘牵。身形孤石上，根脉六朝前。

## 王玉明

## 水龙吟·上元节拜海上观音圣像感怀

——依辛弃疾韵

周遭南海澄蓝，波涛万顷连天际。仰望观音，慈悲含目，祥云环髻。红日生辉，春风施惠，香熏游子。遍人间俯瞰，生机勃勃，循天理，遵禅意。如是我闻精粹。诵心经，色空知未？茫茫宇宙，鸿蒙开辟，何来元气？量子纠缠，时空相对，莫能明此。悟虚实互动，凝神止水，免多情泪。

## 贺新郎·赏昆剧《桃花扇》有感

——依张元幹韵

2017年10月13—14日，在新清华学堂相继观看全剧和选场演出，感慨不已，一吐为快，赋词以记。

泪洒天涯路。放悲声、情愁国恨，断肠离黍。兵败孤城皆殉难，壮烈波涛翻注。遍山野、荒坟狐兔。臣佞君昏倾砥柱，听秋风、时把凄凉诉。弃宫阙，知何去？秦淮谁可同寒暑？叹佳人、赤心永驻，痴情遥度。血绘桃花千古扇，相寄迢迢共语。啼永夜，销魂杜宇。哀怨孤鸿迷晓雾，尽漂泊、空忆相尔汝。怨似海，愁如缕。

## 摸鱼儿·屈原《九歌》读后感赋

——依辛弃疾韵

动心旌、九歌千古，至今余韵如缕。洞庭波涌西风嫋，木叶落兮无数。江畔伫，司命眺、湘妃魂魄归何路？湘君不语，恨尽日愁思，凝成清泪，化作两丝雨。惊山鬼，愉悦佳期恐误。芳馨窈窕人妒。伤秋怕听秋风赋。脉脉云中君诉。神女舞，巫峡里、幽兰杜若熏乡土。相思最苦。望水渚伊人，东君河伯，皆有断肠处。

## 雨霖铃·己亥清明缅怀屈原

——用柳永韵

鹃啼悲切，看桃花谢，夜永人歇。潇湘望断无语，空添顶上，萧萧银发。半闭朦胧泪眼，尽低徊凝噎。念屈子、江畔行吟，水冷烟寒野空阔。忠魂一去关山别。又偏逢、细雨清明节。公归邈邈星宿，朝彼岸、望穿云月。古往今来，谁见、煌煌宝殿长设？仰首叹、离恨悠悠，且任千秋说。

## 暗香·咏西施

——用姜夔韵

太湖夜色，蕴古今韵事，波心闻笛。素手凝香，犹记寒梅共攀摘。顾盼玉人脉脉，何必借、诗书文笔。尽缱绻、笑靥如花，疏影映瑶席。倾国，恨永寂。叹艳枕梦惊，绮馆忧积。别时暗泣，回首缠绵忍相忆？吴越兴亡漫议，归去也、蠡湖澄碧。更远泛、沧海外，或曾见得？

注：根据日本传说，西施最后到了那里。

## 声声慢·灵岩山怀古

春秋史阅，试问吴王，当年可料惨灭？玉殒香销空恨，馆娃宫阙。歌台舞榭迹绝。墨客吟、晓风残月。叹往事，任人评、美艳复惊凄切。只有灵岩山佛，看不尽、斜阳古今伤别。暮鼓晨钟，更伴子规泣血。茫茫太湖隐约，远涛声、夜夜听彻。在碧落，想必是冰雪冷冽？

## 永遇乐·鲁迅故居感怀

——用辛弃疾韵

风雨如磐，冻云翻墨，魂魄何处？一缕心香，九重夜色，彼岸扶摇去。瑶台琼阁，芳莎玉树，豪杰神宫应住。立寒宵、栏杆拍遍，俯看尘世龙虎。权谋胜负，轮回无数，谁屑回眸一顾？可叹黎元，浩茫心事，难觅桃源路。暮秋萧瑟，征鸿远逝，但听群鸦噪鼓。悲凉问、轩辕荐血，昊天晓否？

注：鲁迅诗云：“风雨如磐闇故园”，“心事浩茫连广宇”，“泪洒崇陵噪暮鸦”，“我以我血荐轩辕”。

## 寿楼春·中元节一日三度拜谒秋瑾女侠墓地雕像感怀

——依史达祖韵

秋湖芙蕖苍。拜桥边玉像，心镜如霜。剑气遥凌寒月，蕴含阳刚。三度谒、知情殇？永夜忧、钱塘波狂。赤县雨潇潇，先驱侠女，鲜血染红妆。英雄去，哀思长。听前朝怨曲，新世高腔。傲骨西泠凄散，野坡悲凉。飘僻壤，迁他乡。幸得归、重瞻遗芳。伴巾帼忠魂，孤山雪梅千古香。

## 桂枝香·梦游天山怀古

——依王安石韵

高原极目，见似海苍山，众巔争矗。道道冰川如练，下穿深谷。斜阳欲坠红霞涌，照峰峦、仿佛金镀。白云飞过，罡风骤起，雪侵肌骨。念人间、权钱竞逐。看成败兴亡，轮回何速。墨客骚人空作，黍离悲哭。浩茫心事无言诉，最伤情、岂关红绿。大河荒漠，阳关三叠，渭城遗曲。

## 沁园春·南海夜思

——依辛弃疾韵

脉脉斜晖，软软长滩，漠漠远峰。且暂抛尘念，聆听海浪；稍平块垒，仰望星空。斗转河倾，夜阑人静，肠断姮娥泣月宫。销魂处，唤书生归去，耳畔清风。枕边好梦无踪，恨不尽涛声涌入胸。问千秋进退，何论功罪？百家文野，孰计西东？电闪雷鸣，波谲云诡，龙虎汹汹斗未穷。晨曦现，为神州祈祷，再拜苍穹。

## 宋彩霞

### 船上人家

世代宿河滩，涛弦枕上弹。声为清夜细，志逐大湖宽。  
一网捞春色，千钩钓月丸。心头存万象，不变是长竿。

### 过龙江

云低天拍水，一望势滔滔。莫怪清流细，能生白浪高。  
波从桥外泻，韵向岸边淘。我取龙江墨，燕山煮小毫。

### 入京十四年

天涯一别莽苍苍，南北寻租廉价房。  
冬挽星辰光出海，日追雨露鬓消霜。  
多三况味和诗住，十四年来用笔忙。  
在手风云通世界，八条静巷有甘棠。

注：八条，胡同名。东四八条，中华诗词学会、杂志社办公地。

### 南歌子·读红楼梦

几点催花雨，三更梦不成。临窗默对一天星。那朵云儿  
脉脉向东行。一卷红楼梦，悠悠石上情。灯花缭绕念曾  
经。可惜曾经都是落花声。

### 菩萨蛮·渔浦书所见

曾经约定江潮弄，茫茫万里流云动。小子钓凉波，姑娘  
笑酒窝。苍烟收不起，落坐滩涂里。有个小船儿，鱼来了  
不知。

## 卜算子·观《烟雨凤凰》

月淡凤凰奇，水碧清凉界。试向珠帘啼一声，情坠相思海。不是不伤情，只是情难再。收拾悲欢谢幕时，瘦了原生态。

## 金缕曲·次韵敬和叶嘉莹先生西府海棠雅集

故苑泠泠水。漾西园、翠波清丽，红楼曾纪。淡注胭脂仙子态，占尽春光妩媚。有老树、悲欢都记。一曲清词来海外，趁东风光照朱门邸。说世事，赏花美。海棠红透春光里。这园林、楼台七宝，万千情意。无数沧桑随眼过，多少红颜泣泪。都做了、斑斑文字。禹甸春风圆好梦，看神龙今已腾空起。浮大白，向棠底。

## 登深圳平安大厦

扶摇直登最高楼，百十六层转回眸。  
回眸一揽鹏城水，不觉光阴瞬息流。  
当年脚步风雷响，炮声震天听半晌。  
划圈故事冲云霄，歌声响彻云霄上。  
拓荒牛儿步锋芒，万千义工不惧霜。  
往日苍凉俱往矣，伸延记忆有清香。  
幸得春心第一朵，伟人种出黄金果。  
莲花山上绽百花，年年看花人成夥。  
金风十万载新诗，眷恋心中第一枝。  
热血奔腾四十载，时代坐标厉有为。  
依依诗情云中送，飒飒金风吹好梦。  
点点烟波映楼台，缕缕斜阳歌三弄。  
大厦推开一扇门，纹路清晰演乾坤。  
芳菲无尽源何处？浩宇强音中国魂。  
地阔天圆涵秋水，东西南北楼参起。  
一抹夕阳近电梯，心潮滚滚不能已。

## 潘 泓

### 奥林匹克森林公园行记

柳条竹叶不曾霜，一缕秋风爽未凉。  
鸟啭琴箏真可听，枝垂枣棘似能尝。  
徐行步道山环水，合意园林绿间黄。  
此是生涯闲散处，翁婆都为健身忙。

### 伞

覆地撑天总不鸣，只将安适庇苍生。  
缠绵细雨三春意，感戴骄阳六月情。  
游子挈携行处远，好花开放望中明。  
佳人未止西湖遇，五彩蘑菇朵朵荣。

### 杭州拱宸桥

好从熙攘认前朝，人立烟霞第一桥。  
天上日星凭拱揖，码头帆船允喧嚣。  
沧桑岁月长虹跨，浪漫风情锦旆摇。  
文化长河看两岸，店家低傍碧杨条。

### 望海潮·成都东安湖

波摇荷盖，云迷桃髻，幽篁风密风疏。花影卧虹，文鳞  
唼藻，天光漾漾徐徐。香径过香车。有苕湾蒲沼，游戏双凫。  
仙子逢时，采莲歌里笑相呼。丹青一帧真如。爱缘山就  
水，作岭为湖。场馆阁楼，咸称杰构，已调绿紫蓝朱。或可  
效樵渔。泠泠凭濯涤，话笋谈芦。始信人间佳境，多是在名  
区。



## 楼 头

名都真不愧，事事暖深冬。  
锦绣旗群凤，琉璃壁九龙。  
施恩风已净，示好穀相从。  
忘却何时节，乡关隔万重。

## 街侧见迎春花，为叠韵二首

草木长知造物怜，一番春雨自娇妍。  
立身未择膏腴地，露脸偏成爽朗天。  
最好绿红争处处，不须开谢怅年年。  
寻常巷陌寻常色，黜罢吹嘘亦坦然。

小黄宜赏不须怜，只在芳菲少处妍。  
拭净浊尘原是雨，送还嫩蕊莫疑天。  
雷霆气力曾三鼓，鸡黍交情又一年。  
或许画堂嗤俚俗，山林襟抱向陶然。

## 汉宫春

知了初鸣，正海榴堪赏，蕝艾宜熏。蜻蜓红绿，恍惚画影纷纷。柔风软雨，算几番、邂逅闾门。人境里，喧嚣车过，沾衣未是香尘。幸可徐行小伫，想斑鸠拂晓，紫燕黄昏。不言看花佳处，左右曾邻。渔樵襟抱，得悠闲、酒浊犹醇。天地里，春秋冬夏，悠悠总是无痕，

## 胡 彭

### 初春疫中什刹海东玉河掠一小美

游船待渡客人稀，阶草丛生路半迷。  
大好春光谁最惬，绿杨水面鸭夫妻。

### 什刹海东玉河再掠一美

一带青帘藏早莺，春风颜色碧莹莹。  
柔条拂破粼粼画，垂柳合当为水生。

### 平安大街路边见杂花生树

压檐几树路边花，遥对上林皇苑奢。  
但使心中少攀比，入眸春色更无差。

### 过涓洲天后宫遥瞻如意妈祖像

如水温柔入眼来，天妃身畔彩云开。  
身持至善无关圣，人意潮音两自谐。

### 涓洲岛礼覬海上卧佛

波平得见佛温柔，细细涛声似带驹。  
但说雷音曾一喝，狂澜万丈霍然收。

### 无定河怀古

长河名字沉诗史，千古春闺梦在此。  
毅魄怨魂偶化形，阳光跳跃山花紫。

### 榆林红石峡观石刻漫漶有憾

雄石峡名留擘窠，后来补壁滥情多。  
人功穷尽榆溪上，莫奈如刀岁月何。

### 高铁遇雨挂窗如丝帘

忽雨忽晴伴远行，云来云去似无情。  
晦明大若人生路，际遇难猜又一程。

## 何 鹤

### 陈胜墓

千秋荒塚问谁怜，芒砀山深横暮烟。  
莫道草民如顺水，逼它无路可吞天。

### 过苏小小墓

山青水碧一番新，西子湖边小市民。  
犹羨前朝苏小小，不知秋瑾是何人。

### 惠州晨游

塔影波光梦可期，聊从世象拟诗题。  
山高月小闲听鸟，树老根深欲裂堤。  
落雨无痕云以外，知潮有信水之西。  
澄怀未必能观道，三角梅前欲解迷。

## 伊通河畔

此刻难将野兴收，斜阳晚照浸乡愁。  
可怜夜月频抛眼，无奈芦花乱点头。  
往事沉浮风瑟瑟，流云舒卷水悠悠。  
闲拈雁影黄龙府，带走家山那片秋。

## 临江秋色

白桦林中时纵眸，连绵红叶染乡愁。  
微风抹去层层雾，七彩叠成座座秋。  
莫管天光沉谷底，且凭诗意上枝头。  
自然便是神来笔，人在无边画里游。

## 浣溪沙·山村

信手篱边摘野花，小桥流水浣溪纱。石头房子是谁家。  
乍起山风先上岸，斜持竹篓慢捞虾。也听鸟语也听蛙。

## 临江仙·登三江塔

逸兴思飞频指点，雨中独立黄昏。书生意气此番新。早  
将名利淡，恪守性情真。俯仰三江交汇处，凭高纵览风  
云。横空出世与天邻。再难开境界，不配做诗人。

# 短詩目錄

掲載生年順

| 中 国         | 日 本（含旅日華人）           |
|-------------|----------------------|
| 刘德有 … 118 頁 | 今田 述 … 123 頁         |
| 王 渭 … 119   | 池田壽堂 … 124           |
| 段乐三 … 120   | 萩原艸禾 … 125           |
| 王众一 … 121   | 中山榮造 … 127           |
| 蘭陵屋主 … 122  | 石倉秀樹 … 128           |
|             | 芋川冬扇 … 132           |
|             | 松下半解 … 133           |
|             | 徐依苹 … 135            |
|             | 華 純 … 138            |
|             | 竹田憲生 … 139           |
|             | 王 岩 … 140            |
|             | 塚越義幸 … 145           |
|             | 和漢連句 歌仙「蜺舟」<br>… 147 |

刘德有 1931年生 北京市

## 壬寅逢十有感之六首

### 建交五十载

风云五十年，  
和平友好两邦欢，  
睦邻遵誓言。

### 信为先

交友信当先，  
风雨同舟共克艰，  
惊涛只等闲！

### 相交贵共赢

寰宇望和平，  
丽泽<sup>①</sup>相交贵共赢，  
风雨见真情。

注①丽泽，见《易经》。  
意为两泽相连，  
彼此交流，沁润滋益。

### 清风雅韵

红梅傲雪开，  
春晓清风雅韵来，  
花燃咏汉俳。

### 与日本俳友相逢

相逢分外亲，  
举杯常忆北京春，  
情笃似花醇。

### 俯首拾新诗

拂晓见晨曦，  
红紫花妍六七枝，  
俯首拾新诗。

王 渭 1940年生 北京市

王渭诗词选五首之中汉俳

一

莲、樱花并美，  
一衣带水和为贵。  
雅集诗词味。

二

俳、诗本同宗，  
樱花梅花春意浓。  
隔海也相容。

三

激情爆灵歌，  
短歌俳句苦吟哦。  
陶然入仙国。

段乐三 1944年生 湖南省长沙市

汉俳 八首

桃 花

一树百枝开  
倾情有朵你迟来  
花落别人怀

并蒂莲

荷湖花绽鲜  
绿叶新生并蒂莲  
鸳鸯俩傻牵

三角梅

春未到秋终  
三角梅花不正经  
时时媚眼睛

猴头花

高山经久冰  
千年冻土孕猴形  
灵隐露花蕊

金银花

一对白娃娃  
同心积善绽金花  
到老不分家

月季花

和阳催绽葩  
光鲜怡丽又繁华  
月月放鲜花

杜鹃花

载雨携南风  
入夏荒坡小做东  
一袭映山红

薄 荷

小草叶悠扬  
醒脑清神蓄善良  
为众送奇香



王众一 1963年生 北京市

### 组俳·温故向新

一九七二年，  
上海芭蕾访日团，  
七月降羽田。

九月佳讯传，  
中日首脑北京见，  
邦交破难关。

公报立信言，  
不忘过去史为鉴，  
特别提台湾。

邦交谱新篇，  
熊猫使者一马先。  
康康与兰兰。

角荣有答还，  
回赠樱种曰大山，  
扎根玉渊潭。

饮水应思源，  
和平友好筑基盘，  
前辈种福田。

回望五十年，  
峰谷曲折终向前，  
轻舟万重山。

展望天命年，  
沧桑百年时局变，  
正道在人间。

原点在信言，  
履行承诺须果断，  
信为万事源。

名典出先贤，  
勉励吾侪克时艰，  
携手向明天。

蘭陵屋主 1963年生 北京市

汉俳 十二首

晨起薄雾蒙  
杨柳舞动清凉风  
尽看白头翁

零落红尘飘  
夜雨樱花似逍遥  
寂寞至九霄

危楼勿独倚  
千帆过尽思绪起  
沙鸥惊梦昵

夜雨洒潇潇  
梦里慈母吟民谣  
归乡路迢迢

雨打一池莲  
人生如云多梦幻  
僧助心涅槃

驿传轻呼名  
夏日南浦船坞静  
蝉鸣离人听

释然释不然  
回首华发已过半  
悲喜路漫漫

蟾蜍燥热风  
推窗明月出山东  
何衣装暑中

夜雨独迎秋  
愿与邻翁一杯酒  
将語欲还休

漏液忆先考  
自古尽忠难言孝  
憾痛至终老

心随天地阔  
激流险滩撑篙过  
鱼米待收获

浮生苍茫茫，  
偷得闲暇意难忘，  
愿做读书郎。

今田 述 1929年生 東京都

漢俳四季 八首

春

鎮 江

桐花谷底開  
莫非吳母媒“劉備”  
紫煙春意濃

揚 州

渡輪解纜繩  
忽地眼前浮“鑑真”  
幻影在春中

夏

南京秦淮河

臨河夫子廟  
如今科舉成史迹  
遊舟年輕人

青 島

泡沫柔如絹  
“青島啤酒”剛出庫  
連綿歷史久

秋

兵馬俑

啾啾蟋蟀聲  
一將俑頭存被馘  
“項羽”怨起甬

仙 台

教室階梯斜  
“魯迅”離醫志作家  
秋聲似舊涯

冬

驅鬼節

撒豆驅鬼節  
豆子卻是中國貨  
來趕日本鬼

賀年卡

紅艷金色美  
“萬事如意”賀年卡  
遙自北京來

池田壽堂 1931年生 東京都

花之漢俳 十二題

成田山新勝寺

初春詣名刹  
諸堂山苑幽趣長  
梅花馥郁香

我家屋上庭園

拙宅樓閣間  
幽蘭散香數種發  
宋梅真可憐

日本橋濱町公園

隅田川風冷  
優美公園花桃開  
探勝暫徘徊

山高神代櫻

山高訪古刹  
老櫻千歲不忘春  
爛慢魅了人

上野東照宮牡丹園

陽春遊上野  
東照宮內牡丹園  
花王絢爛妍

龜戶天神社

甘香招眾客  
紫白藤棚覆碧池  
弧橋眺望奇

本郷根津神社

將軍鎮守社  
躑躅群落滿祇園  
斷崖正如燃

代代木明治神宮

神宮新綠鮮  
紫白菖蒲滿庭苑  
林泉相俟妍

文京白山神社

梅霖訪祇園  
紫陽花發滿丘上  
繡球沾雨鮮

隅田川沿岸公園

求涼休綠蔭  
何處樂園炎暑重  
如燃百日紅

日本橋梶森神社

高秋散步町  
漂香梶森金木犀  
每年裝社奇

新宿御苑菊花展

深秋遊御苑  
大輪多莖菊花鮮  
絕妙唯感歎

萩原艸禾

1957年生 川崎市

擘歌 三首

夏無情。  
炎蒸剽命、  
蟬不鳴。

夏は無情  
おび  
炎蒸命を剽やかし  
蟬も鳴かず

喘晴光。  
維在不在？  
縛驕陽。

晴光に喘ぐ  
つな  
維 在りや在らざるや  
驕陽を縛らん

一陣風、  
不似秋晴。  
寒又生。

一陣の風  
秋晴に似ず  
寒また生ず

偈歌 三首

新冠病毒，逢誰染懼？  
調情蕩婦，任蝮蝕。

コロナウイルス誰と逢ひて懼る  
うわきな くう  
調情蕩婦 蝮の蝕に任せん

柳絲搖搖，自弄春風。  
朱唇夜夜，弄愚衷。

柳絲 搖搖自づから春風を もてあそ 弄 び  
朱唇 夜夜 愚衷を もてあそ 弄 ぶ

郎臻百歲，妾亦九旬。  
頼君偕老，黃髮均。

郎は百歲に臻らん いた 妾も亦た九旬  
君に頼りて偕老 黃髮均しからん

## 坤歌 三首

家平穩。  
東家不知，  
坊市噂。

家は平穩  
ていしゆ  
東家は知らず  
坊市の噂

謝罪頻。  
低頭作型，  
既似馴。

謝罪頻り  
低頭型となり  
既に馴るるに似たり

收益矯。  
一方粉飾，  
他過少。

收益矯わり  
一方粉飾  
他は過少

## 漢俳 三首

煎茶水半渾。  
綠野西郊煙雨裏，  
連陰懶出門。

茶を煎ずれば 水 半ば渾<sup>にご</sup>る  
綠野の西郊 煙雨の裏  
連陰 門を出づるに 懶<sup>ものう</sup>し

紅椿鮮葉蔭。  
臥病三旬既替衣，  
窗外夕陽低。

紅椿 葉蔭に鮮かなり  
臥病三旬 既に衣を替へれば  
窗外 夕陽低くし

暗香花點點，  
俗事茫茫天地間。  
春寒倚机寬。

暗香 花は點點とし  
俗事は茫茫たり 天地の間  
春寒 机に倚りて寬<sup>くつろ</sup>ぐ

中山榮造 1939年生 千葉縣松戸市

### 步韵劉德有先生之漢俳

國士孫中山，香爐碧雲素秋天。詩繫帶水間。

注：訪碧雲寺而懷孫中山氏之遺德

### 模賦，步韵萬裕屏先生玉作三聯五七律世間丑象

多年世運遷，財與求威權。  
九旬八秩父母悌，無智無恥眾政官。  
不知真幸福，養痾未圖全。

### 短詩 四首

#### 曄 歌

迫童兒。蟬蛻脫殼，能幾時。

#### 坤 歌

爲政者。膝痒搔背，兩角爭。

#### 瀛 歌

萬頃波。斜陽皎皎，一帆過。童歸漁家，月掛松蘿。

#### 偲 歌

赴任多年，蜀雨巫雲。欲語別情，已厭聞。

石倉秀樹 1946年生 東京都

中山短詩 四體八首

曄歌・日華春

日華欣，曄歌清韻，共花春。

回文曄歌・秋 清

|     |                  |
|-----|------------------|
| 清風  | 曄歌：              |
| 明 好 | 秋夜明。清風好月，滿天晴。    |
| 夜 月 | 回文詩：             |
| 秋 滿 | 清風好月滿天晴，月滿天晴秋夜明。 |
| 晴天  | 明夜秋晴天滿月，晴天滿月好風清。 |

坤歌・筆與才

月半天。筆長才短，雪中閑。

倒讀：

閑中雪。短才長筆，天半月。

回文坤歌・詩

|     |                  |
|-----|------------------|
| 詩詩  | 坤歌：              |
| 屎 言 | 作屎詩。詩言志趣，酒催詩。    |
| 成 志 | 回文詩：             |
| 詩 趣 | 詩言志趣酒催詩，趣酒催詩作屎詩。 |
| 催酒  | 詩屎作詩催酒趣，詩催酒趣志言詩。 |

偲歌・濃春醉夢

櫻雲盛涌，黃鳥清啣。白頭醉夢，遊霞洞。



### 羸歌·口吻生花

有詩家，口吻生花，餐紫霞。酒洗齒牙，聲嘆生涯。

### 羸歌·詩酒

鳥聲新。白首探春，花底醺。酒洗俗塵，詩促清貧。

### 羸歌·詩作興

墨古香 清韻風中 詩作興 酣春探句 吟月飛聲  
倒讀：

聲飛月 吟句探春 酣興作 詩中風韻 清香古墨

### 漢語俳句（一行詩） 五句

世風日下天天異 青年作白首  
世異時移人不解 青年說外語  
世外桃源筆底生 詩中買雲液  
世態炎涼悲喜酒 甜娘守靜陪  
世道人心守美風 民喜花繚亂

### 用漢語俳句（一行詩）八句作十二言律詩·黃泉青眼

天生骸骨以浮雲爲肉 走人間，相競鳳雛求盛名 麟子喜窮研。  
畢業晉京出仕爲遊宦 安民意，披星戴月精勤到 愁城老僻邊。  
辭職詩苑買蝸廬 溫故磨香墨，浮想洞宮逢玉娥 含笑賣霞箋。  
夢筆堪揮馳縱橫 春秋醉心幻，風花雪月伴鸞情 青眼耀黃泉。

## 七言俳句 五句

詩客，憂國如凍鶴 詩客国を憂い凍てたる鶴のごと  
詩翁，吟詠老龜鳴 詩翁あり吟詠すれば龜が鳴く  
醉漢，無眠借蛙眼 醉漢が眠らず借りる蛙の眼  
蛞蝓，行旅鳳箋徐 なめくじ たび 蛞蝓の行旅鳳箋をゆるゆると  
蚊翼，休息在禪壁 蚊の翼休息しをる禪の壁

## 十七字詩（三句半）伴俳句 五首

天災害人類，人禍損天然。炭素增加熱，赤寰。

詞書：天災人類を害し，人禍は天然を損なひ

俳句：炭素増え赤寰（天下）に熱を加えけり

錦天無麗藻，繡地有山河。賞景風流醉，詠歌。

詞書：錦天に麗藻なく繡地に山河あれば

俳句：景をめて風流に酔ひ歌を詠む

聽天無指示，由命作詩人。飲酒擁膝夢，雨雲。

詞書：天に聴くも指示は無く命により詩人となり

俳句：酒を飲み膝擁く夢に雨と雲

白首三人喜，甜娘洗肺肝。醺醺醉說地，談天。

詞書：白首三人，甜娘の肺肝を洗うを喜び

俳句：醺醺と酔って地を説き天談ず。

重新寫釀辭，醉叟頻揮筆。箋面有黑天，墨地。

詞書：釀辭を重新かきなほ寫し酔叟頻りに筆を揮へば

俳句：箋面に黒き天あり墨の地も

## 漢俳 四首

### 醉待金秋

驕日迫白頭。  
消夏涼臺傾綠酒，  
月下待金秋。

### 樂 土

樂土是如何？  
天喜政清人裕和，  
憐貧敬老多。

### 龍跳虎伏

白首扮丹仙。  
揮毫龍跳靄金盞，  
虎伏咆碧天。

### 龍威虎震

詩想跨江湖。  
才筆龍威舞雲路，  
虎震促風書。

## 自製短詩 十八字令 二十一字令

### 十八字令·風漢罵天

風漢，罵天，怒號投酒盞。神媛，賺錢，笑送人歸館。

### 十八字令·蝶 夢

蝶夢，遺形，振翅遊仙境。倩影，乘風，飄舞衣無縫。

### 十八字令·詩人營酒肆

人死，留詩，幸哉無錯字。玩世，傾卮，轉生營酒肆。

### 二十一字令·賞 梅 二首

雪君伴，紅唇艷。梅林春晝鏡池看，清姿映漣泛，堪稱嘆。  
筆一枝，酒三卮。未收花信想瑤池，箋上遇芳姿，賣梅詩。

芋川冬扇

1948年生 埼玉県飯能市

漢俳 五首

送春 三首

落花去何之。  
新樹變景人老未，  
睡眸送春時。

簾影如酒痕。  
山月照窗春時過，  
斜風醒夢魂。

春曙花後村。  
綠風遍吹人不返，  
獨夢美人冤。

綠陰讀書

一卷獨讀書。  
一雨窗前春已去，  
一綠是吾居。

初夏偶吟

閑坐心氣爽。  
葵影搖風新綠肥，  
蛙聲遠田微。

漢語俳句（一行詩） 六句

反抗涼解的父母要求是直情。  
灯台非也到達點唯是照征途。  
人類生活交怙恃依存支自任。  
斷崖途中樓住草手離到決着。  
太陽上內神存在太陽非也神。  
忽然生起神來種育成逆世間。

松下半解 1944年生 千葉縣松戶市

漢語俳句（一行詩）從春到秋 二十九句

春 季

春陽下腳踏實地慢步暖身心  
花朵香氣濃小鳥輕啄愈發散  
櫻花新窗簾憂鬱心情稍和暖  
疫情如圖示喜憂折綫圖凝視  
東窗景致一新梯田層層無際  
封域再延續轉變心情待春風  
疫情再翻弄無顧慮盼早春季  
山菜新芽合掌姿告春意臨近

夏 季

仰視梅雨空古典旋律好心情  
樹萌下冷飲氣爽轉眼又暑熱  
茜色雲朶漸暗暑熱總算順應  
懷念煙花會不見往年風物詩  
小鳥啄青柿掉在地上三五個

夏暮垂刈野草一陣草香氣息  
疫情趨勢強欲外出躊躇半天  
照鏡赤紅臉晒強陽光証近夏  
思念友西逝回想謳歌青春期  
獨斟酒微醉鬱悶隨熱汗蒸發  
新冠總算緩和重得談笑遊逛  
闊葉雨珠閃爍翠綠愈發清涼  
日漸次螢光閃鄉味樂趣無窮  
舊友對斟酒暢談往時如雪崩  
八月終戰日維護和平再刻胸

## 秋 季

碧空下拾落葉逆光身影漆黑  
雲遮中秋月雲散圓形笑臉開  
路傍一輪小黃菊搖擺放芳香  
北風響醒來古典樂曲振精神  
稻垛堆田地天鷲啄落穗共存  
夜行仰望一煌星折路指歸程

徐依苹（青苹） 1951年生 千葉県松戸市

## 漢語俳句（一行詩）

### 梅櫻馥郁 十句

風風雨雨邦交路彈指五十年  
梅紅櫻緋映碧海三五月同圓  
櫻雲歲歲飄列島梅香好河山  
長江大河浪推浪富士寶石巔  
同天一衣帶水奈何亦近亦遠  
鄧公體驗新幹綫高鐵架中原  
海風往來東西岸商船魚貫行  
古刹晨鐘遠鑒真佛經誦千年  
先人植樹惠後人後人思先人  
同執方字書青史更待五十年

### 北 風 十句

又是黃葉瑟瑟時天遠雁聲稀  
最是無情風摧葉寒霜欺疏枝  
搖落黃葉身姿瘦古樹耐朔風  
朔風一夜霜滿庭寒雀三兩只  
荷枯殘菊暗破橙新嘗手留香  
朔風襲來天將雪新調羽絨衫  
寒風撫枝梅苞綻虬枝點點紅  
莫道寒冽無游趣踏雪賞臘梅  
頂風迎雪通學路童稚蘋果臉  
向陽暖坡得春早水仙吐新芽

### 燕雀同巢 七句

瓦檐小泥巢雛燕三羽雀一隻  
燕雀噉喳排排坐老燕哺食忙  
銜來蟲餌哺幼雛母愛大無疆  
燕雀齊振翅自嚮曠野覓新食  
紫燕花斑雀朝夕同巢共時光  
惡鬥長靈類不及燕雀共泥巢  
三聖何其憂聖地烽火幾時休

### 仲夏多彩 七句

繡球紫陽花街角路端恣意開  
帶露紫陽花潑彩染醉夏時風  
楚楚七彩球虹霞翻作紫陽花  
玫瑰嬌欲滴綠柳送來一窗風  
天地精粹凝土盆瓜綠番茄紅  
籐蔓緣籬舒展豆莢串串水靈  
七夕挑花燈乞巧許願夜星空

### 雲 十一句

浮雲掠去八月風金蟬噪不停  
烏雲馱來雷陣雨洗浣草木新  
驟雨乍晴天際美碧空架彩橋  
長空雲朵十八變白狗逐羊群  
萬里碧空藍欲滴一抹飛機雲  
鷄犬沉眠山巒遠彎月雲遮面  
暑熱蒸騰氣流滯青萍起風雲  
風雲送來及時雨新涼喜稻稷  
八月哀魂泣焦土黑雨蘑菇雲  
寒笛低鳴向天祭青雲走哀魂  
濃綠戀夏不知時秋雨送新涼



漢俳 十則

立 春 五則

雪融冰水流  
新年喜盈立春頭  
澄空玉月鈎

月鈎映春水  
新芽破土寸草暉  
虬枝俏紅梅

紅梅報春到  
草木復蘇爭夕朝  
汀州涌春潮

春潮滿平湖  
弱柳扶風送遠舟  
游子望鄉愁

鄉愁逢佳節  
舉頭酌觴邀明月  
春意織小闕

立 秋 五則

暑伏濡滯長  
不覺荷風皺池塘  
登秋吹新涼

新涼絲絲風  
蟬鳴鴉啼碧玉空  
銀花蕎麥壟

麥壟浪疊浪  
雷雨初霽流霞光  
遠山染微黃

微黃桐枝搖  
一葉階前報秋到  
銀川架鵲橋

鵲橋載塵夢  
安得疫寧戰火停  
合掌祈和平

華 純 1952 年生 東京都

汉俳 十三首

白絮天上降  
雪深不见夜归人  
门前路灯黄

梅自苦寒生  
一发暗香款款来  
便有春心动

池上飘柳絮  
谷雨歇停一隙入  
斜插非洲菊

浮世古今隔  
一代风流歌麻吕  
忌日无香客

吴服履平沙  
友人相约来寒舍  
煮鼎伺新茶

素手插禾秧  
田畴何时熟青黄  
相见问农桑

不信韶华老  
疫情步步退寂巷  
瓷器插芍药

夏至撑雨伞  
道是无晴却有晴  
吉野朦胧花

青森睡魔祭  
火龙燿燿荡昏浊  
钟馗惊天地

日鼓蝉时雨  
噪音浑似交响曲  
伏暑独高枝

火树腾空起  
烟花并作霓裳舞  
邀我绿仙子

斑尾高原夏令营

京胡悠悠长  
新知旧雨台下坐  
琵琶弦弦响

煌煌中秋月  
人间尝尽离别苦  
凝噎朝天阙

竹田憲生 1960年生 東京都

和漢兩詠 八句八首

風薫る公園口の石人像  
風和日麗乎 / 公園大門有一座 / 石人雕像歟

万物の息の濃くして夏立ちぬ  
萬物 / 呼吸濃 / 立夏

谷あいへ連れ立つ客に山装う  
溪谷一条路 / 三三兩兩聊天走 / 看山坡化粧

沛然と黒雲湧きて雷雨急  
黒雲涌滾滾 / 雷雨急忽忽

我は誰そ四十光年玄の玄  
我究竟是誰 / 漸到達四十光年 / 遙望玄之玄

法要の読経朗たり木下闇  
法事讀經朗朗 / 周圍林樹鬱蒼

花うばらランチの後の午睡かな  
玫瑰花圍牆 / 午餐快樂就打睡 / 夢中再次嘗

雨上がりさかしまに映ゆ若みどり  
雨停 / 反倒照 / 嫩綠

王 岩 1961 年生 名古屋市

自句自譯 四十句

春

梅挿すや清貧しよ ぼこに処すほご反古の中  
甘處清貧堆故紙，青瓷瓶插一枝春。

自転車でそよ風を漕ぐ花吹雪  
落英似雪繽紛下，腳踏微風走單車。

柳絮飛ぶ北京の空の青さかな  
柳絮隨風舞，北京空碧青。

平成の後姿や花吹雪  
平成背影悠然去，似雪落櫻春暮時。

注：平成 日本元号之一。明仁（第 125 代天皇）在位之間的  
1989 年 1 月 8 号至 2019 年 4 月 30 号。

春塵や歲月語る蓄音機  
留聲機上春塵厚，似說悠悠歲月長。

清水孝之先生を悼む  
師な逝きそひたむきに啼くこの雉子

悼清水孝之先生  
恩師莫要登蓮界，切切啼聲雉子悲。

注：清水孝之（1918 年 11 月 5 日－1994 年 3 月 1 日）日本文学  
研究家著書『蕪村の芸術』、『与謝蕪村集』、『与謝蕪村之鑑賞と批評』、  
『蕪村之遠近法』、『追跡・三浦樗良』等。

軋みゆく電車の旅路春の雪  
電車旅路嘎吱響，春雪紛飛向遠方。

三月や揚州夢む旅枕  
又是煙花三月好，漫漫逆旅夢揚州。

桃の村鶏犬の声相聞ゆ  
桃花村落紅雲下，雞犬相聞空碧中。

息子の大学入試 五句の其一  
燦々と輝く光り合格す

小児高考五句其一  
陽光燦爛輝相映，金榜題名五色春。

## 夏

名古屋大学の東山キャンパスに郁達夫の文学碑あり  
さつき雨『沉淪』の碑を濡らしけり

名古屋大學東山校園有郁達夫『沉淪』文學碑  
黃梅時節紛紛雨，靜潤『沉淪』文學碑。

注：『沉淪』文學碑 1998年、第八高等学校創立90周年之際、  
建於名古屋大学豊田講堂東側。

雲根を枕に寝るや夏山家  
頭枕雲根臥，山家足夏涼。

舟遊び嬌声上がる水飛沫  
忽作嬌聲佳麗客，遊船水沫濺飛花

ハンモック揺るる漣母恋し  
思念阿媽鄉国遠，吊床搖蕩起漣漪。

白服の母長城になびきをり  
白衫慈母長城上，身影斜横烈日中。

夏木立風雅を秘める金福寺  
風雅秘藏金福寺，森森夏木綠蔭濃。

注 金福寺位於京都市左京區一乗寺才形町，為臨濟宗南禪寺派寺院，  
山號佛日山。寺院境內有芭蕉庵，蕉村墓。

湯島聖堂

匂ひ立つ楷樹の若葉孔子像

湯島聖堂

蔥龍楷樹參天立，孔子像旁新葉香。

水音も暮れゆく頃の蓴舟  
水聲亦向桑榆晚，蓴菜舟行暮色中。

月涼し川原の人語更けにけり  
夏月玲瓏涼意滿，川原人語夜深沉。

父の無き父の日寂しかりにけり  
所天不在父親節，孤影嘆伶仃。

## 秋

カンナ燃ゆ佳人の朱唇大寫し  
佳麗朱唇成特寫，花開似火美人蕉。

巳亥舊曆 8月4日 旅順口にて  
砲口に鳩の姿や空澄める

己亥舊曆 8月4日 于旅順口  
砲口悠然蹲白鴿，秋空澄淨好山河。

太平の国の首途<sup>かどで</sup>や敗戦日  
戦敗之時非末日，太平国度始今朝。

もののふの血潮と見ゆる曼珠沙華  
宛如武士腥紅血，原上風搖彼岸花。

軒先は明るむ景色唐辛子  
檐前光景亮，串串掛蕃椒。

稲妻や荊軻の投げし七首か  
疑是荊軻投七首，電光一道裂蒼穹。

秋分に幾度逢ふや旅枕  
客路秋分逢幾度，郷思夢裡月華清。

菊の香や東籬の詩を口ずさむ  
瓶裡菊花香四溢，東籬詩句興來吟。

豊年を吊して薫る軒の下  
農舎果疏香四溢，屋檐成串曬豊年。

蓼科の秋小津偲ぶ無芸莊  
蓼科今日秋光好，無藝莊中憶小津。

注：無藝莊 位於蓼科。小津安二郎記念館無藝莊。

## 冬

故郷の事語らふか雪達磨  
與君可説家山事，寂寞雪人聲息無。

アルバムを捲れば憶ふ壁炉哉  
影集頻翻思過往，壁爐火暖映無眠。

雪達磨作らうと子のはしゃぎ声  
愛子歡聲起，同來堆雪人。

客中の小寒又も巡り来し  
客裡光陰促，小寒今又來。

有馬朗人先生を悼む  
朗らかに笑ひし人や冬霞  
悼有馬朗人先生  
朗聲大笑人乘鶴，冬季雲霞日影傾。

あら嬉し春遠からじけふ冬至  
大地春回焉會遠？今朝冬至盡開顏。

哭志剛  
友の訃や銀杏落葉の散り急ぎ  
哭志剛  
友朋訃告來何急，銀杏飄零落葉黃。

鞘走る劔は霜を照らしけり  
出鞘冰鋒驚鬼魅，鏗鏘寶劍映寒霜。

名古屋市博物館にて謝寅「夜色樓臺雪萬家」圖を觀る  
家並みや火影の愛（は）しき雪の中

於名古屋市博物館觀謝寅「夜色樓臺雪萬家」圖  
屋檐櫺比彤雲下，燈影相親白雪中。

小雪や朝けぶり立つ千年屋  
小雪侵晨時刻也，千年古宅起炊煙。



塚越義幸 1961年生 埼玉県北葛飾郡

擘歌 五首

雨蕭蕭。黃粱一夢，草木凋。  
近高秋。多多益善，星影流。  
雁來時。柴門風搖，古松枝。  
月如眉。梧竹當窗，更清奇。  
一蟲鳴。安然無恙，誰信聲。

和漢兩詠 五首

早咲きの桜か梅か遠の峯  
遠峯能看早櫻邪老梅邪？

点滴のその一滴や厄払い  
払厄点滴之一滴一滴。

ウイルスを如何に名付けん残り花  
殘紅薄命紫霞興，  
新型病毒是何稱？

遠足も無言で進む二メートル  
踏青四野清。  
社交距離兩公米，  
空歩無歌聲。

新涼をここぞとばかり奪う犬  
新秋朝夕涼。  
狗子此時只氣昂，  
白天復臥床。

### 漢俳 四首

#### 董衣草

盆裏香薰多，  
空濛半濕顏如磨。  
正紫於筑波。

#### 詩星在橫濱相會

橫濱雨氣餐。  
風發談論釀玉盤，  
詩星刮目看。

#### 新秋郊行

一

秋氣各爭奇。  
殘蟬殘蝶去何之，  
茅屋涼透肌。

二

西郊路只平。  
四面野花如白雲，  
無聲夕照明。

和漢連句 歌仙「蜨舟」 竹梵捌

- (發句) 蜨舟鋤簾もて搔く明けの雲 今田菟庵  
(脇句) 衝風海燕來 小畑旭翠  
(第三) 蔵屋敷匂を肴に友呼びて 長谷川破笑  
(第四) 銘々皿は自賛手捻り 野間粗矜  
(第五) 無眠愁月色 王 岩  
(第六) 有菊傍池臺 徐青苹

ウ

- (第一) 書を讀みてふと留まりぬ秋団扇 塚越杉水  
(第二) 美女の謎かけ伏線を解き 竹田竹梵  
(第三) 當見雙眸艶 旭翠  
(第四) 恭迎華燭媒 破笑  
(第五) 荷車の長持ちの紋抱き茗荷 粗矜  
(第六) 相喚好送陪 菟庵  
(第七) 冬至粥疫鬼を祓う良薬か 岩  
(第八) 蟾光映雪皚 青苹  
(第九) 尾根筋に足跡三筋けもの道 竹梵  
(第十) 轟音と化す裏の溪流 杉水  
(第十一) 爛漫の景は花守ありてこそ 菟庵  
(第十二) 郊游領隊孩 粗矜

ナオ

- (第一) 校庭新草青 青苹  
(第二) 廟宇舊牆灰 岩  
(第三) 安土城遣らずの雨に逃げ場無く 破笑  
(第四) 軒借る縁が一夜添う身に 粗矜

- |       |                 |    |
|-------|-----------------|----|
| (第五)  | 茶味晨鐘裏           | 杉水 |
| (第六)  | 談叢斜日隈           | 竹梵 |
| (第七)  | 翠陰に深紅のジャガー停め置きて | 菟庵 |
| (第八)  | パレットのごと麦秋の丘     | 岩  |
| (第九)  | 父祖の地を戦火の渦で後にする  | 青苹 |
| (第十)  | 志氣不能摧           | 旭翠 |
| (第十一) | 李太白酒杯に揺れる月を賞で   | 破笑 |
| (第十二) | 促織應文魁           | 竹梵 |

ノウ

- |      |                 |    |
|------|-----------------|----|
| (第一) | 侘び住まい敬老の日はお洒落して | 粗矜 |
| (第二) | 案几故紙堆           | 青苹 |
| (第三) | 征帆夕照邊           | 岩  |
| (第四) | 春の息吹が島々に寄せ      | 菟庵 |
| (第五) | 自転車で岬を巡る花便り     | 杉水 |
| (擧句) | 壟畝隔浮埃           | 旭翠 |

満尾

令和4年5月1日起首、令和4年6月17日満尾

注：漢句注釈

- |          |                       |            |
|----------|-----------------------|------------|
| ウ (第八)   | 蟾光：月の光の異名             | 雪皚：雪が白い    |
| ウ (第十二)  | 郊游：遠足                 |            |
|          | 領隊孩：一隊の子供を引率する        |            |
| ナオ (第六)  | 談叢：人が集まって話し、話題が尽きない様子 |            |
| ナオ (第十二) | 促織：コオロギの異名 (綴れさせ)     |            |
|          | 文魁：文学の巨頭              |            |
| ノウ (第二)  | 案几：作業机                | 故紙：ホゴとなった紙 |
| ノウ (擧句)  | 壟畝：畦塗                 | 浮埃：水に浮かぶ塵埃 |

## 中国漢詩人との交流と和漢連句

竹田憲生

私はもともと俳句や連句を作っていて、漢詩との接点は中高の国語の授業くらいだったが、中華圏で勤務する機会があり、現地のビジネスマンから漢詩入りの書画の贈答を受けたりして、漢詩もいいものだな、くらいに思っていた。転機となったのは、今を遡ること10年前。日中国交回復40周年の行事として、日本連句協会の人々と北京を訪れ、劉徳有先生や林岫女士を中心とする中国の漢詩人の方々と漢俳と連句の交流会に参加してからである。帰国してから、自身でも漢俳を詠んでみたいと思うようになり、日本で漢俳を活動の一つに取り入れている漢詩結社を探して、葛飾吟社に辿り着いた次第である。葛飾吟社では、月例会にて石倉さんを中心に様々な詩詞に関する丁寧な指導を頂き、現在に至る。思えばあれから丁度10年経ち、自分史を辿る様な形で、このような小論を書く機会を頂いて感慨深いものがある。

その後、葛飾吟社の活動を通じて、多士済々な中華圏の詩人の方々と交流することができるようになった。漢俳に関しては、ネットを通じて中国大陸のみならず、東南アジア各国やニュージーランドを含めた漢詩人との交流があり、漢俳の国際的な拡がりを感じた。厦門詩詞学会の面々との漢詩を通じた交流もあった。漢詩による応酬は非常に興味深かったが、こちらはとにかく合わせるのに青色吐息。厦門の漢詩人から返されてくる詩や詞の格調の高さと巧みさには感激、後から何度か詩作を読み直したりして、非常に勉強になった。

漢詩と俳句・連句の接点となるような交流会にも積極的に参加するようになった。世界俳句協会の世界大会では、漢語俳句のセッションにも参加。京都と名古屋でそれぞれ開催された「国民文化祭連句の祭典」では、鄭民欽先生を招聘し、日本語・英語・中国語・スペイン語による4ヶ国連句の機会をアレンジすることができた。本年の葛飾吟社の活動では、同人の金中先生にお願いして「和歌のAIによる中国語訳」のお話を、また同人で蕪村の専門家である王岩先生から、ご自身の来日体験を基にした句作と漢語訳に関するお話を伺う機会を得た。中国の詩人たちとの、このよう

に多彩な交流の機会を持つことができたのも、ひとえに葛飾吟社で幅の広い知遇を得ることができたからだ、感謝している。

最後に、本年5月～6月にかけて葛飾吟社有志にて巻き上げた和漢連句につき、紹介したい。連句会の参加者は、徐依萃さん、王岩さん、長谷川会長、今田さん、小畑さん、野間さん、塚越さんに竹田の7名。皆さん葛飾吟社の会友なので、漢詩の素養があることを前提にして、五言からなる漢句と和歌でいうところの上句と下句を取り混ぜて、順次36句の句を繋いでいく。和漢連句では、日本の連句の規則（式目）に加えて、漢句では以下の様な漢句ならではの規則（式目）が要請されるので、作り手としてはなかなか気が抜けない。

- ① 偶数番の付順となる漢句（「偶数句」）につき、脇句と同韻で脚韻を踏む
- ② 二四不同の平仄を適用
- ③ 「奇数句」に漢句を付けた場合は対句表現
- ④ 奇数句—偶数句で付けた場合は反法、偶数句—奇数句で付けた場合は、粘法を適用、等々

和漢連句は、中国の聯句と日本の連歌が結合してできた文芸形態。平安末期から鎌倉中期にかけて盛んに行われた連歌に漢詩が結び付いて和漢連句が生まれた。「菟玖波(つくば)集」に作品が編纂され、南北朝・室町時代に五山の詩僧と公家、連歌師が一座しての興行が盛んになる。江戸時代まで広く流布したという。現代では廃れてしまった和漢連句を、今回葛飾吟社の場で、日中両国の詩人が楽しむ機会は意義深くもあり、また楽しい経験でもあった。

現在、中国大陸を中心とする中華圏の人々と日本人だけが漢字を使っている。中国語が母語でない日本人も学校の教育課程でまがりなりにも漢詩に触れた経験がある。漢字を使った漢詩による交流は、将来的にも大きな可能性を秘めており、そこに国の壁を越えた文化交流の契機がある。近年は、ソーシャルネットワークサービス（SNS）の発達や手軽なWEB会議システムの進化により、瞬時に多国間で交流が出来るようにもなった。日中国交回復50周年を迎えるにあたり、今後とも漢詩を通じた日中交流の機会を増やしていきたいと決意する次第である。

## 芭蕉と漢詩—漢詩作法書との関わり—

塚越義幸

松尾芭蕉（1644～1694）は俳聖といわれ、俳諧（現在の連句）の達人であったことは周知の通りである。その芭蕉の魅力は、俳諧に一意専心、まさに一筋でブレがなかった点であろう。その分、俳諧以外の作品は殆ど残っていない。漢詩（当時は詩）に至っては、絶句や律詩などは現存しない。（わずかに和漢聯句の漢句付句が二句残っているのみ）しかし、彼は漢詩に興味が無かったわけではなく、むしろ積極的に漢詩を俳諧作品に投影させていたのである。

例えば、『おくのほそ道』の平泉の章には、

三代の栄耀一睡の中にして、大門の跡ハ一里こなたに有。秀衡が跡ハ田野に成て、金鷄山のミ形を残す。先高館にのぼれば、北上川南部より流るる大河也。衣川ハ和泉が城をめぐりて、高館の下にて大河に落入。泰衡等が旧跡ハ、衣が関を隔て南部口をさし堅め、夷を防ぐとみえたり。偕も義臣すぐつて此城にこもり、功名一時の叢となる。国破れて山河あり、城春にして草青みたりと笠打敷て、時のうつるまで泪を落し侍りぬ。

夏草や兵どもが夢の跡

とあるが、ここは芭蕉が高館に登って、藤原三代の繁栄の跡を眺めて傍線部のような感慨に耽った部分である。この傍線部は杜甫の五言律詩「春望」の首聯を引用したことは明白であるが、この「春望」については、当時の漢詩作法書『詩法授幼抄』（延宝七年榊原篁洲）巻二の「続腰格」に以下のように示されている。

春望

杜甫

國破山河在（国破れて山河在り）

城春草木深（城春にして草木深し）

此二句國ハ社稷破レテ只タ山河アリ。城ハ春ナレドモ人民亡テ、只草木ノミ深シ。 是下ノ二聯ヲ起ス。

感時花濺淚（時に感じては花にも涙を濺ぎ）

恨別鳥驚心（別れを恨では鳥にも心を驚す）

時ヲ感スル故ニ、花ノ美ナルヲ見テモ涙ヲ濺キ、別ヲ恨ユヘニ鳥ノ声ノヲモシロキ ヲ聞テ心ヲ驚也

烽火連三月（烽火三月に連なり）

家書抵万金（家書万金に抵る）

戦止マズシテ、カナタコナタニ狼烟ヲ挙ル事三月マテニ至レリ。是レ時ノ乱テ感スヘキ也。第三句ニ応ス。故郷ヨリノ書ハ万金ニアタルホトタイセツニテ消息ヲ聞キ難シ。是レ別ヲ恨ル所以ナリ。第四句ニ応フ。

白髮搔更短（白髮搔て更に短く）

渾欲不勝簪（渾て簪に勝へざらんと欲す）

髪モトヨリ白シ。今乱ヲ歴、時ヲ感スルヲ以ヒタト髪ヲ搔ホトニ、イヨク短クナリテ、簪ニカケテ結カタキトナリ。

引用された首聯については、傍線部のように解釈されているが、この解釈は、当時よく読まれ芭蕉も目にした可能性の高い杜甫の律詩選集である『杜律集解』（明 邵傳）の注を踏まえ、「国というものは社稷（国を守る神）がその役目を果たさなくなった結果、山河だけが存在し、城（町）は春なのに人がいなくなって、草木のみが深く茂っている」としている。つまり自然が繁栄していることは、人間界の崩壊を意味しているということになる。とすると、平泉の高館からの景観は、草木が青々茂っているが、それはかつての藤原三代の繁栄がまさに夢のようで、今は空しくその跡しか残っていないとの無常観を表現していると言えよう。

一方同じく漢詩作法書の『詩法正義』には、

少陵ガ詩ニ曰ク、国破テ山河在リ、城春ニシテ草木深シ……

皆老杜ガ警句ナリ、克ク此等ノ句法ニ参ジテ、杜詩ノ妙処ヲ自知スベシ。

とあって、「春望」の首聯が杜甫の警句であって、その妙趣を認識すべきことを述べている。

「春望」がこれらの漢詩作法書に載っており、その知名度の高さが伺えるが、特にその首聯がこの詩の眼目とされていたことが、芭蕉にも認知されていた可能性もある。

このように、芭蕉は漢詩を実作としては残していないが、当時刊行された作法書を読みながら漢詩を学び、その解釈をも踏まえ、そこから詩句を引用して作品に投影させていたことが窺える。芭蕉にとって漢詩とは、まさに俳諧の題材だったのである。



## 田能村竹田『填譜図譜』談義 秋山忠彌

書齋の椅子に腰かけるや、すぐ目に入る版本がある。江戸後期の文人画家田能村竹田の『填譜図譜』（上下二巻、以下「図譜」と記す）である。今でこそわが書架の貴重書になっているが、元の持ち主は葛飾吟社理事小畑旭翠氏であった。先年のこと、氏が蔵書を整理して、図書館などに寄贈された折、思いがけなくも小生に、この書冊をご恵与くださった。わが国で初めての填詞の作法を説いた「図譜」には、かねがね強い関心をもっていたので有難く頂戴した。

「図譜」は、二千数百伝わるといわれる詞牌のなかから、文字の少ない詞牌の小令を百十七選び、その詞牌名それぞれに曲調を図示し、実作例としての一作品に作者名と時代を付記している。

まず時代は、予想どおり宋代が最も多い。四十八作品で全体の半数近くを占め首位である。次位は五代の二十五作品、三位は清代二十四作品で、これに唐代の九作品、元代の七作品、明代の六作品が続く。

次に詞人では、宋代の周邦彦が九作品で、群を抜く。これに同じく宋代の晏殊と蘇軾が共に三作品で続く。そして二作品に五代の韋莊と宋代の陸游および李清照がいる。一作品の詞人名は省略するが、嬉しいのは私が最も愛好する詞牌長相思の実作例に、私が最も親愛する詩人白楽天の作品を選んでいる。

そもそも、竹田がこの「図譜」を著した動機、意図は何だったのか。「図譜」のなかで記している。漢詩がかかってない隆盛のなかで、「独り填詞のみ寥として聞ゆるなし」と、まずは、詞の不振を嘆き、その理由として、三点あげている。「一つには句に長短あると、二つには韻に平仄を用ゆると」そして「三つには真に風流を好む人少なるによる」と断じた。さらに竹田は、「余竊に是を傷み、是を惜み、此の書を編みて以て四方風流の人を待つ」と訴えた。

竹田には永く待たせてしまった。「図譜」刊行の文化三年（1806年）から百八十六年後の平成四年（1992年）に、葛飾吟社創立者で現顧問の中山逍雀氏が、「漢詩講座・詩詞譜」（後に『漢詩詞講座之八・填詞』として増補改訂）を公刊した。本書は、小令だけでなく字数の多い中調、長調をも収める大著である。いま「梨雲」

誌に見られる華々しい填詞の隆盛を、竹田が知ったらばいかばかり驚嘆驚喜したのであろう。

ちなみに、逍雀顧問の増補改訂版『填詞』に収載した詞譜「長相思」の実作例は、嬉しいことに竹田の「凶譜」と同じ白楽天の作品ではないか。その長相思「錢唐」を次に記す。

汴水流，泗水流，流到瓜州古渡頭。吳山點點愁。  
思悠悠，恨悠悠，恨到歸時方始休。月明人倚樓。

竹田が「凶譜」を出版した翌年秋のことである。竹田は、同じ文人画家の浦上玉堂と一か月余りにわたって寝食を共にした。時に絵筆を揮い、時には酒杯を重ねては興に乗った竹田が詞を詠めば、琴の名手でもある玉堂がその詞に調べをつけるのだった。その時の長相思が竹田の填詞集「竹田布衣詞」に収められている。その長相思、題して「本意」。

紫燕飛。白燕飛。飛上紗窗越女機。雙雙無別離。  
天不非。人不非。只是因儂情思微。檀郎未得知。

玉堂と長相思のつながりをもう一つ、池澤一郎氏の論稿「玉堂の詩と絵画」(『江戸文学』十七号所載・1997年)によって知った。玉堂は「園中書画幅」と呼ばれる作中に、長相思一詞を書き記している。玉堂もこの詞牌を好んだのだろうか。ちなみに次の長相思がそれである。

紅滿枝。綠滿枝。宿雨慳慳睡起遲。閑庭花影移。  
憶歸期。數歸期。夢見雖多相見稀。相逢知幾時。

竹田に、与謝蕪村についての評語がある。見聞随想録『屠赤瑣瑣録』に記している。

「近来蕪村の画亦妙品、其中能く出来たる山水などは、近来前後に並ぶ人なし。存生の間はさのみ画名の高からざりしは、俳諧に掩はれたると、真の眼目ある人の世になきとによるべし」と絶賛している。

蕪村の画趣はとまれ、蕪村の俳趣は填詞の情趣に通じるのではなかろうか。漢詩文の素養のある蕪村のことだ。填詞も作っていると思っている。誰方かご教示を願っております。

## 葛飾吟社と詞曲と短詩

石倉秀樹

中国の詩人は、詩と詞曲を詩の両輪として伝統詩の創作に励んでいる。しかし、日本では、詩（絶句、律詩、古詩）、それも七言絶句しか詠まない詩人、詩社が多い。

これは、何かをなす以上、きちんと仕上げなければならない、という日本の文化、日本人の気質によるところが大きいと思う。日本の漢詩作りは、詩本体に加え、きちんとした読み下しの腕を磨くことにも力が注がれてきた。読み下しは、漢文の翻訳に他ならない。しかし、その格調も重視され、読み下しが不調である場合には詩の本体を見直すなどの推敲も行われてきた。この漢和一体の美意識が、日本の漢詩の伝統であるともいえる。

しかし、この伝統は、いわゆる漢文調と呼ばれる古文の素養も要求するものであり、漢詩作りと読み下しの二兎を追えば、なかなか前に進めない、ということが起こる。読み下し重視の詩作りは、漢文調古文の教育が満足にできなくなった近世においては、詩作りに志を抱く門徒をいつまでも門前に留めおくことにもなりかねない。詩作りは七言絶句が基本であるということが説かれ、多くの詩人が七言絶句ばかりを詠んでいる、という現実がある。

読み下しは本来翻訳であり、詩趣をつかむ手段である。詩趣がつかめれば詩が味読できる。この観点からは、漢文読み下しはまともに学習せずとも、中国語を学んでさえいれば、詩詞を味読できるし、詩詞を詠むことを楽しむことができる。現代では、中国語を学ぶ人が多い。中国語を学ぶ人には、作詩にあたって流麗な読み下し文に展開できるかどうかを考える必要はなく、平仄があっているかどうか、措辞が中国人に通じるかどうかだけを考えればよい。

詩の音数は、読み下しによって水増しされる。原文である詩と漢文調の音数の不一致。それが、読み下し重視の日本の詩人が、なかなか詞曲に進めない原因となっているのではないか。絶句では一句の音数が固定されており、変化するのは読み下しだけである。しかし、詞曲では、句に長短があり、詩本体の音数と読み下しの音数が、筆の進みとともに変動する。原文と読み下しの二兎を追う作者は、詞譜・曲譜を進む追尾のペースがなかなかつかめない。

一方、中国語に熟達していればどうか。中国語を習得している葛飾吟社の会員は、詞曲の決まり事をどこまで学習しているのかはともかく、詞譜、曲譜の平仄を追いながら自分の想いを記すこと

ができる。曲の散曲や帶過曲はまだしも、数百字に及ぶ套数を詠む者もいる。

葛飾吟社では、曲はともかく詞は、多くの会員が詩と同様に詠むことを楽しんでいる。その完成度はどうか。私たちは読者の批評に黙って耐えるしかないが、やらなければ始まらないということ、私たちは承知している。

このような次第で、葛飾吟社は、詩だけでなく詞曲にもチャレンジしてきたが、漢俳など 20 世紀に誕生した新短詩にも、積極的に取り組んでいる。

私たちの新短詩への取り組みは、葛飾吟社の創設者中山栄造が日本の伝統詩歌に対応する漢語短詩を提唱したことに始まる。中山は、俳句に対しては漢語三四三に詠む擘歌を提唱し、川柳に対しては三四三の坤歌、短歌に対しては三四三四四の瀛歌、さらには都々逸に対応するものとして四四四三に詠む偲歌を提唱した。

これらの中山短詩は、林林先生を始めとする中国の漢俳詩人の注目を浴び、1997 年 9 月、日中国交正常化 25 周年記念行事として、葛飾吟社は、中日友好協会並びに中華詩詞学会の招聘を受け、北京にて「中山栄造新短詩研討会」を共催した。2000 年 9 月には、中華詩詞学会・中日歌俳研究中心と「迎接新世紀中日短詩交流会」を北京で共催、また、2004 年 9 月には「2004 年中日短詩研討会」が北京で開催された。さらに、2005 年 3 月には、北京で漢俳学会成立大会が開催され、中山栄造ほか招聘され参加した。

日本の俳句に想を得て始まった漢俳は大きな成功を収め、今や漢字文化圏の共通短詩として五大陸で詠まれている。一方で、俳句の持ち味を生かす漢語短詩の新しい試みも様々な形で進められている。この漢俳とその他の漢語俳句の併存は、日本の場合、本家争いになりかねないが、漢語俳句の場合は、呉越同舟、議論もするが共に酒も酌む、そういう創作環境にある。

葛飾吟社が生んだ新短詩として、中山栄造四短詩の他に、王岩は、まず日本語で俳句を詠みそれを漢語に翻訳するという自句自譯俳句を考案し、徐依萃は、十二字を一気呵成に詠む漢語俳句（一行詩）を提唱している。そして、筆者は、読み下せば日本語五七五になる七言俳句を試みている。これらはいずれも、漢俳の詩境が日本の俳句のそれよりもずっと長いことを批判している、といえはいえるのだが、王岩も徐依萃も私も、時に応じて、漢俳も詠んでいる。

多様な詩体が楽しめる、それが漢語詩の醍醐味であると思う。

## 編集後記

葛飾吟社理事・講師 石倉秀樹

葛飾吟社は1980年に中山栄造によって創設され、漢詩詞を橋梁として漢字文化圏との文化交流を目指してきた。機関紙『梨雲』は2001年4月に創刊号を刊行、本号で179号となるが、この間に中国から240名超の方々、日本にいる華人10名弱の方々の寄稿を仰いできた。本号では、中国から24名、日本の華人8名の方々に寄稿していただいた。中国の詩人、日本の華人への寄稿の働きかけをしていただいた林岫先生、金中先生、王岩先生、徐依苹先生に厚く御礼申し上げます。

一方、日本人の寄稿は16名。特集号発刊の企画を起ち上げたのが7月、寄稿要請の期間が短かったこともさることながら、様々な躊躇があり、日本の漢詩壇に広く働きかけることができなかった。

様々な躊躇、筆者の場合は、日本の漢詩人とは同道しにくいという思いがある。日本の漢詩壇には、詩は唐宋に学ぶべきとする人が多く、中国の漢詩は文化大革命で滅亡した、現代中国の詩に学ぶべきものはない、そう語る漢詩人の話を耳にしたことさえある。文化大革命終結宣言から45年、今の中国の詩壇はどうだろう。文化大革命の間、詩人たちは息を潜めて隠れ棲んでいた、そういうことがあったかも知れない。また、大革命後に生まれた赤ん坊が詩人になるのに、何十年もの歳月はかからない。そこで、今日の中国詩壇が、百花繚乱の活況を呈することに不思議はない。

しかし、唐宋に範を求めべきとする日本の漢詩人が、現代中国の詩詞になじみにくい、ということはあるだろう。日本の漢詩人の多くは、母語ではない言語空間で作詩をしている。母語ではない言語空間では、言葉を通して情理に触れることが難しく、学習で習得した決りごとに捉われがちになる。唐宋が最高峰だと学習すれば、唐宋の措辞を絶対として作詩することになる。

日本の漢詩人の多くは、そういう唐宋主義のもとに置かれているように思う。それは、自らを井戸の底に置くようなものである。日本で漢詩が盛んだった平安時代、当時の日本の漢詩人は、われわれと同様に、李白や杜甫や白居易の詩に多くを学んでいたが、李白や杜甫や白居易も、私たちの祖先にとっては、同時代人だったことを忘れてはならない。

『梨雲』は微力ながらも、中国の詩人の今を、日本の同好の皆さんに、一部なりとも伝えることができればと願っている。

なお、本号の詩詞作品の字体は、Font としては SimSun を用い、寄稿者の原稿を尊重しつつ、中国からの寄稿は簡体字、日本人の寄稿は旧字体、日本に住む華人の寄稿は繁体字とすることを原則としている。日本の旧字体と中国の繁体字は必ずしも同じではないなど、表記の多少の乱れはご寛恕ください。